

本社史はオンデマンド出版で製作しました。

なお、小社のホームページ<http://www.snews.net/>でも閲覧することができます。
このPDFファイルを許可無く配布するなどを禁じます。

出版ニュース社の五十年（PDF版）

二〇〇一年六月二〇日

発行者——清田義昭

発行所——株式会社出版ニュース社

東京都千代田区神田神保町二 四〇 七

電話〇三(三)三六一二〇七六・七七

印刷・製本——株式会社デジタルパブリッシング サービス

造本——島津デザイン事務所 + E D ・ S T U D I O

年 表

出版界

年表 出版界

【1949(昭和24)年】

- 3.26. 日本出版配給株式会社、閉鎖機関に指定。
- 4.27. 日本自由出版協会・日本出版連盟解散、全国出版協会設立。
- 5.24. 出版法廃止。
- 9. - 日配閉鎖後の新取次会社発足。大阪屋(6)、日本出版販売(10)、東京出版販売(現・トーハン)(19)、日本教科図書販売(現・日教販)(20)
- 12. - 不況深刻化、戦後創業出版社の倒産、休業続出。

*ベスト3 永井隆著『この子を残して』(講談社)、ミッチェル著『風と共に去りぬ』(三笠書房)、小泉信三著『共産主義批判の常識』(新潮社)

*10大ニュース 日配閉鎖機関に指定、新取次会社発足、自由出協解散、全国出協誕生、天皇の著書『相模湾産後鰐類図譜』刊行、出版界代表渡米、著作権審議会設立、日配売掛代金支払延期、業界に衝撃、円本復活、記録文学作品続出、洋書輸入再開。

【1950(昭和25)年】

- 1.1. 洋書輸入、制限解除。用紙の価格統制一部解除。
- 2.27. 全国学校図書館協議会設立。
- 4.25. 第1回雑誌祭開催。
~5.10.
- 4.30. 図書館法公布。
- 5.19. 岡山県議会、「図書による青少年の保護育成に関する条例」可決(初の

有害図書排除条例)

- 5. - 『角川文庫』『角川新書』創刊。
- 6.26. 『チャタレイ夫人の恋人』(小山書店)わいせつ文書として押収。
- 8.1. 閉鎖機関日配、完全閉鎖状態に。
- 8.25. 出版取次懇和会設立。
- 9.1. 児童誌の発売調整のため12月号と新年号中間に新春特別号発行を決定。
- 10.13. 追放解除発表、言論出版関係21名。
- 10. - 経営難で出版社多数が倒産、ゾッキ本氾濫。

*ベスト3 谷崎潤一郎著『細雪』(中央公論社)、辻政信著『潜行三千里』(毎日新聞社)、ミッチェル著『風と共に去りぬ』(三笠書房)

*10大ニュース 図書館法実施、『チャタレイ夫人の恋人』の起訴、雑誌の休廃刊続く、教科書無料配布法、国会へ、出版関係追放者、多数解除、著作権法改正問題おこる、翻訳もの、文庫ものの売行好調、外国書輸入全面許可、特價販売、金詰まりの深刻化反映、児童雑誌、調整号発行。

【1951(昭和26)年】

- 4.1. 出版取次懇和会、国立国会図書館納本事務代行を開始。東販、日販が半年交代で集荷担当。
- 4.30. 国鉄、雑誌付録の玩具・文具類の特運除外を発表。
- 5.27. 雑誌祭、雑誌週間と改称、開催。
~6.9.
- 6.20. 取次懇和会、取次会社の週休制を8月から実施と決定。
- 7.30. わいせつ出版物の取締り強化、行きすぎ事件続出で出版界代表が陳情。

- 11.1. 国鉄運賃値上げ、雑誌33.3%、書籍32%。
 12.28. 雑誌の地方定価実施きまる。27.1.16.から。出版物の二重定価制(都内定価、地方定価)。

*ベスト3 笠信太郎著『ものの方見について』(河出書房) 波多野勤子著『少年期』(光文社) 森正蔵著『戦後風雲録』(鱒書房)

*10大ニュース 新聞、出版用紙の統制全面撤廃、チャタレイ裁判開廷、国鉄運賃値上げに業界反対運動、出版物に二重定価の方針、不況反映、文庫本時代を来す、肉体文学衰退、時代小説台頭、古典ものの復活、源氏物語続出、ワイセツ出版物取締り処分により地方書店被害、洋紙物品税反対運動起こる、国立国会図書館納本促進のため業界協力。

【1952(昭和27)年】

- 1.16. 出版物の都内・地方二重定価制実施。
 7.21. 破壊活動防止法公布。出版社など反対声明。
 7.31. 出版物の事業税免除。
 8.8. 7団体で出版団体連合会(出団連)結成。
 11.20. 婦人雑誌4誌、発売日を前月とするため新年号を発売、調整号として新春号を発売。
 11. - 新潮社『現代世界文学全集』、角川書店『昭和文学全集』刊行開始、文学全集ブーム起こる。

*ベスト3 吉川幸次郎他編『新唐詩選』(岩波書店) 安田徳太郎著『人間の歴史』(2)(光文社) M・ゲイン著『ニッポン日記』(上下)(筑摩書房)。

*10大ニュース 戦後7年にして広島、長崎の原爆写真公開、平和問題中心に総合雑誌活発化、永井荷風、文化勲章、日本、著作物保護に関するベルヌ条約に復帰特例法律で戦時中の制限を加算、独立回復で占領下の内幕もの登場、戦記もの再登場、破防法制定、ワイセツ出版物取締り強化、検閲制度復活に懸念、皇太子に関する出版続出、チャタレイ1審、2審判決、大衆娯楽誌合戦展開、文庫本合戦から全集合戦に移る。

【1953(昭和28)年】

- 1.15. 小売全連、定価一本建(地方定価廃止)と卸正味引下げを要求。
 4.21. 出版団体連合会、第1回出版人懇親会開催、以後、例年の行事(全出版人大会)となる。
 6.3. 出版事業税、非課税範囲拡大。
 8.8. 学校図書館法公布。
 9.1. 独占禁止法一部改正公布。著作物の再販売価格維持契約認可。
 9.18. 出版界の親睦機関日本出版クラブ発足(下中弥三郎)。
 10.29. アジア文化交流出版会(現・出版文化国際交流会)創立。

*ベスト3 アンネ著『光ほのかに』(文藝春秋新社) ポーヴォワール『第二の性』(3)(新潮社) 菊田一夫著『君の名は』(3)(宝文館)

*10大ニュース 異常な全集出版最盛期、学校図書館法成立、出版界動く、新中国関係書刊行、新たな関心呼ぶ、基地問題含めたアメリカ批判書盛ん、スターリン死し、ソ連関係書大いに刊行、松川事件、文化人を動かす、九州水害で巨額の本が被害、岩波文庫25年、講談社45年の功績、全出版人の一大親睦団体成る、アジア文化交流出版会結成。

【1954(昭和29)年】

- 5.13. 地方税法改正公布、出版業非課税に。
- 5.21. 小売全連、運賃諸掛負担問題で実力行使を決議。
- 6.28. 公取委、教科書の売込み競争に関し教科書協会に警告。
- 7.6. 創元社倒産、7.15. 東京創元社再建。
- 7. - 深刻なデフレで出版社の倒産・整理等が続出、処分の特價本、乱売。
- 10.10. 光文社『カッパ・ブックス』創刊。
- 11.25. 工書協、入銀制採用を発表。

*ベスト3 伊藤整著『女性に関する十二章』(中央公論社) ローゼンバーグ夫妻著『愛は死を越えて』(光文社) 三島由紀夫著『潮騒』(新潮社)

* 10大ニュース 伊藤整出版ブーム
新書判の出版盛ん、新書判時代に、週刊雑誌、異常な進出、全集本の流行、個人豪華版にうつる、“目で見る本”の出版、漸次活発化、過剰出版にあえぎ、著名出版社の整理、新発足続出、中国、ソ連の視察、水爆問題等話題呼ぶ、再販売価格維持契約案もめる、
学校図書館法実施、出版界の関心高まる、
図書普及宣伝車4000里を踏破。

【1955(昭和30)年】

- 1.4. 神奈川県、青少年保護育成条例公布、有害図書の販売を規制。各県で条例制定の傾向強まる。
- 1. - 改造社で紛争、9月終結、『改造』2月号で廃刊。
- 5.1. 雑誌にIBMナンバー付記開始。
- 5.16. 出団連、出版倫理化運動実行委員会設置、不良出版物撲滅・良書普及を

声明。

- 6.15. 全国学校図書館協議会と毎日新聞社、青少年読書感想文コンクール創設。
- 11.10. 野間賞出版取次部門設立、第1回受賞者決定。

*ベスト3 佐藤弘人著『はだか隨筆』(中央経済社) 望月衛著『欲望』(光文社) 渡辺一夫著『うらなり抄』(光文社)

* 10大ニュース 廉価新書判空前の氾濫、悪書追放旋風、出版読書界を吹きまくる、憂うべき教科書問題紛糾、大物出版ようやく始める、風雪に耐えて中央公論70周年を迎う、由緒ある『改造』の紛争止まず、あの手この手、取次の雑誌販売攻勢、出版文化普及連盟の編成、日本出版協会のお家騒動、秋の読書界を切りまくった剣豪小説。

【1956(昭和31)年】

- 1.16. 東販、出版科学研究所創設。
- 1.30. 日本雑誌協会設立。
- 2.6. 新潮社、『週刊新潮』創刊、出版社系初の週刊誌。
- 2.17. 『主婦の友』A5判をB5判に、大型化の先べん。
- 3. - 石原慎太郎著『太陽の季節』(新潮社)ベストセラー。
- 4.1. 出団連・取次懇和会・小売全連、連名で定価販売励行の要望書を全国小売書店に発送。
- 6.1. 東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬・茨城・栃木の小売書店、再販売価格維持契約を実施。
- 12.20. 公取委、教科書等の指定に関する運用基準を発表、不正取引禁止、売込み競争規制。

* ベスト3 石原慎太郎著『太陽の季節』(新潮社) フランクル著『夜と霧』(みすず書房) 石川達三著『四十八歳の抵抗』(新潮社)

* 10大ニュース 『太陽の季節』時代を現出、雑誌にクイズ流行、戦後最高の新刊点数、『週刊新潮』の創刊、雑誌特集単行本化、大型化盛ん、探偵小説大いに読まれる、戦記もの戦後最高の刊行点数、再販売価格維持契約実施に入る、国鉄運賃値上げ案に反対、日本雑誌協会設立。

【1957(昭和32)年】

- 1.22. 教科書公正取引協議会設立。
- 2.- 再販契約、北海道を除き全都道府県で実施。
- 3.13. チャタレイ裁判、最高裁上告棄却。訳者・伊藤整、発行者・小山久二郎罰金刑。
- 3.25. 河出書房倒産。
- 3.29. 日本書籍出版協会設立。
- 4.1. 国鉄運賃値上げ。雑誌11.4%、書籍15%。
- 5.4. 光文社 右翼団体の干渉で『三光』を販売中止。
- 10.27. 書籍協会・雑誌協会、連名で『出版倫理綱領』発表。

* ベスト3 原田康子著『挽歌』(東都書房) 三島由紀夫著『美德のよるめき』(新潮社) 田宮虎彦・千代著『愛のかたみ』(光文社)

* 10大ニュース 『挽歌』の記録的売行きとよるめき文学の流行、日本書籍出版協会創立、出版倫理綱領成る、河出書房の倒産は自転車操業の反省を促す、小学館、講談社は学年別雑誌にしのぎを削る、『太陽』『日本』創刊、新読者獲得を競争、豪華本出版と書籍値上がり傾向顕著、国

鉄の運賃値上げに出版業者はその負担に悩む、教科書の売り込み競争に掣肘を加えられる、「岩波文庫」創刊30年。

【1958(昭和33)年】

- 3.15. 出版労働組合懇談会改組、日本出版労働組合協議会結成。
- 4.3. 都内の有力小売書店、悠々会結成。
- 7.4. 文部省の著作権制度調査会、万国著作権条約に基づく©表示の記載方式を確定、翌年1月1日実施。
- 9.9. 公取委、再販励行本部委に委員会規約第11条は独禁法に抵触すると修正申し入れ。
- 11.12. 『週刊明星』皇太子妃内定の記事掲載、新聞協会、協定違反と雑誌協会に抗議。
- 11.19. 地方書店有志により書店新風会結成。
- 11.27. 皇太子妃正式発表、週刊誌いっせいに特集号。

* ベスト3 五味川純平著『人間の条件』(1~6) (三一書房) 石坂洋次郎著『陽のあたる坂道』(講談社) 石川達三著『人間の壁』(前) (新潮社)

* 10大ニュース 年間の話題を独占したベストセラー『人間の条件』、出版社の週刊誌創刊相つぐ、全集出版、秋の出版・読書界をにぎわす、台風22号豪雨をもたらす出版界に被害続出、書籍協会と日本出版協会が『日本読書新聞』の譲渡問題で紛争、平凡社版『世界大百科事典』完成、出版物の国際交流が活発化し東京に大国際図書館展開く、雑誌の国鉄特運規定強化で付録制限、松本清張等による本格的文芸推理作品大いに売れる、曲り角に来た学校図書館に取次会社が充実運動を展開。

【1959(昭和34)年】

- 2.5. 主婦と生活社争議起こる。12.29. 終わる。
- 3.1. 書籍協会・日本図書館協会、文部省の青少年向図書選定制度に反対声明。
- 3.17. 講談社『週刊少年マガジン』、小学館『週刊少年サンデー』同時創刊。
- 4.27. 第1回こどもの読書週間。
~5.10.
- 7.25. 文部省、図書選定制度に代わる図書目録制度試案を提示。9.18. 第1集を発行。出版社登載拒否の声明。
- 9.26. 伊勢湾台風、出版物大被害。
- 10.6. 初の音出誌『KODAMA』AAA創刊(コダマプレス社)
- 11.10. 読書推進運動協議会設立。

*ベスト3 安本末子著『にあんちゃん』(光文社)、清水幾太郎著『論文の書き方』(岩波書店)、三島由紀夫著『不道德教育講座』(中央公論社)

*10大ニュース 月刊雑誌をしのぐ週刊誌ブーム、雑誌界の革命的花形、音の出る雑誌創刊、文部省が青少年向け図書選定制に乗り出す、日本史ブーム、産業書ブーム、伊勢湾台風で書店に甚大な被害、長野で本を読む母親の全国大会、10歳の少女の日記『にあんちゃん』ベストワン、書籍運賃負担込み正味制実施、読書推進運動協議会結成、主婦と生活社、労使紛争、長期スト。

【1960(昭和35)年】

- 4.7. 警視庁、サド『続悪徳の栄え』(現代思潮社)押収。
- 5.7. 公取委、一部教科書発行業者の不正

勧誘行為に警告。

- 5.24. チリ地震津波、三陸沿岸の書店被害。
- 7.1. 中小書店の店員雇用難深刻、小売全連雇用実態調査開始。
- 9.22. 出版業界、初の欧米視察団出発。11.1. 帰国。
10. - 日販・東販・栗田で本の商品券発行を計画、業界混乱。野間書協会長の斡旋により、11.25. 日本図書普及株式会社設立。12.20. 全国共通図書券発行開始。
- 11.29. 宮内庁、深沢七郎『風流夢譚』(『中央公論』12月号)で中央公論社に抗議。12.1. 中央公論社陳謝。

*ベスト3 謝国権『性生活の知恵』(池田書店)、松田道雄著『私は赤ちゃん』(岩波書店)、北杜夫著『どくとるマンボウ航海記』(中央公論社)

*10大ニュース 図書普及会社設立、全国共通図書券発行、フォノ・シートによる出版企画盛ん、春・秋をにぎわした全集ブーム、35年の労作『大漢和辞典』完成、書店は店員不足に悩み週刊誌の配達中止、ノン・フィクションの異色もの続出、40日間世界一周の欧米出版産業視察、児童図書雑誌の伸長にぶる、教科書出版二葉、大日本印刷に経営委任、書籍運賃込み正味制負担問題起こる。

【1961(昭和36)年】

- 2.1. 「風流夢譚」で右翼少年、嶋中央公論社長宅を襲い、夫人を傷害、家政婦を殺害。
- 3.15. 有田八郎、三島由紀夫著『宴のあと』(新潮社)に対し、プライバシーの侵害として著者、発行者を告訴。
- 5.11. 書籍協会総会、出版の自由と責任に

関する声明発表。

- 5.22. 小売全連、適正利潤獲得全国書店総決起大会開く。
- 6.1. 郵便法改正、出版物の郵送料大幅値上げ。
- 7.21. 適正利潤問題話し合いの場として出版販売合理化審議会設立。
- 12.12. 東京小売組合、婦人4誌に正味引き下げ要請、12.16.『主婦の友』不買を宣言。
- 12.21. 中央公論社『思想の科学』1月号「天皇制特集」を発売中止。12.26.思想の科学研究会、12月号限りで同社との関係打ち切りを決定。

*ベスト3 岩田一男著『英語に強くなる本』（光文社）小田実著『何でも見てやろう』（河出書房新社）山本祐義著『まあちゃんこんにちは』（文藝春秋新社）

*10大ニュース 小売全連、適正利潤獲得運動を展開、出版物の定価値上がりムード、出版物の郵便料を安くする運動、「風流夢譚」嶋中事件を起こす、『英語に強くなる本』が最大のベストセラーに、記憶術ブームと推理ものブーム、出版界の2巨星（石川武美・下中弥三郎）落つ、ベストセラーになった『国民百科事典』、音出誌の進出、週刊誌デラックス化を競い、優劣の差広がる。

【1962(昭和37)年】

- 2.28. 雑誌協会・取次協会・小売全連、3者間に雑誌正味2%引下げなど7項目決定、覚書交換。
- 4.16. 取次協会、「出版物取次倫理綱領」発表。
- 4.20. 日本出版クラブ主催第1回出版人大会開催。
- 5.19. 小売全連、6分口銭16誌の正味引下

げ完全実施の要望決議。

- 6.1. 東京小売組合、『世界』7月号不買を声明。6.6.全国3500書店で不買。
- 8.31. 著作権使用団体により著作権使用者団体協議会設置。
- 10.17. 講談社、『講談倶楽部』『少年クラブ』『少女クラブ』の3誌12月号で終刊を発表。

*ベスト3 黄小娥著『易入門』（光文社）山口清人・久代著『愛と死のかたみ』（集英社）J・アダムソン著『野生のエルザ』（文藝春秋新社）

*10大ニュース社 雑誌正味引下げ「覚書」成る、『世界』7月号、書店不買統一行動、ペーパーバックスの流行、2つの百科事典『国民百科』『日本百科』ベストセラーに、経営戦略書ブーム、出版物の定価値上がり続く、著しい女性誌の進出、中小取次結集、共同基金組合結成、講談社、戦前からの3大誌を同時に廃刊、石川達三、週刊誌に敗れる。

【1963(昭和38)年】

- 3.8. 宮内庁、月刊『平凡』連載、小山いと子「美智子さま」につき私生活侵害と抗議。平凡出版、中止。
- 3.20. 教科書協会、教科書販売につき業界の自粛強化を宣言。
- 5.25. 東京小売組合、取次各社に正味81%以上の高正味書籍の返品辞退申し入れ。
- 6.8. 正味問題、取次側の調停案により妥協案成立、小売側実行行使中止。
- 6.21. 書籍正味2%引下げ実施要綱覚書交換。
- 6.10. 大学出版部協会結成。
- 10.2. 甲府市の書店組合、青少年に有害な雑誌31誌の返品拒否を取次に申入

れ。

- 10.16. 雑誌協会、「雑誌編集倫理綱領」制定。
10.18. 小売全連、「出版販売倫理綱領」制定。
12.21. 4団体による出版倫理協議会発足。
* ベスト3 占部都美著『危ない会社』(光文社)佐藤得二著『女のいくさ』(二見書房)山岡荘八著『徳川家康』(1~19頁講談社)

* 10大ニュース 不良出版物追放運動展開、サリドマイド人体実験記事問題、ペーパーバックスの氾濫、女性誌週刊誌の進出好調、画期的雑誌『太陽』の創刊、山岡荘八『徳川家康』と経営書の好売行き、書籍正味引下げ問題妥結、教科書無償法案の波紋、ウケに入った学習参考書の波紋、日本出版物の国際的進出。

【1964(昭和39)年】

- 3.25. 株式会社読書人創立、『週刊読書人』発行を継承。
6.16. 新潟地震、書店に大被害。
7.31. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・小売全連の4団体で出版販売合理化協議会結成。
8.1. 東京都青少年の育成に関する条例公布、指定図書類の販売等の規制含む。
9.21. 東販・日販・大阪屋・日教販・栗田・中央社、合同で創立15周年祝賀会開催。
10.10. 東京オリンピック。関係雑誌・書籍~24. 好売行き。
11.12. 日本ABC協会、雑誌公査規定・雑誌レポート規定を決定。

* ベスト3 河野実・大島みち子著『愛と死をみつめて』(大和書房)、『日本の文学』(1

~11頁中央公論社)、『山田風太郎忍法全集』(1~11)(講談社)

* 10大ニュース 五輪関係書続出、好売行き、『愛と死をみつめて』100万部突破、青少年健全育成のための都条例施行、三島由紀夫著『宴のあと』事件判決、プライバシー権認められる、検定教科書の広域採択異変、新潟地震、九州台風などによる書店被害、出版販売合理化協議会結成、『国民百科』『日本百科』空前の普及、小売全連の「良書100選」運動の成功、出版業界における社屋新築・増築ブーム。

【1965(昭和40)年】

- 2.5. 割賦販売など新販売ルート続出で、小売全連・関係出版社・取次3者会談。
5.10. 書籍協会、著作権制度改正で第8次意見書を文部省に提出。出版権の確保、翻訳権10年留保。
6.12. 家永三郎東京教育大学教授、「教科書検定制度は違憲」の訴訟を起こす。
7.30. 金文社、経営不振、全業務を東販に譲渡。
7. - 東販・日販、割賦販売に進出。

* ベスト3 井上光貞・竹内理三・直木孝二郎他著『日本の歴史』(中央公論社)大松博文著『なせばなる』(講談社)岡村昭彦著『南ヴェトナム戦争従軍記』(岩波書店)

* 10大ニュース 未曾有の百科事典ブーム、戦後20年の記録もの続出、ベトナム、日韓関係書の続出と雑誌の特集、出版物の月賦制度の確立、小売全連の運賃荷造り費負担金全廃運動の開始、『宝石』の創刊と男性雑誌時代の到来、大学生のマンガ愛読熱が話題、歴史ある出版社の創立

記念、新興宗教団体の出版本格化、小売書店の出店続出。

【1966(昭和41)年】

- 1.11. 郵便料金改定案決定。第3種据置き、第5種廃止、書籍小包・学術雑誌の低料金扱い新設。
- 2.4. 全日空機、羽田沖で墜落、札幌雪まつり帰りの出版関係者24人死亡。
- 5.20. 小売全連、運賃・荷造り費撤廃要求で全国書店総決起大会開催。
- 5.25. アジア地域出版専門家会議、東京～31.で開催。
- 6.8. 雑誌協会、国際雑誌連盟(FIPP)に加盟決定。9.1.加盟。
- 8.25. 公取委、338出版社に対し、書店報奨による過当競争自粛を要請。
- 12.13. 弘文堂倒産、12.27.新社創立。
- 12.28. 公取委、全集類販売の小売業者へのレポート・海外旅行などを重視、再販制から除外検討中と『朝日新聞』が報道。

*ベスト3 三浦綾子『氷点』(朝日新聞社) 小泉信三著『海軍主計大尉小泉信吉』(文藝春秋) 阿川弘之著『山本五十六』(新潮社)

*10大ニュース 全日空機事故で出版人24氏が遭難、戦後最大の全集ブーム、アジア地域出版専門家会議東京で開く、著作権改正草案発表、雑誌の運賃撤廃問題解決、婦人誌を中心とする雑誌のワイド化、若い男性雑誌時代本格化、宗教書、人生論関係書盛況、再販の危機感高まる、老舗弘文堂の倒産。

【1967(昭和42)年】

- 1.11. 雑誌協会・取次協会・小売全連、雑誌運賃撤廃に関する実施要綱調印。

- 3.16. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・小売全連・再販本部委、過大報奨自粛を協議。全集物の再販除外反対を決議。
- 4.18. 公取委、全集物を再販適用除外しない旨を表明。
- 7.13. 書籍協会、税法改正(7.1.)に伴い『常備委託』を『常備寄託』に改める。
- 7.27. 著作権法改正法律公布(第14次)保護期間35年を37年に。
- 9.15. 小売全連、『全国書店経営実態調査報告書』公表、『全国書店名簿』刊行。
- 10.25. 第1回アジア地域出版技術研修コース～12.18.一ス開催。
- 10.28. ベースボール・マガジン社倒産。

*ベスト3 多湖輝著『頭の体操』(1)(光文社) 有吉佐和子著『華岡青洲の妻』(新潮社) 多湖輝著『頭の体操』(2)(光文社)

*10大ニュース 詩全集ブーム、『頭の体操』(1)戦後6冊目の100万部突破、図書月販の進出、百科事典の進出、河出書房『世界音楽全集』の成功、書店実態調査成る、アジア人のための出版技術研修コース、明治100年もの出版続出、要注意雑誌指定と全連の送品拒否、書籍協会の創立10周年。

【1968(昭和43)年】

- 1.8. 公取委、日本雑誌広告会に誇大・虚偽広告掲載の自主規制を要望。
- 5.8. 出版公取協、過当販売競争自粛要望の声明書。
- 5.21. 河出書房倒産(第2次)。
- 6.17. 小売全連、国際出版物小売連合(ICBA)加盟決定。
- 10.1. 書籍協会、日本出版会館竣工。
- 10.10. 『日本出版百年史年表』刊行。
- 10.17. 川端康成ノーベル文学賞受賞発表、

関係書爆発的売行き。

11. 米タイムライフ社・西独ベルテル
~ 12. スマン社と大日本印刷・東販がブック
クラブ設立構想。

*ベスト3 北杜夫著『どくとるマンボウ青春記』(中央公論社) 佐賀潜著『民法入門』(光文社) 畠山芳雄著『こんな幹部は辞表を書け』(日本能率協会)

*10大ニュース 河出事件起こる、『日本出版百年史年表』完成、花ざかりの創刊雑誌、革命関係書の出版あいつく、未来学書・経営学書の盛況、ノーベル文学賞受賞で爆発的に売れた川端文学、国立国会図書館完成と創立20周年、日本出版学会設立を促進、近代文学館の画期的な復刻出版、静かな個人全集ブーム。

【1969(昭和44)年】

- 1.7. 外資系ブッククラブ設立の動きに対処、出版物流通機構研究懇談会設置。
- 3.1. ユネスコ東京出版センター設立。
- 3.14. 日本出版学会設立。
- 5.2. 流通機構研究懇談会、ブッククラブ設立方針決定。
- 9.23. 出版平和堂落慶式、第1回会祀祭。
- 10.15. サド裁判、最高裁上告棄却、訳者・発行者有罪確定。
- 11.14. 定価別正味制推進・荷造り費完全撤廃・歩戻制改悪反対をスローガンに全国書店総決起大会を開く。
- 11.24. 入金報奨制改正・荷造り費撤廃問題、向こう1年間の暫定協定成立。
- 12.10. 全日本ブッククラブ創立。

*ベスト3 海音寺潮五郎著『天と地と』(朝日新聞社) 羽仁五郎著『都市の論理』(勤

草書房) 庄司薫著『赤頭巾ちゃん気をつけて』(中央公論社)

*10大ニュース わが国初のブッククラブ誕生、反体制関係書が続出、経営・コンピュータなどハウツウもの盛況、テレビ放映とベストセラーとの関係、多彩・顕著に、『広辞苑』第2版大当り、個人全集ブーム定着化、漫画全集の予想以上の反響、新時代の語学学習「カセット」売り出す、少年週刊誌、飛躍的に伸長、日本出版学会正式発表。

【1970(昭和45)年】

- 1.5. 公明党・創価学会の言論・出版妨害が問題化。
1. - 全出版物の書籍コード制実施。
- 4.10. 学校図書館ブックセンタ-(SLBC)発足。
4. - 光文社労使紛争起こる。4.15. 神吉晴夫社長退陣。
- 5.6. 新著作権法公布。(71.1.1.) 施行。
- 6.9. 書籍協会・取次協会・小売全連、7.1. 新正味制移行で覚書。
- 10.19. 通産省、「出版物の取引条件適正化指針案」作成趣旨を業界3団体に説明。10.29. 指針案発表。
- 10.25. 三島事件発生、三島本ブーム。
- 11.28. 小売全連・取次協会、入金報奨制改定合意、覚書。

*ベスト3 塩月弥栄子著『冠婚葬祭入門』(光文社) 首野綾子『誰のために愛するか』(青春出版社) 立原正秋著『冬の旅』(新潮社)

*10大ニュース 公明党・創価学会による言論・出版妨害問題起こる、神吉社長の退陣で光文社争議問題表面化、教科書裁判で家永教授勝訴、新著作権法成立、『冠婚葬祭入門』『誰のために愛するか』100万

部突破、新正味制の実施、出版界もビデオ・パッケージの開発に乗り出す、出版の資本自由化と外資進出の傾向高まる、公害関係書・告発書の出版が盛ん、創刊誌ラッシュで雑誌の多様化顕著に。

【1971(昭和46)年】

- 1.1. 新正味制、全面实施。
- 3.4. 出版倫理協、年5回以上の指定雑誌の帯紙措置決定。
- 3.24. ユネスコ・アジア文化センター設立。
- 4.1. 雑誌協会・取次協会・小売全連、雑誌発売日協約案妥結。5.4. 即売を加え正式調印。
- 5.1. 『講談社文庫』55点いっせいで発売。
- 10.8. 小売全連、最高正味75掛獲得全国書店総決起大会開催。
- 11.2. 雑誌正味問題、正味2分下げで妥結。
- 11.22. 出版販売合理化協議会改組、出版四団体連絡協議会結成。

*ベスト3 E・ベンダサン著『日本人とユダヤ人』(山本書店) 高野悦子著『二十歳の原点』(新潮社) E・シガール著『ラブ・ストーリー』(角川書店)

*10大ニュース 異色のベスト・セラー『日本人とユダヤ人』話題を呼ぶ、『講談社文庫』創刊、4大文庫時代へ、『朝日ジャーナル』異変、三島ブームと高橋和巳ブーム、少年マンガ誌後退、マンガ反省期に入る、2つの週刊動物百科の激突、多岐にわたる中国関係書ブーム、全連の最高正味75掛獲得運動、大型書店の主要都市への多店化顕著、わが国初の出版に関する総合事典『出版事典』完成。

【1972(昭和47)年】

- 1.18. ユネスコ提唱の国際図書年、上野・

都文化会館で宣言大会開催。

- 4.25. 書籍協会・取次協会・小売全連、書籍2割5分マージン問題で初会合。
- 5.17. 小売全連総会、日本書店組合連合会(日書連)と改称。
- 5.29. 全日本ブッククラブ総会、累計赤字3億2000万円。
- 6.20. 「四畳半襖の下張」掲載の『面白半分』7月号発禁処分。
- 8.9. 日書連、書籍マージン2割5分獲得全国書店総決起大会開催。スト体制と対象商品決定。
- 9.1. 日書連、史上初の不買ストに突入。
- 9.12. 書籍協会、池辺東販会長、相田日販会長の調停斡旋案受諾。日書連実行使中止。12.1. マージン2%アップ実施。10.18. 正式調印。
- 11.17. 取次協会・日書連、入金報奨問題妥結。

*ベスト3 有吉佐和子著『恍惚の人』(新潮社) 田中角栄著『日本列島改造論』(日刊工業新聞社) 司馬遼太郎著『坂の上の雲』(5.6.) (文藝春秋)

*10大ニュース 社会問題にまでなった“書店スト”、話題のベストセラー『恍惚の人』、『日本列島改造論』と田中ブーム、全日本ブッククラブ20分の1に減資、明暗をはっきりさせた雑誌の売行き、初の『図書館白書』まとまる、国際図書年で多彩な行事展開、復刻本ブーム、盗作・無断引用問題、野坂昭如『面白半分』7月号発禁処分。

【1973(昭和48)年】

- 3.14. 国鉄順法闘争、雑誌輸送大幅遅延。
- 6.5. 書籍協会、取引問題で臨時総会、終了後、全理事辞任。
- 6. - 用紙事情悪化、大幅値上げ。

- 7.23. 全日本ブッククラブ臨時総会、解散決議。11.27.清算事務終了。
- 10.2. 雑誌発売日問題で雑誌協会・取次協会・弘済会・即売会・日書連が5者会議、12.1.から完全実施確認。
- 10.30. 書籍協会、「用紙節約について申合せ」配布、声明書発表。
- 12. - 用紙不足で雑誌の休刊・合併号続出。

*ベスト3 小松左京著『日本沈没』(上・下)(光文社) 遠藤周作著『ぐうたら人間学』(講談社) 渡辺正『にんにく健康法』(光文社)

* 10大ニュース 用紙不足深刻 未曾有の危機を迎える、出版物の定価、異常な上昇、第3次文庫ブーム、『日本沈没』(上・下)空前のベストセラー、学習百科事典の激しい競合出版、書店の大型化、多店化ますます盛ん、雑誌の多様化、細分化さらに顕著、全日本ブッククラブ、3年11か月の幕閉じる、著作権問題に関する事件つぎつぎに起こる、静かな歴史書ブーム。

【1974(昭和49)年】

- 1.25. 再販本部励行委員会、三省堂のシール貼付による定価改定を協議。日刊紙、批判的報道。
- 2.6. 再販本部励行委員会、定価表示で統一見解、「原則として現品に直接印刷すること」など。
- 3.7. 出版公取協、販売秩序の確立・過大報奨の自粛・再販制度護持の業界自粛声明。3.19.公取委高橋委員長に陳情。
- 3.29. 公取委、書店への過大報奨提供で、学習研究社・小学館・集英社・旺文社に景表法に基づく排除命令。
- 5.24. 公取委、講談社・文化出版局の海外旅行付販売企画に景表法に基づく

排除命令。

- 6.25. 書籍協会・取次協会・日書連、地方正味格差撤廃問題で第1回会談。8.13.妥結、9.1.実施。
- 10.4. 書籍協会・取次協会・日書連、定価別ランク改訂第1回3者会談。11.16.合意、50.2.1.実施。
- 10.10. 『文藝春秋』11月号、「田中角栄研究 - その人脈と金脈」を特集。田中首相退陣へ。
- 11.26. 三省堂倒産、会社更生法適用申請。

* ベスト3 R・バック著『かもめのジョナサン』(新潮社) 五島勉著『ノストラダムスの大予言』(祥伝社) 中村鉦一著『やせる健康食』(ベストセラーズ)

* 10大ニュース 『文藝春秋』11月号のヒット企画、老舗三省堂の倒産、『かもめのジョナサン』の大記録、大幅な定価上昇、売行き不振に、文庫本と豪華本売行き伸長、過熱したオカルト・ブーム、歴史書ブームの焦点、古代史に、雑誌の盛衰さらに激しくなる、出版界の寡占化すむ、難航の末、地方正味格差撤廃問題受結。

【1975(昭和50)年】

- 1.28. 書籍協会、出版の開発に関する特別委員会設置。
- 2.20. 日書連、日本図書普及に引換図書券の金券扱いと即時入帳を求める声明書。
- 6.6. 図書新聞社田所太郎社長、経営不振を苦に自殺。6.14.『図書新聞』休刊。51.4.3号で復刊。
- 9.17. 全国医学生自治会連絡会など、「高すぎる医学書」の調査を公取委に要請。10.28.公取委、医学書出版14社に「実態調査表」提出を求める。
- 11.30. 公労協スト権ストで雑誌売上げ大

幅減。

12.1. 文庫正味統一78掛実施。

*ベスト3 司馬遼太郎著『播磨灘物語』(上・中・下)(講談社) 有吉佐和子著『複合汚染』(上・下)(新潮社) ハロルド著『眼がどんどんよくなる』(青春出版社)

*10大ニュース 不況のシワ寄せ、出版界にも大きく影響、出版情報センター構想、表面化、地方出版物への関心高まる、書評誌大きく揺れる、告発小説『複合汚染』上・下で100万部突破、“なぞなぞ本”“タレント本”等異色なブーム、『プレイボーイ』雑誌界空前の売行き、デイリー・マガジン『日刊現代』の創刊、公取委、本の値上げで実態調査、“コピー公害”対策が迫られる。

【1976(昭和51)年】

3.30. 出版倫理協、青少年有害図書問題で関係出版社に要望書送付。20. 交通ゼネスト、出版物物品に大影響。

4.30. 公取委、医学書の価格に関する実態調査で価格は妥当の結論。

5.1. 書籍協会、近刊図書情報『これから出る本』創刊。

5.25. 第20回IPA京都大会開催。
~29.

6.- 公取委、「出版業の再販売価格維持契約の実施状況調査」アンケート実施。

7.21. 読書推進運動協議会主催第1回『雑~8.20. 誌月間』開催。

11.23. 光文社争議、7年ぶりに解決。

*ベスト3 司馬遼太郎著『翔ぶが如く』(1~7)(文藝春秋) 村上龍著『限りなく透明

に近いブルー』(講談社) 山崎豊子著『不毛地帯』(1・2)(新潮社)

*10大ニュース 出版界も深刻な不況に、『限りなく透明に近いブルー』ミリオンセラーに、新出版情報つぎつぎに誕生、国際出版連合第20回京都大会開催、文庫、戦国時代に突入、ムック、カタログ誌、情報誌などの登場、地方小出版流通センター発足、公取委、出版業の再販問題で実態調査、書店業界への他企業の参入急増、ウケに入った2代目角川商法。

【1977(昭和52)年】

2.7. 書籍協会・雑誌協会・取次協会と日書連、月1回支払制問題で会談。

3.4. 日本図書普及、図書券の手数料1分書店負担撤廃を決定。

4.1. 東京書店小売組合、東京都書店商業組合に改組、全国で商組へ改組続く。

5.19. 日書連、月1回支払制実現総決起大会開催。

5.24. 公取委、「出版物の再販契約の実態調査」の報告書発表、奥付定価表示指導を明示。

5.25. 臼井吉見「事故のてんまつ」(『展望』5月号)に川端康成の遺族が抗議、販売差止めの民事裁判、8.16. 和解。

7.1. 日書連、月1回支払いへ突入。

8.- 書籍返品率45%。

10.1. 書籍協会、『日本書籍総目録』刊行。

*ベスト3 徳大寺有恒著『間違いだらけのクルマ選び』(草思社) A・ヘイリー著『ルーツ』(上・下)(社会思想社) 池田満寿夫著『エーゲ海に捧ぐ』(角川書店)

*10大ニュース 出版不況さらに深刻『日本書籍総目録』の完成、刊行、奥付の

定価表示問題起こる、マスコミの寵児となった角川春樹商法、女性雑誌不振、少女少女漫画誌好調、『ルーツ』静かなブーム、再編成期をむかえた書店界の動き活発化、雑誌ポルノ自販機の規制強まる、『岩波文庫』50周年、『岩波新書』40周年、『事故のてんまつ』社会的事件となる。

【1978(昭和53)年】

- 3.23. 日書連、月1回支払制、7.1.実施を決定後、10.1.に延期。
- 6.15. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・日書連、出版資料情報センター問題で初会合。
- 7.12. 筑摩書房倒産。
- 7.24. 書籍協会、定価表示は書籍奥付または本体を原則などの統一見解をまとめ、会員社に配布。
- 9.18. 八重洲ブックセンター開店。
- 10.11. 公取委橋口委員長、書籍・レコードの再販制廃止を検討中と発言。
- 10.30. 出版物公正取引協議会、「出版物再販制度についての出版業界の見解」を発表。
- 12.20. 日書連、再販廃止反対の100万人署名運動を決定。

* ベスト3 有吉佐和子著『和宮様御留』（講談社）、ガルブレイス著『不確実性の時代』（TBSブリタニカ）、山崎豊子著『不毛地帯』（1～4）（新潮社）

* 10大ニュース “乱世”出版界を象徴する事件多発、筑摩書房倒産の波紋と再生へのけわしい道、公取委の“再販廃止検討”で業界大ショック、日本最大の八重洲ブックセンター開店、『不確実性の時代』とライフワークブーム、“活字離れ”の傾向ますます顕著、ベストセラーと映像のジョイント顕著に、青少年条例制定の動

きと書協の声明、本・出版に関する本続出、新人・ベテランとも女性作家活躍。

【1979(昭和54)年】

- 1.1. 国際児童年開幕。
- 1.9. 出版公取協、公取委の意向にそい再販契約書・再販本部励行委員会規約の修正案作成。
- 2.1. 公取委に提出。
- 2.11. 公取委、出版・取次・小売2100社に「書籍及び雑誌の取引実態調査」のアンケート実施。
- 3.8. 日書連、出版物再販廃止反対全国書店総決起大会開催。
- 5.29. 岩波書店・春陽堂書店、リーダイ版『漱石初版本復刻セット』に“復刻権”主張、東京地裁に仮処分申請。
- 8.31. 和解。
- 8.21. 公取委、書籍協会から事情聴取。22.取次協会、23.日書連。
- 9.10. 出版公取協、公取委提出の「新再販契約書」再販励行委員会新規約」の発効決定。
- 9.11. 株式会社日本出版クラブ会館設立。
- 11.20. 公取協、「出版物の取引実態調査の概要」発表。

* ベスト3 和泉宗章著『算命占星学入門』（青春出版社）、和泉宗章著『天中殺入門』（青春出版社）、五木寛之著『四季・奈津子』（上・下）（集英社）

* 10大ニュース 和泉宗章著『天中殺入門』凶を占いベストセラーに、再販問題で公取委が改善案提示、大詰に向かう、「日本図書展覧会」日中出版文化交流に成果、“雑誌の年”といわれ、相次いだ雑誌創刊、『愛のコリーダ』裁判に無罪模索舎裁判に有罪、大手取次創業30周年、問われる取次の役割、漱石復刻版紛争が“和解”“初版権”今

後の課題に、引き続き盛ん、出版・読書関係書、国際児童年、児童書好調、静かなブーム続いた精神世界に関する本。

【1980(昭和55)年】

- 1.17. 出版4団体・国立国会図書館・日本図書館協会と有識者で構成する日本図書館コード管理委員会発足。
- 3.26. 図書館コード管理委、5140の「出版者記号」を割当て通知。
- 4.1. 日書連・取次協会、客注専用注文票実施。
- 5.16. 出版公取協、公取委に改訂再販契約書・再販委員会規約を提出。5.27. 公取委了承。
- 10.1. 新再販制スタート。
- 11.13. 警視庁、「ビニール本」を手入れ、芳賀書店常務を逮捕。
- 11.28. 高裁、「四畳半襖の下張」裁判の原告棄却、有罪確定。
- 12.15. 取次協会、出版資料情報センター機構を検討、当面実施は困難の見解発表。

* ベスト3 NHK取材班著『シルクロード』(1~4) (日本放送出版協会) 司馬遼太郎著『項羽と劉邦』(上・下) (新潮社) 五島勉著『ノストラダムスの大予言』(祥伝社)

* 大10 ニュース 10月1日、新再販制に移行、表面上は平静、日本図書館コード管理委発足、史上最高の創刊誌ブーム、読者獲得競争さらに激化、『蒼い時』1か月で100万部、ミリオンセラーの新記録、文庫・戦国時代に突入、読者対象の多様化進む、四畳半裁判、最高裁判決、原告棄却で有罪確定、過当競争でエスカレート、繁盛する「ビニール本」、キナ臭い国際情勢を背景に、防衛関係書続出、「江戸もの」いっせいに揃い、ブーム、第1回日本出版学会賞2点が佳作。

【1981(昭和56)年】

- 1.1. 日本図書館コード実施。
- 1.21. 雑誌協会・取次協会、雑誌超過運賃改訂調印。基準運賃9円50銭。
- 2.23. 平凡社経営危機。会社再建案を労組に提示。
- 3.4. 業界4団体、出版資料情報センター構想、合意に至らず。
- 3.19. 三省堂書店、神田本店オープン、日本最大の書店。
- 8.3. 教科書出版社の政治献金問題報道
- 9.10. 日販新本社ビル落成披露。
- 9.21. 東販、非再販商品(時限再販)流通で出版社100社に企画書送付。
- 9.22. 公取委、「出版物の小売業における景品類の制限に関する公正競争規約」認定。
- 11.19. 出版物小売業公正取引協議会設立。

* ベスト3 黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』(講談社) 田中康夫著『なんとなくクリスタル』(河出書房新社) 馬場憲治著『アクション・カメラ術』(ベストセラーズ)

* 大10 ニュース 売上げ不振の出版界、深刻な不況感、『窓ぎわのトットちゃん』記録的ミリオンセラー、新再販1年でようやく出始めた「自由価格本」、日本図書館コード実施者570社に前途多難、平凡社減量経営で再出発、硬派出版社の危機表面化、引き続き創刊誌ブーム休廃刊も多かけり現象、自民党の教科書攻勢盛ん、献金問題でも大揺れ、三省堂書店(本店)閉店、大型店の出店、増床続く、オフィス・オートメーションの本・雑誌特集盛ん、相次ぐ国語辞書の出版、常用漢字改訂も一役。

【1982(昭和57)年】

- 2.19. 日書連、書店の万引問題で実態調査を実施。11月報告書公表。
- 7.18. 八木書店、版元400社に非再販商品販売の案内書送付。
- 8.16. 学習研究社、東証第2部へ上場。
- 9.20. 左翼文献センター、ウニタ書舗閉店。
10. - 商法改正で総会屋系雑誌、減ページ、休刊続出。
- 11.11. 日書連・取次協会、5月実施の「客注専用票実態調査」集計。取次協会、入荷速度を2週間以内に短縮と回答。
12. - 取次7社、『雑誌のもくろく』発刊。

*ベスト3 森村誠一著『悪魔の飽食』(光文社)、江本孟紀著『プロ野球を10倍楽しく見る方法』(ベストセラーズ)、黒柳徹子著『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)

*10大ニュース “厳しい”の一語に尽きる年、復調のきざしも、ミリオンセラー3点、ベストセラーは大型化、「ノベルズ」創刊続き、新書発行部数大幅に増加、依然創刊ラッシュ、多彩なジャンルに活路を、「ロマンス・シリーズ」創刊続き、市場は拡大、商法「改正」で休廃刊、減ページ誌続出、版元在庫増加で八木書店非再販本ルート開拓、「反核」運動のうねりを背景に多様な出版企画、「ウニタ書舗」左翼退潮の中でついに閉店、日書連、書店の万引の実態を調査・報告

【1983(昭和58)年】

- 2.18. 日書連、「返品減少対策推進のための運動方針」決定。
- 3.30. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・日書連の4団体広報担当連絡会、出版界

としての広報の展開を確認。

- 4.27. 雑誌公正取引協議会設立。
- 5.11. 日販、中国に図書1万冊寄贈。中国国家図書館に「日本出版物文庫閲覧室」設置。
- 8.27. 再販本部委、相賀委員長名で「目に余る再販契約違反の横行について」の文書を出版社4300社、取次47社、日書連会長に送付。
- 9.1. 日書連、「全国小売書店取引経営実態調査報告書」を作成。
- 10.26. 東販、クレジットによるカードシステムを発表。他取次も続く。

*ベスト3 鈴木健二著『気くばりのすずめ』(講談社)、穂積隆信著『積木くずし』(桐原書店)、赤川次郎著『探偵物語』(角川書店)

*10大ニュース 低迷の長いトンネル依然として抜けきれず、「80年を上回る史上最高の創刊雑誌」、「ニューメディア元年」で関連書が続出、既存雑誌のモデル・チェンジ相次ぐ、出版社の「イメージ・アップ作戦」顕著に、文庫判雑誌も出現、ますます多様化の文庫、「鈴木健二ブーム」続く、アイドル本も好調、コンピュータ時代に出版界も積極的に対応、若手コピーライターの本、人気を集める、酸性紙問題への提言、出版界を動かす。

【1984(昭和59)年】

- 2.14. 衆院予算委で少女雑誌のセックス記事やり玉に。
- 2.28. 自民党、「少年の健全な育成を阻害する図書類の販売等の規制に関する法律案要綱草案」をまとめる。
- 3.9. 最高裁、国の文書復刻出版で龍溪書舎に敗訴の判決。
- 3.13. 出版倫理協、図書規制立法化に反対、出版の自由の危機を全版元に訴

- え。
- 4.27. 自民党、有害図書規制法案上程を断念。
- 5.18. 「日本の本展」世界の本展』開催。
～21.
- 6.25. 再販本部委、出版物の価格表示等に関する自主基準案を公取委に提出。
7.12. 公取委了承、11.27. 実施要綱了承。
- 11.9. 非再販本フェア「読者謝恩出版社
～12. バーゲンブックフェア」開催。

*ベスト3 渡辺淳一著『愛のごとく』(上・下)(新潮社) 宮尾登美子著『天璋院篤姫』(上・下)(講談社) 中島みゆき著『伝われ、愛』(新潮社)

*10大ニュース 有害図書規制法案国会
上程阻止、新規参入で第4次文庫戦争熾烈化、初の非再販本「B・Bフェア」開催、浅田彰ブームで人文・社会書が活性化、小学館、平凡社の2大百科事典競合、取次のオンラインシステム始動、消長激しい雑誌界競合の中で休刊誌目立つ、ハングル講座人気、韓国関係書ブーム、昭和60年を前に幅広い昭和史もの続出、集中的処理問題など著作権論議盛んに。

【1985(昭和60)年】

- 3.17. つくば科学万博開催。出版界、パピ
～9.16. ルスプラザ共同事業体で出展。
- 4.26. 日本図書普及、図書券手数料の取次・書店への還元率決定。
- 5.30. 再販本部委、「出版物価格表示基準手帳」作成。
- 6.20. 日書連松信会長、毎年4月20日を「サン・ジョルディの日」として新しい増売運動とすることを提唱。
- 7.1. 文庫および500円以下の書籍、正味5厘下げの新正味制実施。

- 11.27. 国家秘密法(案)に反対する出版人の会発足。12.20. 同法案廃案。
- 12.6. 『日本版リーダーズダイジェスト』
61.1. 未で休刊を発表。

*ベスト3 広瀬久美子著『女の器量はことばしだい』(リヨン社) 堺屋太一著『豊臣秀長』(上・下)(PHP研究所) L・アイコッカ著『アイコッカ』(ダイヤモンド社)

*10大ニュース 「国家秘密法」に対し出版人立ち上がる、中堅出版社、企業防衛的に文庫創刊、青少年条例による出版物規制強化、読者を絞り込んだ雑誌創刊、細分化進む、コピー公害に対し、「版面権」の主張明確に、『エンマ』創刊、F・F・E取材戦熾烈に、小粒のベストセラー、タレント本が好調、出版人それぞれの立場からの著書続出、タイガース優勝熱気は出版にまで、つくば万博会場にパピルスプラザ出展。

【1986(昭和61)年】

- 1.20. 雑誌発売日移行本部委、年末年始発売日で各団体に反省と秩序回復を要望する見解を送付。
- 4.19. 第1回サンジョルディ・フェスティバル開催。
- 6.2. 『婦人生活』(婦人生活社)8月号で休刊を決める。
6. - “復古調”日本史教科書問題化。中国、韓国が抗議。
- 8.18. 国際児童図書評議会第20回大会、
～23. 東京・青山こどもの城で開催。
- 8.25. 国際図書館連盟第52回大会、東京
～29. の国立劇場ほかで開催。
- 10.1. 出版厚生年金基金スタート。

*ベスト3 渡辺淳一著『化身』(集英社) 細木数子著『自分を生かす相性・殺す相

性』(祥伝社) 堺屋太一著『知価革命』(PHP 研究所)

* 10大ニュース 写真週刊誌に後発誌参入、“3FET”時代に、IFLA、IBBY世界大会、東京で開催、“復古調”日本史教科書検定合格、国内外に波紋、電子機器利用の出版や、データサービスの動き盛ん、出版不況で出版社・取次、流通改善に取り組む、出版関連団体、読書推進運動を活発に展開、『現代用語の基礎知識』VS『イミダス』はじめ企画の競合顕著、創刊誌も減少、“雑高時代”にかけり現象も、“東京論”多面的な展開、路上観察学もブームに一役、ベストセラーますます小粒化、短命化の傾向。

【1987(昭和62)年】

- 1.13. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・日書連、売上税対策特別委員会を組織、売上税導入反対をきめる。
- 2.16. 雑誌協会・取次協会・日書連で構成する共通雑誌コード管理センター設立。
- 3.18. 日書連、売上税粉砕全国書店総決起大会開催。
- 10.16. “本の国体”を目指した「ブックインとっとり'87 日本の出版文化展」鳥取・倉吉・米子などで開催。
- 12.21. 書籍データセンター設立。
- 12.25. 角川書店、初の買切商法『とれたての短歌です』発売。

* ベスト3 依万智著『サラダ記念日』(河出書房新社) K・ウォード著『ビジネスマンの父より息子へ30通の手紙』(新潮社) 安部譲二著『塀の中の懲りない面々』(文藝春秋)

* 10大ニュース 『サラダ記念日』『塀の中』シリーズ、ミリオンセラーに、文芸書からビジネス書まで、カセット大当り、

“雑誌低迷”時代に『週刊平凡』『平凡』終刊、『マンガ日本経済入門』大ヒット、「漫画で解説」流行、すぐ読みたい!!に対応、宅配便ルート多様な展開、岩波文庫60周年、一方で文庫戦線にかけり、生活情報型女性誌好調、地についた編集受ける、郊外型書店急増、SA化、複合化するむ、内外の事象に対応し、類書の集中的出版目立つ、売上税に出版界あげて反対、廃案に追い込む。

【1988(昭和63)年】

- 2.1. 講談社、『婦人倶楽部』4月号で終刊を発表。
- 3.7. 版面に関する出版者団体協議会、「企業・大学等における出版からの複写実態調査概要報告書」発表。
- 5.10. 日書連、「中小小売商業流通情報ネットワーク計画策定事業報告書」発表。
- 5.20. 日本書店組合連合会、日本書店商業組合連合会に改組。
- 7.26. 日書連、消費税粉砕全国書店総決起大会開催。
- 12.5. 取次協会、新買切制実施案を公表。
- 12.14. 再販本部委、公取委に消費税について「税込み定価が適当」の回答。

* ベスト3 村上春樹著『ノルウェイの森』(上・下)講談社)川津祐介著『こんなにヤセていいかしら』(青春出版社)村上春樹著『ダンス・ダンス・ダンス』(上・下)講談社)

* 10大ニュース ミリオンセラーが3点、『ノルウェイの森』大ヒット、女性誌創刊ラッシュ、モノマガジンの創刊も盛ん、反原発、幅広い盛り上がり、関連書伸びる、目立つ休・廃刊、雑誌界様変わり現象、消費税反対運動、今回は日書連中心に展開、角川書店買切制導入、出版流通に一石、カセット本、ビデオマガジンも好調、アグネ

ス論争話題に、ブックレットも好調、コピー公害実態明らかに「複写権センター」発足へ、「ピンクチラシ」に判決、街の印刷屋有罪に。

【1989(平成1)年】

- 1.7. 昭和天皇逝去。関係書、雑誌特集、昭和史企画など続出。
- 1.31. 消費税問題で初の4者協議、定価と在庫について。
- 2.15. 書籍協会・雑誌協会、消費税の定価表示 定価 円(本体 円)、定価 円(税 円)と確認。
- 4.1. 消費税スタート。
- 7. - 出版流対協、公取委を提訴。
- 10.1. 出版社、新定価表示で出庫開始。
- 11.2. 消費税の本体価格を推進する集会 - 消費税の「本体価格取引の継続を求める声明」を発表。
- 11. - 取次協会、活性化キャンペーンの資金として出版社に協力金の拠出を要請。

* ベスト3 吉本ばなな著『TUGUMI』(中央公論社) 吉本ばなな著『キッチン』(福武書店) 津本陽著『下天は夢か』(1~4頁) 日本経済新聞社)

* 10大ニュース 出版物に消費税導入、対応に振り回された出版界、天皇逝去、一斉に出た天皇関連書、昭和史企画、“吉本ばなな現象”など話題豊富なベストセラーズ、時代の節目の出来事に“緊急出版”続出、女性誌、男性誌ともに創刊ラッシュ、売行きは伸びず、『日本語大辞典』初めてのカラー版で発売直後60万部、日本出版学会設立20周年、記念フォーラムも開催、新マージンの新買切制実験的にスタート、“出版博物館”設立構想、具体化に向けて動き出す、出版流通多様化、迅速化へ“新

事業”始まる。

【1990(平成2)年】

- 4. - 東販、出版業界初のシンクタンク東販総研設立。
- 6.22. 著作権審議会第8小委、出版物の複製から出版者を守る権利(版権)を認める最終報告を了承。
- 7. - 日本図書コード管理センター、「日本図書コードに書籍JAN(バーコード)を併記する要領」を了承。
- 10.3 第42回フランクフルトBF、「日本~8.年」開催。
- 12.1. 日本図書普及、プリペイドカード発行。

* ベスト3 二谷友里恵著『愛される理由』(朝日新聞社) 盛田昭夫・石原慎太郎著『「NO」と言える日本』(光文社) 渡辺淳一著『うたかた』(講談社)

* 10大ニュース 生産流通部門の人手不足深刻化、「本が危ない」事態に、ミリオンセラーは『愛される理由』、個性的ベストセラーも、取協「書籍の適性流通を目指して」を発表、『ちびくろサンボ』をはじめ差別表現問題が噴出、コミックの性表現各地で規制、東京都も調査結果発表、フランクフルトBF「日本年」、東京BF復刊図書に人気、中高年向け雑誌創刊相次ぐ、男性誌も3誌が創刊、地球環境問題に高い関心、多様な企画の書籍・雑誌、東欧情勢、ドイツ統一、ゴルパチョフ改革関連書続出、CDブック相次ぎ企画の競合電子ブックも新発売。

【1991(平成3)年】

- 1.14. 出版倫理協、コミックの性描写批判への対応を協議。

- 2.20. 出版VAN出版社連絡会、出版社説明会を開催。
- 3.27. 出版文化産業振興財団(JPIC)設立。
- 8. - 長野県須坂市の本の流通センター構想表面化。
- 9.2. 宗教法人幸福の科学、『フライデー』の記事に抗議、講談社へデモや妨害行為。
- 9.30. 日本複写権センター設立。
- 11.26. 書籍協会、各県の青少年健全育成条例の「改正」に反対する声明書発表。

*ベスト3 さくらももこ著『もものかんづめ』(集英社) ビートたけし著『だから私は嫌われる』(新潮社) S・シェルダン著『真夜中は別の顔』(上・下)(アカデミー出版サービス)

* 10大ニュース 「有害」コミック摘発、規制各地で強化、出倫協対策に苦慮、出版物再販制の「見直し」について報告書、制度には一定の評価、宮沢りえ写真集話題沸騰、ヘア写真集では数社に警告、バラエティに富んだミリオンセラー誕生、週刊誌多数出るのが売行きはいまひとつ、休刊誌も目立つ、ようやく一本化、「日本複写権センター」、9月30日発足、湾岸戦争、ソ連クーデター、東欧情報関連書多数刊行、昨年を上回るエコ・ブーム、具体的なデータに関心、出版業界VAN構想、実現にむけて一歩踏み出す、静かな、時ににぎやかな宗教書ブーム続く。

【1992(平成4年)】

- 1.1. 東京出版販売株式会社、株式会社トーハンと社名変更。
- 1.14. 書籍協会、地方条例改正による全国的な有害コミック規制強化に反対する声明発表。
- 2.20. 日書連、「書店経営白書」を発表。
- 3.24. 消費税定価訴訟、東京地裁判決、原

告出版社全面敗訴、控訴へ。

- 4.1. 東京都、青少年の保護条例に関する条例、改正施行、規制強化。
- 4.15. 公取委、「再販商品の見直しについて」発表。
- 5.3. 出版文化振興財団、地域読書推進事業の1号、大分県耶馬溪町に町営書店「わかば書店」オープン。
- 11.25. 出版倫理協、有害指定コミックの勧告等の措置を含む新自主規制案を作成。

*ベスト3 さくらももこ著『さるのこしかけ』(集英社) それいけ×ココロジー著『それいけ!ココロジー!』(青春出版社) 井深太著『わが友本田宗一郎』(ごま書房)

* 10大ニュース パブル崩壊で休刊誌続出、出版社の大型倒産も話題に、日書連『書店経営白書』発表、正味引き下げ運動展開、青少年条例改定全国各地に改悪反対の動きも活発に、島田陽子、荻野目慶子、マドンナなどの写真集売れ、話題に、テレビ番組から生まれた本、タレント本、テレセラー売れる、公取委見解、出版物の再販存続、音楽CDは「時限再販」導入へ、東京国際ブックフェア開催海外の24か国84社参加、洋書、美術全集、地図出版相次ぎ、高額品だが売行き良好、従軍慰安婦、脳死、エイズ問題話題を呼び関連書続出、社風にマッチした創立記念出版企画が次々に刊行。

【1993(平成5年)】

- 1.13. 主婦と生活社、『主婦と生活』4月号で休刊発表。
- 2.26. 公取委、出版社・取次・書店を対象に「書籍及び雑誌の流通実態調査」を送付。
- 3.16. 最高裁、家永教科書裁判第1次訴訟判決、原告(家永側)全面敗訴。

- 8.29. 角川春樹角川書店社長、麻薬取締法違反容疑で逮捕。
- 9.6. 日本出版クラブ創立40周年記念式典開催。
- 9.6. 作家筒井康隆、自著への差別糾弾に抗議、断筆宣言。
10. - 日書連、書店経営健全化推進問題で有力版元を訪問、陳情。

* ベスト3 R・J・ウォラー著『マディソン郡の橋』(文藝春秋) 東京サザエさん学会編『磯野家の謎』(飛鳥新社) 小沢一郎著『日本改造計画』(講談社)

* 10大ニュース 不況下の出版界実感と実態に落差、ミリオン・セラー3点も生まれる、不況背景に休刊誌、リニューアル誌続出、“謎”検証本ブーム、類書50冊を越える、パブル崩壊で内省的ベストセラー続出、日書連、正味獲得運動一定の成果、皇太子成婚で写真集など関連書多数、小沢本ベストセラーに、連立政権関連書も、角川社長逮捕、出版界に大きな衝撃、“ヘア”写真集、引き続き話題に。

【1994(平成6年)】

- 1.7. 公取委、「出版取次業の市場構造に関する実態調査」を発表。
- 1.27. 東京国際ブックフェア 94、幕張～30. メッセで開催。
- 4.18. 消費税裁判、高裁判決、出版社側の控訴棄却。上告へ。
5. - 書籍協会・雑誌協会・取次協会・日書連の業界4団体トップ交替。
- 6.9. 鎌倉書房、東京地裁に和議申請。
- 6.15. 『週刊文春』6月23日号『JR東日本に巣くう妖怪』でJR東日本が管内キヨスクでの同誌販売を拒否。7.25. 和解。
- 8.2. 文部省、初の「読書に関する調査」の概要発表。中学生の4割読書ゼロ。

- 10.5. 大江健三郎、ノーベル文学賞受賞。大江関連書ブーム。

* ベスト3 永六輔著『大往生』(岩波書店) R・J・ウォラー著『マディソン郡の橋』(文藝春秋) 浜田幸一著『日本をダメにした九人の政治家』(講談社)

* 10大ニュース ミリオンセラー『大往生』を始め、異色ベストセラー続出、パーゲンブックフェア話題に、再販制論議に波紋、大江健三郎ノーベル文学賞受賞計120万部突破、JR東日本VS文藝春秋、文藝春秋の謝罪で収拾、マルチメディアブーム背景に関連書創刊誌続出、JPIC朝日新聞社、文部省などの読書調査結果まとまる、消費税アップ確定、定価表示問題が浮上、正味引下げ、大手出版社の対応ようやく出揃う、東京国際ブックフェア開催、アジア太平洋出版連合発足、日書連・書協・取協・雑協など業界首脳交替。

【1995(平成7年)】

- 1.17. 阪神・淡路大震災、書店など大被害。出版界支援活動。
1. - 『マルコポーロ』(文藝春秋) 2月号、「ナチ、ガス室はなかった」で廃刊。編集長も辞任。
- 2.1. 書籍協会・雑誌協会、連合で再販問題に関する見解を公取委に提出。
- 5.31. 「国際子ども図書館」設立に向けて連絡会発足。
- 7.25. 再販問題検討小委員会、「中間報告」発表、出版界強く反発。
- 8.1. 出版文化産業振興財団、『出版文化産業ビジョン21』刊行。
- 9.8. 「本の学校」大山緑陰シンポジウム 米子市で開催。
- 12.13. 出版4団体、金子小委員会中間報告への意見書を公取委に提出。

* ベスト3 ヨースタイン・ゴルデル著『ソフィーの世界』(日本放送出版協会) ウィンストン・グルーム著『フォレスト・ガンプ』(講談社) 松本人志著『松本』(朝日新聞社)

* 10大ニュース 再販問題検討小委「中間報告」発表、出版界は強く反発、日書連、出版物再販擁護全国書店総決起大会開く、JPIC『出版文化産業ビジョン』刊行、『ソフィーの世界』『松本』一気にミリオンセラーに、阪神大震災で出版界も打撃、記録書、防災書相次ぐ、戦後50年関連書続出、オウム事件、多様な関連書刊行、「本の学校」「大山緑陰シンポジウム」開催、大型国語辞典が激しい競合、多様な辞書出版展開、『マルコポーロ』『ガス室はなかった』で廃刊、編集長も辞任。

【1996(平成8年)】

- 1.26. 公取委、「規制緩和に関する施策の検討状況の中間報告について」を公表。
- 2.3. 京都文化博物館で「日本出版文化史展」開幕。
- 4.10. 須坂JBCの設立委員会として株式会社ジャパンブックセンター発足。
- 4.23. 出版倫理協「成年向け雑誌に関する自主規制の申し合わせ」を7月から実施を決める。
- 7.25. 行革委・規制緩和小委員会、「規制緩和に関する論点公開」を公表。
- 10.4. 紀伊国屋書店新宿南店、日本最大のスペースでオープン。
- 12.5. 書籍協会・雑誌協会、規制緩和小委員会の報告に対し、反対を強く表明。

* ベスト3 春山茂樹著『脳内革命』(1~2)(サンマーク出版) 野口悠紀雄著『「超」勉強

法』(講談社) グラハム・ハンコック著『神々の指紋』(上・下)(翔泳社)

* 10大ニュース 大型ミリオンセラー、ベストセラー続出、規制緩和小委、「論点公開」の“再販廃止”に出版界反発、大型書店の開店相次ぐ、増床傾向さらに拍車、電子出版盛んに、インターネットによる販売も具体化、'97年の税率変更に伴う価格表示問題で揺れ動く、吉本隆明の自由価格本(深夜叢書社)話題に、コンピュータ関連書を中心に創刊誌大幅増、人気作家相次いで亡くなる、書店では追悼コーナー、宮澤賢治生誕100年、関連書一斉に出版、常設コーナーも、10~20代をターゲットにした女性誌続々創刊。

【1997(平成9年)】

- 2.13. 取次会社が消費税率変更に伴い、「事務処理のお願い」文を版元に提出。
- 2.25. 公取委、「政府規制等と競争政策に関する研究会」の審議を再開。
- 5.15. FIP0国際雑誌連合、東京国際フォーラム開幕。
- 6.3. 学校図書館に司書教諭の設置を義務づけた学校図書館法改正案成立。
- 8.30. 東京・神田の富士山房神保町売店閉店。明治16年創業の老舗。
- 10.31. 日書連の再販擁護100万人署名、目標達成、11.19. 国会請願。
- 11.3. 出版業界4団体、規制緩和小委に最終要望書を提出。
- 12.8. 政府の行政改革委員会・税制緩和小委員会、「著作物の再販価格維持制度の見直しについて」の最終報告書を発表。出版団体いっせいに反発の共同談話。

* ベスト3 渡辺淳一著『失楽園』(上・下) (講談社) 妹尾河童著『少年H』(上・下) (講談社) 浅田次郎著『鉄道員』(集英社)

* 10大ニュース 返品率の増大に先行きが見えない不況感、再販見直し論議の攻防最終段階へ、被疑者中学生顔写真掲載で『フォーカス』販売自粛広がる、消費税率5%に変更、大きな混乱なく推移、メディアミックスで、『失楽園』ミリオンセラー、文庫マーケットに幻冬舎、小学館などが参入、新しい流通チャネル、インターネット販売本格化、引き続き大型書店の出店、各地で書店戦争も、CD-ROM出版多様化、個性的出版が話題に、日本版ビッグバン構想で多様な出版物相次ぐ。

【1999(平成10)年】

- 1.12. 公取委規制委、出版流通の弊害について指摘する警告書発表。1.13. 書籍協会・雑誌協会、同報告書に対して共同談話。
- 2.19. 日書連による出版物再販廃止反対全国代表者会議、衆参両議員9人が参加。
- 2.24. 公取委、トーハンと日販に対し、独禁法違反容疑で警告。消費税率改定に伴うシステム変更費用負担に関連して。
- 3.12. 書籍協会・雑誌協会・取次協会・日書連の4団体、再販制度見直しに関連して「出版流通問題の改革のために」の声明。
- 3.31. 公取委、「著作物再販制度の取扱いについて」継続検討が必要とする報告発表。
- 5.22. 小学館『週刊ポスト』、時限再販運用雑誌として発売。
- 11.26. 角川書店、東証第2部に株式上場。
- 12.18. 中央公論社、読売新聞社に営業、資

産譲渡、調印。

- 12.18. 婦人画報社、仏アシエット・フィリパッキ・メディアと提携発表。

* ベスト3 五木寛之著『大河の一滴』(幻冬舎) 大川隆法著『幸福の革命』(幸福の科学出版) フランチェスコ・アルペロー著『他人をほめる人、けなす人』(草思社)

* 10大ニュース 未曾有の出版不況いずれも減収減益、公取委「著作物再販制度の取扱いについて」を発表、中央公論社経営不振で、読売新聞社の傘下に、再販制度の弾力運用が検討され、具体的取組みへ、『広辞苑』第5版刊行、広告戦略も話題に、CD-ROM版百科事典、大辞典、事典刊行相次ぐ、隠密作戦のスクープ出版、『ダディ』ミリオンセラーに、角川書店東証第2部上場、事業展開に業界の注目集まる、国立国会図書館創立50周年、電子納本が話題に、新たな書籍メディアにむけて電子書籍コンソーシアム設立。

【1999(平成11)年】

- 2.1. 中央公論新社スタート。
- 2.18. 納本制度調査会、最終答申、電子出版物も対象に。
- 3.25. 電子書籍コンソーシアム年次の総会、次世代電子書籍システム実験へ。
6. - トーハン、電子商取引事業へ参入、セブン・イレブン・ジャパン設立へ。
6. - 書籍協会、ホームページ「BOOKS」、毎月データ更新。
- 7.16. 国際子ども図書館設立推進議員連盟は2000年を「子ども読書年」にすることを決議するとの提案。
- 8.10. 衆議員本会議で西暦2000年を「子ども読書年」とすることが採択。
- 9.1. 日販が新会社ブックキング設立。プッ

- クオンデマンド印刷が主要業務で、社長に菅徹夫・日販社長。
- 10.12. 第1回図書館総合展が東京国際フォーラムで。
- 11.1. 電子書籍コンソーシアムが総合実証実験を開始。
- 11.25. 再販価格維持契約委員会の名称が出版再販研究委員会に。
- 12.28. 公取委は「著作物再販制度下における関係業界の流通・取引慣行改善等の取組状況等について」を公表、再販制の弾力的運用や流通改善の取組みを評価する。また、「ポイントカード」のサービスは消費者利益になるとして、「ポイントカード」制限を牽制した。

* ベスト3 乙武洋匡著『五体不満足』（講談社）大野晋著『日本語練習帳』（岩波書店）大川隆法著『繁栄の法』（幸福の科学出版）

* 10大ニュース 出版不況3年連続、前年割れが続く、インターネット販売多様化し急速な進展、乙武洋匡『五体不満足』が記録的なベストセラーに、『買ってはいけない』大ヒット、批判本も売れる、新書創刊相次ぐ、新書のベストセラーも目立つ、デジタルコンテンツ（BOD）販売始まる、流通改善・再販運用推進委『弾力運用レポート』発表、「老人力」「定年後」をコンセプトにした本が続出、「納本制度調査会」、電子出版物について答申、地方分権一括法成立、図書館長の司書資格不要に。

年 表

出版ニュース社

年表 出版ニュース社

【1949(昭和24)年】

- 10.1. 『出版ニュース』創刊(10月上旬号)日配より継承、通巻、105号。旬刊1日、11日、21日発行)B5判・32頁・定価20円。
- 10.13. 創業。(事務所)東京都千代田区神田錦町3-22 博報堂内。(設立発起人)辰野隆、新居格、山根真治郎、三橋幸三、瀬木博信、村谷正、椎橋博。(役員)社長瀬木博信(博報堂社長兼任)取締役村谷正、椎橋博。(社員)6名 - 日配本店より4名、駿河台支店より1名、博報堂より出向1名。(資本金)50万円。
- 11.11. 『出版ニュース』11月中旬号ベストセラーズ調査第1回発表。
- 12.21. 『出版ニュース』12月下旬号「1949年度出版界の10大ニュース」発表。以後、毎年12月下旬号にその年の出版・読書界の10大ニュースを発表。

【1950(昭和25)年】

- 5.17. 第1期定時株主総会開催。社長に国領茂蔵就任。
- 7.1. 『出版ニュース』7月上旬号から「国立国会図書館納本速報」掲載開始。
- 8.14. 新取次会社間で出版取次懇和会設立の準備進み、まず、入金不良書店の取引状況を相互に通達しあうため、第1号違約書店名簿の依頼を受けて作成、配布。掲出件数1484店。
- 8.25. 出版取次懇和会設立、国領茂蔵社長、副会長に。

【1951(昭和26)年】

- 2.25. 『出版月報』創刊。小売全連(現・日書連)と提携、良書選択の手引きとして、小売書店が読者サービス用として頒布するもの。B6判、32頁、定価5円。創刊号表紙画・川端龍子。
- 4.1. 出版取次懇和会、市販書籍の国立国会図書館への納本促進のため納本事務代行を開始。出版ニュース社はその委嘱を受け事務を担当。
- 4.20. 『出版年鑑』1951年版創刊。B6判、1312頁・定価950円。
- 4.21. 『出版ニュース』4月下旬号大宅壮一「出版は漁業である」を発表。出版事業の性格を漁業と農業になぞらえた説で内外の注目を受ける。
- 6.1. 『出版ニュース』6月上旬号「ぶっくがいど」欄を開設、今日まで継続。
- 6.11. 『出版ニュース』6月中旬号から「国立国会図書館納本速報」と「新刊旬報」を一本化し「新刊分類旬報 - 国立国会図書館納本済みの一般市販図書・自費出版物を収録」として掲載を開始。

【1952(昭和27)年】

- 1.1. 『出版ニュース』1月上旬号から定価20円を30円に改定。
- 1.11. 『出版ニュース』1月中旬号から口絵に「読書の姿態」を掲載。画家に読書に関する絵と文章を寄稿してもらう。第1回・佐藤泰治。
- 10.1. 『出版ニュース』10月上旬号から『私の処女作と自信作』の連載開始。作

家にその処女作と自信作を寄稿してもらおう。第1回伊藤永之介、第2回井上靖、第3回上林暁。

- 10.21. 「読書週間」に提唱。図書館時代の健全な推進に寄与するため、『出版ニュース』10月下旬号に発表。日本十進分類法(NDC)の記号を各書物ごとに印刷しましょう。著論者の略歴とふりがなを各書物ごとに印刷しましょう。ラベル貼付を考慮した背の装幀を考えましょう、の3項目。

【1953(昭和28)年】

- 5.1. 『出版ニュース』5月上旬号、「新刊分類旬報」を縦組みから横組みに変更。(現在の形の基本)
- 6.21 『出版ニュース』6月下旬号に別冊付録として「上半期総目録並びに新刊索引」を刊行。B6判・100頁・定価本誌とも70円。
- 10.21. 『出版ニュース』10月下旬号、250号記念として巻末に「書物の整理」を付す。「日本十進分類法主綱表」も収める。特価50円。
- 11.8. 事務所移転 = 千代田区神田美土代町18。

【1954(昭和29)年】

- 1.1. 『出版ニュース』1月上旬号から定価30円を40円に改定。
- 1.21. 『出版ニュース』1月下旬号、「現代装本家20人集」掲載開始。第1回・恩地孝四郎。装本写真とエッセイを収める。2月から東京・三越本店書籍売場で「現代装本家展」を開く。
8. - 国立国会図書館支部図書館部編『官庁刊行物総合目録』第2巻(B5判・616

頁・定価1400円)の一手発売を始める。

- 9.1. 『出版ニュース』9月上旬号に別冊付録『日本の出版社』B6判・130頁、付録とも80円。
- 9.21. 『出版ニュース』9月下旬号、口絵「現代の出版人」開設。代表する出版人の写真と関係深い文化人による人物評を収める。第1回池島信平(西村孝次)1956年7月15日、単行本として出版。B5判・51頁・定価300円。

【1955(昭和30)年】

- 6.21. 『出版ニュース』6月下旬号臨時増刊『1955上半期文庫・新書・全集・講座総目録』(B6判・170頁・定価60円)刊行。
- 9.5. 『新刊四季報』1955年 (B6判・314頁・250円)刊行。以降1958年版まで、継続。
- 10.5. 『出版ニュース』臨時増刊1956年版『日本の出版社』(B6判・149頁・70円)刊行。57年版から単行本として定期刊行、現在に至る。

【1956(昭和31)年】

- 1.21. 『出版ニュース』1月下旬号、「図書並に図書館関係雑誌記事索引」の掲載開始。のち「出版関係文献資料」と改題、現在に至る。
- 2.1. 『出版ニュース』2月上旬号、「朝日新聞」の出版広告(博報堂扱い)とタイアップ、「読者の書評(感想)」を募集。第1回当選発表、以後、5回継続。
- 3.1. 『出版ニュース(業界版)』3月上旬号、藤井誠治郎(元大東館支配人、元日本出版配給株式会社常任監査役、出版取次懇和会会長、出版ニュース社監査役)の回顧談「回顧五十年」の連

- 載開始、62回連載。1962年1月11日遺稿として単行本(非売品)出版。
- 8.13. 再販売価格維持契約励行委員会は『出版ニュース(業界版)』を同委員会の公報機関に指定、委員会の正式発表を登載。
- 9.28. 東京都再販励行委員会は再販契約違反東京第1号処分を『出版ニュース(業界版)』10月上旬号に発表。
- 10.5. 『日本の出版社』1957年版(B6判・165頁・定価150円)を単行本として刊行、以来、今日まで継続出版。
- 11.14. 事務所移転 = 千代田区神田錦町3-22

【1957(昭和32)年】

- 4.22. 『出版年鑑』1957年版刊行。創刊7冊目であろうやく軌道に乗る。『出版ニュース』2月下旬号で『年鑑にかかわっている部員は、正月休みも3日まで、あとは日曜も祭日も返上してやっている次第』。4月下旬号では「4月22日の第1回配本を前にヤレヤレといった一服状態です。20人内外いたアルバイトがいなくなり嵐のあとの静けさ」と記している
- 10.31. 『新刊四季報』1957年 に特別付録『難読著者名辞典』を付す。

【1958(昭和33)年】

- 10.30. 事務所移転 = 千代田区神田神保町3-17

【1959(昭和34)年】

- 1.1. 『出版ニュース』1月上旬号特別付録美作太郎 編集者から著者への手紙 - 執筆から校正まで」

2. - 新電証 30 2076, 2077開通。今日まで続いている番号。
- 4.21. 『出版ニュース』4月下旬号特別付録エルモ・ローバー、美作太郎訳「読者はあなたの市場である - 本を買わせまいとする邪魔物をどうしたらとりのけられるか」
- 10.13. 創立10周年。
- 10.21. 新取次会社創立10周年を迎え、『出版ニュース』10月下旬号「年表・取次会社の10年 付・出版取次関連事項」を掲載、'60年3月下旬号まで14回連載。

【1960(昭和35)年】

- 3.20. 事務所移転 = 千代田区神田西神田2-2
- 11.1. 第14回読書週間記念「明治大正昭和文豪遺墨展」(三越本店・11.6まで)協賛。

【1961(昭和36)年】

- 1.11. 藤井誠治郎常任監査役死去。
- 10.15. 『辞典事典総合目録 - 戦前・戦後・海外』(B6判・247頁・定価330円)刊行。戦前619点、戦後2133点の辞事典を収載、本邦初出版。

【1962(昭和37)年】

- 10.1. 『出版ニュース』10月上旬号から定価40円を50円に改定。
- 11.30. 『全集総合目録 - 戦後の継続出版物』1963年版(B6判・157頁・定価370円)を初出版、以後、不定期に継続出版。

【1963(昭和38)年】

- 11.1. 『日本雑誌総覧』1963年版 A5判・400頁・定価800円 刊行、以後1977年版まで5冊刊行。
- 11.23. 国領茂蔵社長死去。12月椎橋博、小野高久良の二人が代表取締役就任。

【1964(昭和39)年】

- 1.2. 小野高久良代表取締役死去。1964(昭和35)年4月出版ニュース社入社。
- 4.25. 山崎安雄著『岩波文庫をめぐる文豪秘話』(B40判・318頁・定価340円) 刊行。単行本としての処女出版。
- 9.30. 植原路郎著『実用本の辞典』(B6判・354頁・定価600円) 刊行。
- 9.25. 岩猿敏生・岡本正・林泉之介編『日本文庫めぐり - 蔵書の命運』(B40判・254頁・定価380円) 刊行。
- 11.30. 『新書・全書総合目録』(B6判・451頁・450円) 刊行。

【1965(昭和40)年】

- 3.31. 布川角左衛門・美作太郎著『著作権出版権問答』(B6判・362頁・定価800円) 刊行。
- 9.25. 瀬沼茂樹著『本の百年史 - ベストセラーの今昔』(B6判・358頁・定価680円) 刊行。11月、第2版第1刷発行。

【1966(昭和41)年】

- 8.1. 『出版ニュース』8月上旬号、創刊700号記念特集「本と読書に関する百問百答」を巻末に付す。

【1967(昭和42)年】

- 11.1. 杉村武著『近代日本大出版事業史』(A5判・408頁・定価1100円) 刊行。寿岳文章氏評「幕末から胎動した新しく、烈しい知識欲求が、明治維新に際会い、出版を通してどう噴出したかの壮大な叙事詩...」

【1968(昭和43)年】

- 10.21. 『出版ニュース』10月下旬号、読書週間記念特集として「本と読書に関する百問百答 第 集」を巻末に付す。

【1969(昭和44)年】

- 2.1. 『出版ニュース』2月上旬号から平常号定価70円を80円に改定。
- 6.11. 『出版ニュース』創刊800号。記念特集「本と読書に関する百問百答第 集」を巻末に付す。
- 10.1. 創立20周年(10.13)を迎え、『出版ニュース』10月上旬号を記念号として「戦後ベストセラーズ史」(「取次業界20年の成長」座談会・安藤富蔵、石井晋、石川度治)などを特集。
- 10.13. 創立20周年。長年勤続者を表彰。関係方面に記念品を贈る。
- 10.25. 『本の問答300選 - 付・本と読書の名言・ことわざ』(B6判・358頁・定価480円) 刊行。版を重ねる。

【1970(昭和45)年】

- 7.31. 鈴木敏夫著『出版 - 好不況下 興亡の一世紀』(A5判・726頁・定価3500円) 刊行。荒正人氏評「膨大な資料を収集、出版に関係する人たちが飲食を

節してでも購入して熟読する価値を持っている。」

8. - 日本子どもの本研究会の委嘱により同会編『子どもの本を選ぶ資料 '70年版 どの本もようかな』(A5判・96頁・定価150円)を刊行。

【1974(昭和46)年】

- 5.11. 『出版ニュース』5月中旬号、巻頭「出版時評 出版学会の姿勢 - 総会を前に考える」が出版学会と野間省一会長に対し多大の迷惑をかけたものとして同号を回収、5月下旬に「急告」、6月上旬号に「謹告」を椎橋博社長名で掲載、陳謝。
- 7.1. 『出版ニュース』7月上旬号から平常号定価80円を90円に改定。
- 9.30. 矢作勝美著『伝記と自伝の方法』(四六判・280頁・定価1200円)刊行。杉浦明平氏評「日本文学研究の欠落した部分を埋めるものとして、まことに時宜をえた出版といつてよからう。」
- 12.1. 布川角左衛門・岡田温・寿岳文章・鈴木敏夫・美作太郎編『出版事典』(A5判・660頁・定価6500円)刊行。
- 12.13. 日本出版クラブ会館において完成披露会を開く。わが国初の出版に関する総合事典として注目される。

【1975(昭和47)年】

- 11.10. 紀田順一郎著『書物・情報・読書 - 知識整理と活用の技術』(B6判・264頁・定価980円)刊行。
- 7.1. 『出版ニュース』7月上旬号から平常号定価90円を100円に改定。
- 11.19. 椎橋博社長(3代目)死去。12月、鈴木徹造(取締役出版部長)社長に就

任。

【1973(昭和48)年】

- 7.1. 『出版ニュース』7月上旬号から平常号定価100円を120円に改定。
7. - 春先から用紙不足深刻になり、『出版ニュース』はじめ単行本の用紙確保に努力。
- 8.31. 寿岳文章著『書物の世界』(定版)(B6判・301頁・定価1300円)刊行。1949年、朝日新聞社初版出版の改訂版。
- 8.31. 恩地孝四郎著『本の美術』(A5判・135頁・定価3500円)刊行。1952年、誠文堂新光社出版の復刻版。

【1974(昭和49)年】

- 7.1. 『出版ニュース』7月上旬号から平常号定価120円を160円に改訂。
- 10.1. 10月13日創立25周年を迎えるに当たり、『出版ニュース』10月上旬号を「創立25周年記念号」として「出版界30年のあゆみ - 戦後出版略年史」を特集。
- 10.11. 出版文化国際交流会では海外在住の日本人の出版物購入を容易にするため、『出版ニュース』を外務省在外公館150か所に空輸送付しているが、さらに日本人会、会社、団体、個人にも配布先を拡大することになった。

【1975(昭和50)年】

- 3.11. 『出版ニュース』創刊1000号記念号発行。「出版は漁業である(再録)」大宅壮一、「小説・地下出版者の手記」小中陽太郎などを掲載。
- 10.9. 「フランクフルト・ブックフェア」に

- ～ 14. 『出版年鑑』出展、鈴木社長同展を視察。
- 1.10. 日書連の依頼により『ラベル式新刊速報』の発行開始。書店が最新刊書籍について客の問い合わせに即応できる目録。月3回発行。1回650円。
- 11.20. 紀田順一郎著『本の環境学 - 書物評論集』(B6判・318頁・定価1300円) 刊行。

【1976(昭和51)年】

- 7.15. 山本明著『カストリ雑誌研究 - シンボルにみる風俗史、付録『狷奇』創刊号復刻版』(A5判・420頁・定価4200円) 刊行。
- 10.30. 『本の問答333選 - 付・出版界を築いた人々』(B6判・394頁・定価1100円) 刊行。1969年初版刊行の『本の問答300選』の全面改訂版。

【1977(昭和52)年】

1. - 『出版年鑑』の電算化につき、前年秋頃から、凸版印刷、大日本印刷はじめ数社から打診あり、その対応につき討議を始める。
1. - 国立国会図書館参考書誌部編集・国立国会図書館発行『全国特殊コレクション要覧』(A5判・300頁・定価1500円) の発売元となる。
- 2.1. 『出版ニュース』2月中旬号より平常号定価160円を180円に改定。
- 6.16. 『出版年鑑』の電算化、凸版印刷に決定。
- 6.22. 凸版印刷と第1回打ち合わせ会を開催。
- 7.1. 東村山市立図書館編『地方出版物目録』1977年版 (B5判・280頁・定価2800円) を刊行。7.2. 東村山市役所におい

て贈呈式を行う。

- 10.13. メリーランド大学・マッケンデンライブラリー・イーストアジアコレクション所蔵、日本における占領下の検閲雑誌目録の編集・発行に関する合意書、出版ニュース社、編集者、コンパイラー代表の3者で交換。

【1978(昭和53)年】

- 2.13. 出版資料情報問題につき、書籍協会の招きにより鈴木社長、同協会幹部数氏と懇談、意見交換。
- 4.20. 『出版年鑑』1978年版、凸版印刷コンピュータ漢字情報処理システムにより、はじめて刊行。
- 9.1. 『出版ニュース』9月上旬号より平常号定価180円を200円に改定。
- 12.10. 社団法人著作権資料協会の依頼により、同協会編『著作権事典』(B6判・546頁・定価4800円) を製作、刊行。1985年10月改訂版を刊行。
- 12.20. 鈴木均著『出版の現場学』(B6判・232頁・定価1200円) 刊行。

【1979(昭和54)年】

- 6.1. 朝日新聞芸芸部編『ふみくら 日本の文庫案内』(B6判・290頁・定価800円) 刊行。
- 8.6. 中国上海市(8.6.～26)、長春市(8.20.～9.10)で『日本総合図書展』開催。出品図書リストを『出版年鑑』'79年版のデータを基本に作成。長春市の図書展に鈴木社長参加。
- 9.20. 庄司浅水著『定本庄司浅水著作集 書誌篇』第1巻 (B6判・308頁・定価2500円、限定本定価17,000円) 第1回配本。全12巻。

【1980(昭和55)年】

- 10.13. 荘司徳太郎・清水文吉編著『資料年表日配時代史 - 現代出版流通の原点』B5判・264頁・4200円 刊行。創立30周年記念出版として、1977年より着手したもので、1年遅れて出版。

【1981(昭和56)年】

- 4.1. 『出版ニュース』4月上旬号より平常号定価200円を230円に改定。
- 4.1. 日書連企画により1975年11月創刊した『ラベル式新刊速報』を新しく『バインダー式新刊速報』として発行。
- 2.2. 出版資料情報問題で「プレマーク」案作成。国立国会図書館はじめ関係方面に提出。

【1982(昭和57)年】

- 11.20. 斎藤夜居著『愛書家の散歩』A5判・402頁・定価3000円、限定版18,000円) 刊行。

【1983(昭和58)年】

- 1.31 庄司浅水著『庄司浅水著作集 書誌篇 14巻』B6判・330頁・定価2500円、限定版17000円 刊行。
- 4.30 庄司浅水著『庄司浅水著作集11』B6判・450頁・2500円、限定版17000円) 刊行。
- 11.25 出版ニュース社編『日本の出版社』1984年版 B6判・568頁・3500円 刊行。

【1984(昭和59)年】

- 1.20. 庄司浅水・吉村善太郎著『目でみる

本の歴史』B5判・カラー48頁、モノクロ285頁・本文161頁・索引50頁・定価8800円、限定版25部 付録・複製原寸版リーフ 定価20万円 刊行。

- 6.20. 弥吉光長著『辞典活用ハンドブック』B6判・275頁・定価1500円 刊行。
- 10.8. 美作太郎著『著作権 出版の現場から』B6判・303頁・定価1800円 刊行。
- 10.15. 尾崎一雄他『思い出の本』B6判・273頁・定価1800円) 刊行。
- 11.20. 斎藤夜居著『続愛書家の散歩』A5判・372頁・定価3000円 刊行。
- 11.26. 定時株主総会で鈴木徹造社長、会長に、取締役松本利通、社長に就任。

【1985(昭和60)年】

- 2.1. 『出版ニュース』2月上旬号より平常号定価230円を260円に改定。
- 11.10. 山田朝一著『荷風書誌』B5判・526頁・定価9500円) 刊行。
- 12.20. 出版ニュース社編『出版データブック '45 ~ '84』B5判・137頁・定価1100円 刊行。'92.12.25.『'45 ~ '91』定価2000円) '97.9.25.『'45 ~ '96』本体2400円) を刊行。

【1986(昭和61)年】

- 3.11. 『出版ニュース』3月中旬号より、「TRCマーク」を「ジャパンマーク」に変換した「東販書誌情報」を「新刊分類旬報」に掲載。
- 7.20. 庄司浅水著『書物よもやま話』B6判・372頁・定価2400円) 刊行。
- 12.1. 紀田順一郎監修『本の情報事典』B6判・346頁・定価1600円 刊行。1991年1月新版発行。
- 12.20. 矢作勝美著『活字 = 表現・記録・伝達する』B6判・302頁・定価2000円 刊行。

【1987(昭和62)年】

- 3.31. 朝倉治彦著『書庫縦横』(B6判・398頁・定価3800円)刊行。
- 11.20. 能勢仁著『新書店発想法』(B6判・225頁・定価1300円)刊行。
- 12.21. 佐高信著『佐高信の日に読書あり』(B6判・322頁・定価1600円)刊行。

【1988(昭和63)年】

- 2.25. 清水凡亭著『絵のある俳句作品集』(B5判・132頁・定価2000円)刊行。
- 7.20. 上笙一郎著『児童文化書々遊々』(B6判・366頁・定価3300円)刊行。
- 10.4. 国立国会図書館への納本事務代行終了、東販、日販へ事務引き継ぐ。
- 11.28. 定時株主総会、鈴木徹造会長退任、相談役に。
- 12.26. 国立国会図書館百科編集委員会編『国立国会図書館百科』(B6判・414頁・定価2200円)刊行。

【1989(平成1)年】

- 3.14. 国立国会図書館において、37年半に及ぶ納本事務の協力に対して、下田久則館長から感謝状を受ける。
- 4.11. 『出版ニュース』4月中旬号から平常号定価260円を280円に改定。
- 5.28. 石川弘義・尾崎秀樹著『出版広告の歴史』(B5判・566頁・定価13,390円)刊行。
11. - NTTテレマーケティング株式会社、名鉄運輸株式会社と提携し、新しい書籍注文方法として「0120BOOK」サービスを開始。
- 12.20. 日本著作権協議会編『判例でわかる著作権 - 最新版』(A5判・550頁・定価

3090円)刊行。その後'91年4月30日に『昭和63年・平成元年版』刊行。

【1990(平成2)年】

- 10.5. フランクフルト・ブックフェア日本年に清田社長参加。

【1991(平成3)年】

6. - 出版マーケティング研究会編『書籍出版のマーケティング - いかにも本を売るか』(B5判・288頁・定価3000円)刊行。アメリカABAに清田社長参加、メリーランド大学プランゲコレクション訪問。
- 10.16. 尾崎秀樹著『書物の運命 - 近代の図書文化の変遷』(B6判・406頁・定価3000円)刊行。
- 11.25. 定時株主総会松本利通社長退任、取締役清田義昭、社長に就任。

【1992(平成4)年】

- 1.20. 金亨燦著『証言・朝鮮人のみた戦前期出版界 - 一編集者の回想』(B6判・468頁・定価3000円)刊行。
- 3.31. 田村紀雄著『日本のリトルマガジン - 小雑誌の戦後思想史』(A5判・538頁・定価3800円)刊行。
- 12.10. 渡辺勝二郎著『紙の博物誌』(B6判・326頁・定価2500円)刊行。

【1993(平成5)年】

- 8.31. 『日本の出版社』1994年版刊行。

【1994(平成6)年】

- 5.31. 国立国会図書館編著『稀本あれこれ 国立国会図書館の蔵書から』(B6

- 判・550円・定価3600円 刊行。
2.1. 『出版ニュース』2月上旬号より平常号定価280円を350円に改定。

【1995(平成7)年】

- 10.13. 横山和雄著『編集出版用語誤用集』(B6判・229頁・定価1600円)刊行。
11.20. 荘司徳太郎著『私家版・日記史 出版業界の戦中・戦後を解明する年代記』(A4判・445頁・定価10,000円)刊行。

【1996(平成8)年】

- 3.4. 事務所移転 = 千代田区神田神保町2-40-7 友輪ビル3F
10.30. 鈴木徹造著『出版人物事典 明治 - 平成 物故出版人』(B6判・384頁・定価2884円)刊行。

【1997(平成9)年】

3. - 武埜修著『流通データでみる出版界 1974 ~ 1995』(B5判・299頁・本体4300円)刊行。
5.17. 荘司徳太郎著『私家版・日記史』第18回日本出版学会賞受賞。

【1998(平成10)年】

- 3.31. 浜崎 廣著『雑誌の死に方』(B6判・288頁・本体2200円)刊行。
5.16. 武埜修著『流通データでみる出版界 1974 ~ 1995』第19回日本出版学会賞受賞。
6.25. 横山和雄著『日本の出版印刷労働運

動 - 戦前・戦中篇』上・下 (A5判・上・下1039頁・本体9500円)刊行。

【1999(平成11)年】

- 1.25. 吉田大輔著『著作権が明解になる10章』(四六判・332頁・本体2200円)刊行。
3.1. 著作権情報センター編『新版 著作権事典』(A5判・616頁・本体12000円)刊行。
2.20. 『前川恒雄著作集』全4巻(四六判・各巻平均200頁・各巻2500円)刊行。
5.22. 横山和雄著『日本の出版印刷労働 - 戦前・戦中篇』上・下 第20回日本出版学会賞受賞。
10.1. 出版ニュース社創立50周年記念で『出版ニュース』10月上旬号「出版界50年のあゆみ」特集。

年表

『出版ニュース』
巻頭論文タイトル

『出版ニュース』 巻頭論文タイトル

【1949(昭和24)年】

- 10.上. 読書と人生 新居格
- 10.中. 書店と新しき文化の問題 悪書は良書を駆逐す 鹽谷贊、図書の物質的糧 所健一郎、販売制度の改善に就いて 松信泰輔、書店おりおりの記 秋山一郎
- 10.下. 読書週間と読書運動 青野季吉
- 11.上. いつ出版界は立ち直るか 本の生命を長く保て 中島健蔵、円切り下げ否定と出版界 風間靖一郎、新聞出版人のねがい 祐桑坊宣明
- 11.中. 児童図書と読書傾向 子供と読書 坪田譲治、児童の読書傾向 古川正義、最近の児童図書 古谷綱武、少年雑誌の思い出 松山思水
- 11.下. 政治問題と出版の在り方 政治と図書 金森徳次郎、政治研究図書への考察 岩淵辰雄、政治論文と総合雑誌 松下英麿
- 12.上. 贈り物には良い本を “贈り物には良い本を”ということに就いて 村岡花子、贈り物としての書物 田中豊太郎、1年中つづくクリスマスプレゼント 殖栗文夫
- 12.中. 全集出版物の現状 全集出版の風潮 美作太郎、全集の売れゆき 竹内弘、全集謳歌時代は来るか 李家正文、全集出版の思い出 中根駒十郎
- 12.下. 文芸出版の映画化に就いて 現代文学と映画 飯島正、文芸出版物映画化の功罪 北川冬彦、映画と出版 双葉十三郎

【1950(昭和25)年】

- 1.上. 年をとらぬ正月 - 老若問答 辰野隆
- 1.中下. 文学らしい記録文学 - 本年度文学の傾向について 大宅壮一
- 2.上. 漫画の功罪 サトウ・ハチロー
- 2.中. 出版者の良心と総合雑誌批判 蛭山政道、中村哲
- 2.下. 学校図書館への期待 羽仁説子
- 3.上. 翻訳出版の現状 中野好夫
- 3.中. 謎の国ソヴェト 岩淵辰雄
- 3.下. 生い立ち東西 文学史上に於ける探偵小説の発展 水谷準
- 4.上. 性科学と好色の混乱 式場隆三郎
- 4.中. 現代宗教を批判する 伊福部隆彦
- 4.下. 絵本の色合い 初山滋
- 5.上. 図書館法制定とその意義 中井正一、岡田温、山室民子、布川角左衛門
- 5.中. 文学としての和歌・俳句 青野季吉
- 5.下. アメリカ文化の歴史と現実 金森徳次郎、アメリカの歴史と文化 鈴木耕一、アメリカの作家と読者 並河亮
- 6.上. ノーモア ヒロシマ 芹沢光治良
- 6.中. 百万人の文学と大衆小説 西村孝次、富田常雄、水守亀之助、高山毅、今泉篤男、高原章、大宅壮一
- 6.下. ベストセラー 出版文化向上のために 中島健蔵
- 7.上. 日共幹部追放の波紋 - 出版界その後に来るもの 鍋山貞親
- 7.中. 夏休みの少年少女のために 良書の与え方 長谷健
- 7.下. 生と死の問題 - 文学者自殺考 青野季吉

- 8.上. 小売書店は叫ぶ 長谷川巳之吉、大曾根銚治、田辺茂一、西村孝次
- 8.中. 世界史はいつ書かれるか 村松正俊
- 8.下. 谷崎文学と「少将滋幹の母」 辰野隆、中村光夫、新居格、池田亀鑑、日夏耿之介、恩地孝四郎、野村尚吾
- 9.上. 燈火親しんで良書を読む 含田野夢声
- 9.中. 児童向自然科学書の傾向 野尻抱影、古谷綱武
- 9.下. 読書遍歴 対談・大宅壮一、新島繁
- 10.上. ジャーナリズムの構成 長谷川如是閑、山根真治郎
- 10.中. 本はものにしてものに非ず 西村孝次、浦松佐美太郎
- 10.下. 5つの入門ブックセット 大宅壮一、亀井勝一郎、岩津資雄、新島繁、村松正俊、坪田譲治
- 11.上. 読書の習慣 私の動機 木村一雄、加藤源蔵、中田邦造、伊福部隆彦、楢橋渡、久米井東
- 11.中. 読書はたのしきものなり 渋沢秀雄、高村光太郎 典型 研究書評 三好達治、草野心平、吉田精一、北園克衛
- 10.下. 文庫本の価値批判 佐多稲子、猿取哲、水守亀之助
- 12.上. 読書人の為の「読書論」研究 新居格
- 12.中. 今年の児童図書をみる 古谷綱武、田中豊太郎
- 12.下. 1950年の出版収穫 中島健蔵

【1951(昭和26)年】

- 1.上. 明瞭に見よ 詩・高村光太郎 絵・向井潤吉、新春読書娯楽版 三木鶏郎グループ、千草一夫、川上三太郎
- 1.中. 児童ものの出版に望む 羽仁説子、座

- 談会・僕たちの私たちの読書 東京教育大学付属小学校6年生6人 司会・同校首席教諭田中豊太郎
- 1.下. 著者と出版社との関係 大宅壮一
- 2.上. 座談会・3新聞社会学部長大いに語る 石井貞二、森村正平、川村専一
- 2.中. 国際不安と出版人 村松正俊
- 2.下. 売れる本・売れぬ本 西村孝次
- 3.上. 書物の旅路 美作太郎
- 3.中. 「いかに読むべきか」欄開設座談会 書評委員会、書評『原子爆弾の効果』 田口 三郎 山口宗夫
- 3.下. 座談会・覆面をぬいで - 匿名雑誌批評を語る 西村孝次、新島繁、水守亀之助
- 4.上. 青年のための読書論 加藤周一
- 4.中. 古典 - その復活と味わい方 村松正俊
- 4.下. 出版は漁業である 大宅壮一
- 5.上. 『出版年鑑』1951年版を評す 新居格
- 5.中. 最近の出版物の傾向 玉城肇
- 5.下. その後に望むもの - チャタレイ公判と出版文化 荒垣秀雄、チャタレイ裁判傍聴記 西村孝次
- 6.上. こころの窓をひらけ - 婦人の立場と読者の態度 板垣直子
- 6.中. 源氏物語の現代訳 - 与謝野・窪田・五十嵐・舟橋氏の労作 池田亀鑑
- 6.下. 追放解除後に於ける文化各界人の動き 大宅壮一、わいせつ出版物取締まりをめぐる波紋
- 7.上. 暗中模索の「日本人」 - 回顧ものと日本人もの 伊藤整
- 7.中. 新中国の関係図書評 新島繁
- 7.下. 夏休みの読書指導 - 上半期の優れた児童図書 坂西志保
- 8.上. 対談・ベスト・セラーは追っかかず 神吉晴夫、岩堀喜之助
- 8.中. 現代風景の基本構図 - コミュニズムに対する知識人 荒正人

- 8.下. 出版界を築いた人々 柳田泉
- 9.上. 吉川英治における作品と人間研究
海音寺潮五郎、水守竜之助、吉川
晋、徳川夢声、吉川英治氏を訪ねて
編集部
- 9.中. わが読書論 美作太郎
- 9.下. 対談・講和と読書人 新居格、村松
正俊
- 10.上. 図書館協会60周年に寄せて 中井
正一、武田虎之助、板垣直子
- 10.中. 文芸作品の映画化 飯島正、水守竜
之助、網野菊、原久一郎、花島克己
- 10.下. 随筆の意義・随筆の味 新居格、海
外の随筆 春山行夫
- 11.上. 独立日本は何を読みとるべきか
冷静に現実を視よ 岩淵辰雄、平和
と独立と奴隷と 村松正俊、アン
ケート・読むべき書物
- 11.中. 日本文学の現状報告 本多顕彰、大
宅壮一、木村恭助、板垣直子
- 11.下. 只今 大衆娯楽読物 全盛なり 中
島健蔵、海音寺潮五郎
- 12.上. 散在する読書クラブ 美作太郎、三
枝博音
- 12.中. 右翼の思想家とその特質 津久井
龍雄、田中惣五郎
- 12.下. さよなら読書界1951年 対談・西村
孝次、新島繁

【1952(昭和27)年】

- 1.上. 新春読書偶感 武者小路実篤、求め
て飽くこと知らねど - 昭和27年の
読書界に望む 金森徳次郎
- 1.中. ジャーナリズムの戦争観と平和観
論議は充分につくせ(改造) 村松
正俊、承服しがたき信念論(世界)
鍋山貞親、青少年の声を聞け(中央
公論) 平野義太郎、先に理想をお
いて読め(文藝春秋) 阿部真之助、

平和問題を扱った本

- 1.下. 自己欺瞞に陥らない努力 - すべて
は読者の態度にある 串田孫一
- 2.上. チャタレイ裁判を審判する 大宅
壮一、「チャタレイ判決」批判アン
ケート21氏
- 2.中. 清水幾太郎の正体と魅力 新島繁、
南博、津久井龍雄
- 2.下. 座談会・20代の読書 司会・西村孝
次
- 3.上. マーク・ゲイン『ニッポン日記』研究
三宅晴輝、岩淵辰雄、堀口瑞典
- 3.中. 戦記物の流行 - いかに関心し批判
するか 批判の盲点をつく 平貞
蔵、感傷的な戦争謳歌 石垣綾子、
敗戦史を書く権利と義務 福林正
之、アメリカの戦史について 中野
五郎、戦後の主要戦記物出版
- 3.下. 出版物からみた青少年の性環境
親は子供の友人たれ 古谷綱武、性
教育は解決の鍵 山室民子、少年非
行と性的出版物 皆川邦彦、子供の
抗議 森江啓三、少年をめぐる性雑
誌 警視庁少年第2課調査
- 4.上. 特集・評論家としての小泉信三 温
健な常識の代弁者 村松正俊、清楚
典雅な小泉先生 奥野信太郎
- 4.中. ロンドン通信 - 読書する英国民
マックリーヴェ・阿矢子(在ロンド
ン)
- 4.下. 特集・源氏鶏太の軽文学 源氏鶏太
と語る 新島繁、時好に投じた軽文
学 木村恭助、軽妙な3等重役 末
廣恭雄
- 5.上. 『平凡』の人気を診断する 徹頭徹
尾の視覚性 大宅壮一、ゆきわたっ
た招待状 荒正人、岩堀社長を訪れ
る T・S
- 5.中. 特集・独立とジャーナリズム 民主
主義の育成 岩淵辰雄、期待する民

- 族への寄与 平貞蔵、高邁な識見と
団結を望む 正木ひろし
5. 下. 鼎談・この頃の雑誌 木村毅、春山
行夫、美作太郎
6. 上. 民族の新しい人間像の形成につ
いて 青野季吉
6. 中. 言論と出版の自由 中村哲
6. 下. アメリカ批判・軍事裁判批判・占領
批判の書、続々刊行さる 村松正俊
7. 上. 特集・アメリカの人間像 ホイット
マン研究 安藤一郎、石川欣一、石
井満
7. 中. 新聞社の出版活動を欠席裁判する
対談・岩淵辰雄、大宅壮一
7. 下. 独立から80日間 - 雑誌ジャーナ
リズムの変貌を解明する 新島繁
8. 上. 歴史小説は生きている 高木健夫、
評判の歴史小説を批評する 中谷
博
8. 中. 週刊ジャーナリズム論 美作太郎
8. 下. 直言と直言する人々 木村恭助、中
野栄、村松正俊
9. 上. 新秋文学談 西村孝次
9. 中. “アジアの赤い星”は流れる。対談・
魚返善雄、和田斎
9. 下. 辻政信著「自衛中立」 書評委員会
(A) 戒能通孝、平貞蔵、書評委員会
(D)
10. 上. 戦争を描いた日本文学 木村恭助
10. 中. 国民が描いた新しい政界地図 岩
淵辰雄
10. 下. ラジオ、そしてテレビ戦争時代に
出版はどうなるか 北園克衛、石垣綾
子、アンケート16氏
11. 上. 出版ジャーナリズムに直言する
本多顕彰、村松正俊
11. 中. 河上肇とその時代 村松正俊
11. 下. その後の共産党と出版活動 新島
繁、対馬忠行、佐々春雄
12. 上. “偉人伝”流行の背景 沢田謙、木村

- 恭助、子供の読んだ偉人伝 東京・
桜田小学校、泰明小学校生徒
12. 中. いわゆる“平和攻勢”について 書
評委員会(A)
12. 下. グッド・バイ1952年 大宅壮一

【1953(昭和28)年】

1. 上. 尾崎士郎の文学 木村恭助、私の文
学について 尾崎士郎
1. 中. 自由はどこにも無くなっている
今日の問題研究会(平)
1. 下. 本年の出版界 三宅晴輝
2. 上. 著作家とその書齋(1)大宅壮一氏訪
問・志村喬一郎
2. 中. 動物文学炉辺放談 乾信一郎
2. 下. 文化交流と文学について 青野季
吉
3. 上. 戦犯者の獄中からの手紙を読んで
今日の問題研究会(山)
3. 中. 丹羽文雄の文学 木村恭助
3. 下. 検定という名の教科書 今日の問題
研究会、家庭と教科書 村岡花
子、検定教科書について 石黒修
4. 上. ツアー・スターリンの死 対談・鍋
山貞親、村松正俊
4. 中. 解説・実存主義 榎山欽四郎、松浪
信三郎、村治能就、安井源治、谷長
茂、記述=川原栄峰
4. 下. 浪花節と新時代 新島繁
5. 上. 著作家とその書齋(2)富田常雄とい
う作家 刈田米次郎
5. 中. 新しい中国をどう理解するか 今日
の問題研究会(山)
5. 下. 装本30年 - 書物に対する愛情と共
に 恩地孝四郎、恩地孝四郎の装本
美学
6. 上. 日本一の図書館はどうして生れた
か - 沼津東高等学校図書館訪問記、
図書館は読書文化財の社会保障

- 深川恒喜
6. 中. 書評の書評 - 『光ほのかに・アンネの日記』を刎上に 書評委員会(4)
6. 下. 上半期'文化'決算書 大宅壮一
7. 上. 朝鮮戦争の休戦 村松正俊、三宅晴輝
7. 中. 講談社文化の功罪 語る人 尾張真之介、聞く人 - 春山行夫
7. 下. 図書館、書店の中立性は守られているか 有山崧、大曾根銚治、出口一雄ほか
8. 上. 昔と今の出版ジャーナリズム 水守亀之助
8. 中. 内幕もの of 意図するもの 書評委員会(E)
8. 下. 巴里にいる日本人 海藤日出男
9. 上. コトバの考現学 - 話し言葉と書きコトバ 石黒修、魚返善雄
9. 中. 緊張する政治季節の焦点 岩淵辰雄
9. 下. ボーヴォワール『第二の性』共同研究 櫻山欽一郎、松浪信三郎、村治能就、安井源治、谷長茂、関義、川原栄峰、記述 = 掛下榮一郎
10. 上. 文学を通して観た戦後の歩み 十返肇
10. 中. 鼎談・全集合戦の最前線 司会・西村孝次、出口一雄、木村一雄、金原孝明
10. 下. 知識人の政治参与 新島繁
11. 上. 新しい民族の息吹き - 中国関係書4冊を読んで 書評委員会(A)
11. 中. 学校図書館新生の問題点 対談・石黒修、古川正義
11. 下. “日記”はいらんかねえ - すずめたい読書の感想日記 西村孝次、日記の変遷を見る 春山行夫
12. 上. 「君の名は」人気の正体をさぐる 書評委員会(E)
12. 中. 社会と児童への良心の文学 - 小川

未明と児童文学 船木柾郎

12. 下. 1953年を送る 対談・大宅壮一、三宅晴輝

【1954(昭和29)年】

1. 上. 年頭所感 不安定の中の抵抗力 青野季吉
1. 中. 読者が代わって読みかつ報告する - 読者の批評に依えて 書評委員会
1. 下. 今年の日本の相貌 村松正俊
2. 上. 文豪の腹の虫 水守亀之助
2. 中. “工口出版”の生態 XYZ
2. 下. 出版文化の内側 今日の問題研究会(B)
3. 上. 汚職と日本の政治 岩淵辰雄
3. 中. 10代の人気縮図 - 『平凡』『明星』を検討する 藤田三四郎
3. 下. 美術書出版の流行 北園克衛
4. 上. 右翼は何を考えているか 津久井龍雄
4. 中. 伊藤整論 - 作家と評論家の混合 板垣直子
4. 下. 神吉晴夫氏を中心とする光文社出版 白河太郎、岐路に立つ 神吉晴夫
5. 上. 風雪に揺らぐ日本国憲法 新島繁
5. 中. 時代の危機と若い世代 西村孝次
5. 下. 日本は救われるか(時評1) 村松正俊
6. 上. 日本はこうして自滅して行く(時評2) 村松正俊
6. 中. 自滅の象徴(時評3) 村松正俊
6. 下. 上半期の6か月 対談・大宅壮一、美作太郎
7. 上. 出たとこ勝負(時評4) 村松正俊
7. 中. 知能と本能の分裂(時評5) 村松正俊
7. 下. “頭の体操”夏の読書もまた楽しか

- らずや 書評委員会
- 8.上. 講談の復活 新島繁
- 8.中. 秋のシーズンを迎える美術界の諸問題 植村鷹千代
- 8.下. 『われら水爆の海へ』を読んで 書評委員会(F)
- 9.上. 出版10年の盛衰 今日の問題研究会
- 9.中. 同上(続)
- 9.下. 大達文政の肚の底 伊藤整
- 10.上. 『終身未決囚』のモデル問題 - 往復書簡 津久井龍雄、有馬頼義
- 10.中. 伊藤整の魅力を分析する 十返筆
- 10.下. その後の訪問図書館・千葉県ひかり号 編集部、文化の水平運動 廿日出逸暁
- 11.上. 推薦図書論 - 官選は事大主義を助長 西村孝次
- 11.中. 『潮騒』と三島文学 書評委員会
- 11.下. 教育とその周辺の現実 石黒修
- 12.上. 特集・読者の発言をめぐる 古谷綱武、美作太郎、神吉晴夫、小林美一
- 12.中. 素人文芸放談 鈴木博、原田惇
- 12.下. 本年度の出版収穫

【1955(昭和30)年】

- 1.上. 新しい年はあけわたる 柳田謙十郎
- 1.中. 総合・文芸雑誌論 村松正俊、谷長茂、嘉治隆一
- 1.下. ベストセラー1954年
- 2.上. 海外日本人の読書の生態 大宅壮一氏の土産話 聞く人・岩堀喜之助
- 2.中. 総選挙にのぞむ見識 青野季吉
- 2.下. さまざまな日本の雑誌
- 3.上. アラゴン『レ・コミュニスト』研究 共同研究 - 安東次男、白井健三郎、関義、谷長茂、松浪信三郎、記述 = 谷長茂

- 3.中. 青年と古典 伊福部隆彦
- 3.下. 学力低下と漢字の問題 村松正俊
- 4.上. 不良出版物と学校図書館 鼎談・石黒修、古川正義、千谷益子
- 4.中. 『世界大百科事典』誕生 書評委員会、世界の百科全書と平凡社版 春山行夫、
- 4.下. ロマン・ロランの『戦時日記』 袋一平
- 5.上. 出版界1年の縮図『出版年鑑』
- 5.中. 善意の文学 壺井栄の作品と活動 板垣直子
- 5.下. 出版プロデューサーはつねに読者にもある 神吉晴夫
- 6.上. 人生論の流行について 柳田謙十郎
- 6.中. 検定教科書と自由な教育 金久保通雄
- 6.下. 上半期の出版・読書界 対談・西村孝次、美作太郎
- 7.上. 言論の自由ということと表現の自由ということ 書評委員会(D)
- 7.中. 教科書問題の焦点 対談・石黒修、金久保通雄
- 7.下. 『広辞苑』ブームの内側 書評委員会
- 8.上. 戦後の10年 青野季吉
- 8.中. イギリスの日本語研究の現状 マックリーヴェ・阿矢子
- 8.下. 浅草の子供たちと読書 一瀬直行、資料提供・千田忠、伊藤義雄
- 9.上. 学校図書館の近状 石黒修
- 9.中. 恋愛論における問題点 中河与一
- 9.下. 競う各社の図書目録 書評委員会
- 10.上. 流行作家10人のプロフィール
- 10.中. 漢字・漢語は笑う 魚返善雄
- 10.下. 実存主義と共産主義 実存主義談話会・櫻山欽四郎、村治能就、松浪信三郎、安井源治、谷長茂、田島節夫他
- 11.上. 読書の周辺 書評委員会(B)

- 11. 中. 雑誌天気図 - 晴れたり曇ったり
中央公論と文藝春秋の思い出 水
守竜之助
- 11. 下. 探偵小説戦後2度目のブーム 鈴木
幸夫
- 12. 上. 作られるベストセラー 神吉晴夫
- 12. 中. 雑誌・1年の総決算 池島信平氏に
聞く
- 12. 下. 書籍・1年の総決算 美作太郎氏に
聞く

【1956(昭和31)年】

- 1. 上. 文章革命の思い出 安田徳太郎
- 1. 中. 新書判カッパ・ボックスの場合 神
吉晴夫
- 1. 下. 決定版・ベストセラーズ1955年度の
総決算
- 2. 上. 「読者の書評」について 西村孝次
第1回「読者の書評」感想 当選作
発表、6. 上. まで5回発表。
- 2. 中. 芥川問題と出版ジャーナリズム
由利政之
- 2. 下. 常識講座・雑誌の発売日
- 3. 上. 書評の在り方 書評委員会(B)
- 3. 中. 実社会の門出に贈る - 学窓を飛び
立つ若い人にどんな本をすすめる
か 柳田謙十郎、沢田謙
- 3. 下. 進歩的知識人の問題 - フルシチョ
フ、ミコヤン演説の波紋 村松正俊
- 4. 上. さかんに出る国・漢・英の辞典 石
黒修
- 4. 中. 本や映画にあらわれた裁判批判の
問題 今日の問題研究会
- 4. 下. 出版・読書界 1年間の総決算 - 『出
版年鑑』1956年版の編集を終わって
- 5. 上. 蘇った3つのブーム - 探偵・戦記・
映画出版の現状
- 5. 中. 地方財政窮乏下の公共図書館 有
山崧

- 5. 下. 石原旋風は社会的狂燥曲だ 由利
政之
- 6. 上. 菊田一夫の作品二重発表 健康状
態とは言えない 水守竜之助
- 6. 中. 天才か操り人形か - 一少女の詩集
がフランスのジャーナリズムをわ
かせたミヌー・ドルーエ事件 長塚
隆二
- 6. 下. イギリス版八海事件 - コナン・ドイ
ルの活躍・50年間偽証者が生存
マックリーヴェ・阿矢子
- 7. 上. 匿名座談会・さし絵画壇鳥瞰図
- 7. 中. 成功もの出版と社会の現実 書評
委員会(B)
- 7. 下. 夏と読物 - 私の読書随筆 三宅晴
輝
- 8. 上. 科学小説とは? 書評委員会(B)
- 8. 中. 町医の風流読書カルテ 語る人・一
瀬直行、三浦隆蔵、前田赤衛
- 8. 下. 牧野富太郎博士の生活と出版 向
坂道治
- 9. 上. 神吉晴夫海外視察縦横談
- 9. 中. 石川旋風の波紋とその意味するも
の 新島繁
- 9. 下. 良書はどこにでもある 書評委員
会(B)
- 10. 上. 谷崎潤一郎をモデルに 中河与一
- 10. 中. 戦後・戦記もの出版の全貌
- 10. 下. 女流文学を生かす女の持味 板垣
直子
- 11. 上. 灯火親しむべし - 読書週間は売書
運動か 今日の問題研究会
- 11. 中. 海外版太陽族文学の批判 松浪信
三郎、村治能就、大島重正、谷長茂、
佐伯彰一、窪田般弥、高橋恒生 記
述 = 高橋允昭
- 11. 下. 二つの緊急増刊号『1960年』を中心
に 書評委員会(B)
- 12. 上. 読書は目的ではなく手段である
有山崧氏に聞く

12. 中. 雑誌の特集単行本化 - 店頭からみた1年 座談会・竹内博、木村一雄、井正敏
12. 下. 月賦制度も登場 - 店頭からみた1年 座談会・竹内博、木村一雄、酒井正敏

【1957(昭和32)年】

1. 上. 尾崎士郎新春 - タバなし 人生観も変る原子力時代
1. 中. 『鍵』を読んで - 性の幼稚な操作 板垣直子
1. 下. 著者・著述家論 村松正俊
2. 上. 出版談義 対談・布川角左衛門、美作太郎
2. 中. 検定教科書の孕む問題点 真下孝雄
2. 下. 特集・辞典のはなし 西村孝次、石黒修
3. 上. 日本文学翻訳ばなし 対談・サイデンステッカー、魚返善雄
3. 中. 人類主義と民族主義 伊福部隆彦
3. 下. 性と文学と政治 新島繁
4. 上. 週刊雑誌と無個性 書評委員会(B)
4. 中. 歴史的業界再編成の巨歩! - 日本書籍出版協会の発足をめぐって 鼎談・江草四郎、小林茂、布川角左衛門
4. 下. 映画の餌食に書物あり 森満二郎
5. 上. 都留証言と進歩的知識人の悲劇 書評委員会(D)
5. 中. 明治大正60年の出版文化 岡野他家夫
5. 下. 三光事件の真相 - 憂うつになる本を何故に出版したか? 神吉晴夫氏と語る
6. 上. 岩波文庫の30年 長田幹雄氏と語る
6. 中. 山の本あれこれ 袋一平
6. 下. 河出の倒産が筆頭 - 上半期は問題

7. 上. が多かった 大宅壮一氏と語る 読書における処女地 - 農村の若き世代は本を待っている 丸山義二
7. 中. 教科書の 総選挙 終る 石黒修
7. 下. ドイツの良さ・日本の良さ 川原栄峰、榎山欽四郎、松浪信三郎、安井源治、谷長茂、窪田般弥
8. 上. 話題「明治天皇と日露大戦争」 書評委員会(B)
8. 中. 最近の美術界 - 日展問題の裏話、出版美術等 語る人・日野耕之祐、福田龍生、藤沢逸哉
8. 下. ジャーナリズムに創価学会ブーム 新島繁
9. 上. 昭和史におけるインテリの役割 津久井龍雄
9. 中. 戦争文学のさまざまな型 猪俣礼二
9. 下. 座談会・この夏の決算書 - 取次店はこう見る 青木堯、石井晋、松本昇平
10. 上. 修身科の復活と道徳教育 村松正俊
10. 中. 味読によし爽涼の秋 中野栄他
10. 下. 文学をどう観るか - 佐古純一郎氏の「文学はこれでいいのか」をめぐって 書評委員会H氏と語る
11. 上. 愛書家林羅山の蔵書 岩倉規夫
11. 中. 座談会・あの情報この情報、出版界にはこんな話がある 小森田一記、橘経雄、船木実
11. 下. 宇宙旅行の読物は? - ソ連の科学普及書と科学空想小説 袋一平
12. 上. 業界先覚者の生涯 - 安倍能成著『岩波茂雄伝』を読んで 書評委員会(B)
12. 中. 侘しきかな停年制 - 二つの関係図書を中心に 酒井章一
12. 下. 1年間の回顧 - 両団体を中心に 対談・小玉国雄、坂田謙二

【1958(昭和33)年】

- 1.上. 青野季吉新春清談 - 地球の外へ衛星を飛ばしたというだけではなく、人類の大革命立証の年
- 1.中下. 神吉晴夫氏大いに語るベスト・セラー論
- 2.上. 座談会・出版社週刊誌の考え 佐藤亮一、大島守正、柳沢彦三郎
- 2.中. 中国のローマ字と漢字の現段階 魚返善雄
- 2.下. 道德的危機と民族的危機 伊福部隆彦
- 3.上. 中国の出版・日本の読者 対談・康大川、神吉晴夫
- 3.中. 今日の雑誌について 書評委員会(A・B・C)
- 3.下. 書評紙とP・R紙 - 書評新聞は何処へ行く 美作太郎氏に聞く
- 4.上. 文芸雑誌の曲り角 書評委員会(山)
- 4.中. 総合3誌のもつ3つの型 書評委員会(B)
- 4.下. 特集・読者の発言 本の定価はなぜないか 初版を装う重版 「週刊読書人」の独自構想と「日本読書新聞」問題について
- 5.上. 出版と広告 鼎談・榊原彬、川崎勲、須藤博
- 5.中. 昭和史の問題と『私の昭和史』をめぐって 書評委員会(B)
- 5.下. 版画教育の現状 太田耕士
- 6.上. 対談・造本について 藤森善貢、牧恒雄
- 6.中. 署名入りか匿名書評か 座談会・書評委員会(A・B・C・D・E)
- 6.下. 座談会・ベストセラー始末記 松本昇平、多賀義勝、角屋正隆、清水平八郎

- 7.上. ソ連の出版界 語る人・栗本和夫 聞く人・小森田一記
- 7.中. 石川達三『人間の壁』をめぐって 真下孝雄
- 7.下. ベストセラーの急所 神吉晴夫氏に聞く
- 8.上. 座談会・売行きから覗いた週刊誌時代 小池亨、手塚徳雄、中津新市、三浦博
- 8.中. 本は広告で売るもの - だのに、最近の文案はどうか 池田次次郎
- 8.下. ある出版社の生活と意見 沢田伊四郎氏と語る
- 9.上. 秋の呼び物出版 座談会・折戸俊雄、多賀義勝、山口浩
- 9.中. 座談会・教養と娯楽の間 書評委員会
- 9.下. 書評をめぐる人物地図 Y・M
- 10.上. 日本の英文出版 座談会・安藤早苗、内海庸介、中上順平、矢吹勝二
- 10.中. 読書週間に注文する 対談・美作太郎、榊井義雄
- 10.下. 時評・日本の百年の運命とは何か 村松正俊
- 11.上. 松川事件と広津和郎氏 猪俣礼二
- 11.中. 発掘された明治史の一側面 - 石光真清氏の自伝を読んで 中野栄
- 11.下. 新たに戦列に - 『週刊女性』黒崎編集長と語る
- 12.上. 刑死寸前の読書と心境 - ある死刑囚の場合 細田源吉
- 12.中. 雑誌・回顧と展望 池島信平氏と語る
- 12.下. 書籍・回顧と展望 対談・西村孝次、竹村一

【1959(昭和34)年】

- 1.上. 下中弥三郎新春清談
- 1.中下. 読者と直結する出版物普及の高率

- 化 小森田一記
- 2.上. 文部省の図書認定制度をどうみるか 鼎談・叶沢清介、佐野友彦、弥吉光長
- 2.中. 図書の認定制・文部省の考えを聞く
- 2.下. 図書認定制・出版業者はなぜ反対するか 鼎談・岩崎徹太、神山裕一、佐久間庸
- 3.上. マスコミと言論弾圧 村松正俊
- 3.中. にぎわう週刊誌の話題
- 3.下. 政治と文化と出版と書評委員会 山・川
- 4.上. 児童雑誌のここに問題がある 対談・石黒修、古川正義
- 4.中. 学校図書館 - 図書と教材費 対談・佐藤三樹太郎、松尾弥太郎
- 4.下. 小説『ドクトル・ジバゴ』の諸問題書評委員会(D)
- 5.上. 1958年度の出版
- 5.中. 特集版・読者の発言
- 5.下. 月刊雑誌は健在か? 週刊誌進出の影響と限界 出版評論集団
- 6.上. 双曲線 - 文部省選定図書問題をめぐる二つの協会 対談・本吉信雄、坂東恭吾
- 6.中. 出版物と登録商標 特許庁岩田龍一審議官と語る
- 6.下. 民主主義と図書の官選 村松正俊
- 7.上. 週刊雑誌とエロ取締 青野季吉氏にきく
- 7.中. 海賊版と翻刻版 相良広明
- 7.下. 夕涼見書物散策 対談・植原路郎、八木福次郎
- 8.上. 『週刊野球』休刊の真相 小野高久良、高森栄次
- 8.中. 出版界人物鳥瞰図 覆面子
- 8.下. 対談・北一輝の思想 田中惣五郎、津久井龍雄
- 9.上. 女流作家群の系列と作品 板垣直子

- 9.中. 読物・印刷工場 - 週刊誌ブーム影の推進者
- 9.下. 高校生はこんなふうに読んでいる - 学校図書館に現れた諸傾向 辻田東造
- 10.上. 読書推進運動の構想 - 読書週間と図書券の発行 布川角左衛門氏に聞く
- 10.中. 10パーセントの魅力 - 広告関係者の出版時評
- 10.下. 講談社50年の伝統 加藤謙一氏に聞く
- 11.上. 療養者の診たてた精神カルテ 司会・谷長茂
- 11.中. 見放された児童文学 船木枳郎
- 11.下. 神吉晴夫出版放談 - 作るベストセラ-35年度の目標
- 12.上. これがソノラマだ! 本多正道、井沢淳、中村喜一、岩月日出夫、福岡信、新田初雄
- 12.中. 1959年を回顧する・販売界 座談会・小貫英、出口一雄、大熊太一
- 12.下. 本と雑誌の一年 座談会・梶井義雄、酒井健次郎、田中京之介

【1960(昭和35)年】

- 1.上. 出版は大建築に似ている 語る人・南条初五郎、佐藤一雄、佐々木英規
- 1.中下. ベストセラーと出版社 竹村一氏と語る
- 2.上. 日本漫画の診断書 片寄みつぐ
- 2.中. 民衆と握手した読書運動 - 『県立長野図書館三十年史』を中心に 弥吉光長、有山崧
- 2.下. 世論は演出されるか 書評委員AとBの対話
- 3.上. 学習書は悩んでいる - 適正定価をめぐって
- 3.中. 社史 - その静かなるブーム 藤代清吉

- 3.下. その後の週刊誌いまの全集全 相野谷森次、松本昇平
- 4.上. 混乱する国語国字 村松正俊
- 4.中. 沖縄、その現状と出版貿易の事情 片岡春樹
- 4.下. 出版の断層 - 雑誌と書籍
- 5.上. 教科書問題をこう見る 石黒修
- 5.中下. 旅を書く - さまざまな旅の本 戸塚文子
- 6.上. 児童全集を構成する世界の名作
- 6.中. 読書普及の現状 - 読者の実態と出版事情 座談会・多賀義勝、出口一雄、河北憲夫
- 6.下. 6・15事件をめぐる週刊誌 - ハガチー氏来日からアイク訪日延期まで
- 7.上. 今年上半期の話題
- 7.中. 児童雑誌の漫画の魅力 出席者・石坂勇、及川均、金子一雄、小林武彦、野島良治、古屋均、司会・指方竜二
- 7.下. 中小企業問題と関係書群 笹沼喜守
- 8.上. フォノ・シートの音質 高城重躬
- 8.中. ベスト・セラーズ15年の変遷 座談会・A・B・C・D
- 8.下. 戦後出版社の興亡
- 9.上. 秋の出版企画をさぐる
- 9.中. この大いなる文学全集 - 講談社版『日本現代文学全集』 講談社側 = 服部敏幸、山口勘三、須藤博ほか、取次側 = 石川度治、石井晋、深山尚文ほか、歴史的背景に立つ文学全集 亀井勝一郎
- 9.下. 長編に挑む児童文学の新人 久保喬、作品に秘める感動 松谷みよ子
- 10.上. 出版普及の裏窓を見る - 書籍・雑誌の返品処理現場
- 10.中. 当世愛書家気質 勝田三壺
- 10.下. ある性科学書の場合 『性生活の知恵』と戦後性書の変遷

- 11.上. 第14回読書週間を展望する
- 11.中. 万引を科学する
- 11.下. 出版企画は時代と共に変化し発展する 神吉晴夫氏と語る
- 12.上. 新しい「装釘」をこう考える 座談会・大森忠行、河原淳、難波淳郎、勝本富士雄
- 12.中. 出版界の景気成長率 - 本年度における出版販売展望 座談会・折戸俊雄、角屋正隆、松本昇平
- 12.下. 出版企画と読者開拓 - 本年度における出版販売展望 座談会・折戸俊雄、角屋正隆、松本昇平

【1961(昭和36)年】

- 1.上. イギリスの読書界 語る人・マックリーヴェ・阿矢子、聞く人・相良広明、橋詰彰三
- 1.中下. 本をさがす仕事 - わたしの資料あさり余談 春山行夫
- 2.上. テレビと児童雑誌の関係 - 係数による一考察
- 2.中. 日本で裁かれるサド 谷長茂
- 2.下. 少年の夢を育てて - 回想の『少年倶楽部』 創刊号の編集長 - 「それは私です」 尾張真之介
- 3.上. 発禁昭和小史 福岡井吉
- 3.中. 週刊誌編集裏ばなし
- 3.下. 官庁PR誌の攻勢 藤代清吉
- 4.上. ライシャワー氏の著書 書評委員会(A)
- 4.中. 定時制高校生の読書の実態 林茂男、三浦巖
- 4.下. 国会のことばア・ラ・カルト 武部良明
- 5.上. こどもの読書環境 特集・ABCD座談会
- 5.中. 戦後発禁書の話
- 5.下. カメラでのぞいた世界の書店 酒

- 井正敏
- 6.上. 出版統計に関するユネスコ会議
田中梓
- 6.中. 神吉晴夫氏のド根性 - カップ・ブックス1500万部突破の秘密 出席者・伊賀弘三良、糸原周二、加藤一夫、篠岡昭雄
- 6.下. 図版・統計日本の出版 - 昭和35年の書籍・雑誌 ABCD座談会
- 7.上. 上半期の書籍・雑誌 ABCD座談会
- 7.中. 暑さの中の書店経営
- 7.下. 読書断章 - 読者の購読の条件
- 8.上. 『週刊公論』の休刊と嶋中社長
- 8.中. 日本人の均一性 村松嘉津
- 8.下. 書店の適正利潤と販売合理化審議会 - 書店の主張に対する業界の動き
- 9.上. 秋を飾る出版企画
- 9.中. 図書券その後
- 9.下. 本の定価は安すぎる
- 10.上. 本は台風に弱い ABCD座談会
- 10.中. 若い女性のワイド・デラックス雑誌 - 『マイホーム』の金井編集長にきく
- 10.下. 竣工した国立国会図書館の機能 齋藤毅
- 11.上. 出版業界時局放談 ABCD座談会
- 11.中. 中国の教育 太田耕士
- 11.下. 高い郵送料・安い本の値段
- 12.上. 絵本の使命と方向 原 之助
- 12.中. 出版界この1年(上)座談会・諸岡勝次、荘司徳太郎、堀野庄蔵、宗武朝子
- 12.下. 出版界この1年(下)座談会・諸岡勝次、荘司徳太郎、堀野庄蔵、宗武朝子

【1962(昭和37)年】

- 1.上. 新春清談景気と出版界 石山賢吉
- 1.中下. 1961年の全国ベスト・セラーズ解剖
- 2.上. 春を飾る出版企画
- 2.中. 農村の生活と読書環境 - 農林読書月間に因んで 座談会・暉峻とし子、岡田信二、小林裕、石井彦彦、諸岡勝次
- 2.下. 2つの1年生雑誌 伊藤俊郎、林四郎
- 3.上. 教科書無償法案をめぐって - 教科書販売業界への波紋
- 3.中. アルジェリア問題とその周辺 横塚光雄
- 3.下. 出版物の国際開発問題 - 出版文化国際交流会の活動 中島正一
- 4.上. 母と子の20分間読書 棕鳩十
- 4.中. 小売全連の旗の下に
- 4.下. こどもの読書週間に寄す ABCD座談会
- 5.上. 漫画は皮膚にしみこんでいる 伊藤逸平
- 5.中. 貴重な共同研究『転向』 - 半沢弘氏の『右翼運動家』を中心に 津久井龍雄
- 5.下. 史上最大のブック・ショウ
- 6.上. 図版・統計日本の出版 - 昭和36年の書籍と雑誌
- 6.中. 雑誌『世界』7月号不売事件
- 6.下. 知られざる思想誌・労働誌 織田達朗、椎名源次郎
- 7.上. '62上半年出版界展望
- 7.中. ある書評家の寝言 - あるいは書評のかがみ X
- 7.下. こどもと共に - 小学館の歩みと出版
- 8.上. がまんと犠牲に生きる男の世界 - 『無職渡世』の著者井出英雄氏と語る
- 8.中. 図書館サービスあれこれ - レファレンス・サービスをめぐって 座談会・森博、田辺由太郎、中多一郎
- 8.下. 本に夏枯れはなかった - 秋に向う出版業界の販売

- 9.上. 秋にはどんな本が出るか
- 9.中. 誌齢900号の『中央公論』 嶋中鵬二氏に聞く
- 9.下. 『時刻表』ものがたり 船田博
- 10.上. 『カップ大将』の著者は語る 片柳忠男
- 10.中. 児童もの全集の偉人たち
- 10.下. 読書週間と読書運動 ABCD座談会
- 11.上. 国際書籍展と日本の本 中島正一氏に聞く
- 11.中. 読書の秋を飾る話題
- 11.下. 新年号雑誌ただ今輸送中
- 12.上. 本の中の忠臣蔵
- 12.中. この1年を展望する(上)- 出版取次人からみた1962年の出版動向 折戸俊雄、国枝藤作、松坂若、大久保正二
- 12.下. この1年を展望する(下) 後藤八郎、小貫英、西垣裕吉、安達正義

【1963(昭和38)年】

- 1.上. 出版界の人づくりと合理化 野間省一新春清談
- 1.中下. 1962年ベストセラーの解剖
- 2.上. 胎動する雑誌界 ABCD座談会
- 2.中. 有卦にいる学習参考書
- 2.下. 本の定価明示は是か非か! アンケート38氏
- 3.上. 春の出版企画をさぐる
- 3.中. 学校の本棚特集 新しい国語関係の辞典 石黒修
- 3.下. この道50年 - 山崎清一氏(有精堂社長)の回顧と意見
- 4.上. 話題をよぶ女流文壇 板垣直子
- 4.中. シリーズ著作権と出版権その1 著作権法改正の問題点 対談・美作太郎・布川角左衛門
- 4.下. こどもの本に愛情を 座談会・小峰広恵、田中治男、多賀義勝
- 5.上. 偉大な出版人の伝記 『惜懽荘主人 50 『出版ニュース』巻頭論文タイトル

- 一つの岩波茂雄伝』をめぐって 書評委員会A
- 5.中. シリーズ著作権と出版権その2 出版契約の重要性 布川角左衛門
- 5.下. 図版・統計日本の出版 昭和37年の書籍と雑誌
- 6.上. 『や便』から『太陽』へ! 平凡社の50年
- 6.中. 本屋さん本をしめ出す - 1日だけのストに終わったが.....。
- 6.下. 上半期を展望する ABCD座談会
- 7.上. 浮世絵版画と複製出版
- 7.中. シリーズ著作権と出版権その3 翻訳権の焦点 黒川義道
- 7.下. 教科書無償法案の行方 教科書無償とその問題点 石黒修
- 8.上. 出版界の8月15日 アンケート
- 8.中. 本をさがす苦労ばなし 座談会・青木実、樋口孝夫、野口四郎
- 8.下. サリドマイド 人体実験 問題審議の意味するもの 高島巖
- 9.上. 読書の候になりました - 秋の出版企画から
- 9.中. 婦人社長鼎談・出版事業に生きる 池田敏子、小峰広恵、津曲篤子
- 9.下. シリーズ著作権と出版権その4 編集・編集物そして編集権 布川角左衛門
- 10.上. 入学試験という課題 - 旺文社主催「入試展」から
- 10.中. ここに雑誌ありて ABCD座談会
- 10.下. 「書評」その意義と在り方 巖谷大四、田所太郎
- 11.上. 悪書追放の尖兵
- 11.中. 文学全集を形成する作家たち
- 11.下. グルジアの旅 袋一平
- 12.上. こどもの本の問題 石黒修
- 12.中. シリーズ著作権と出版権その5 著作物の自由使用と条件付使用 - いわゆる「著作権の制限」について

谷井精之助

12. 下. 1963年出版・読書界の話題 - 10大
ニュースを中心に ABCD座談会

【1964(昭和39)年】

1. 上. 出版界の建設は談笑裡で 赤尾好
夫新春清談
1. 中下. '63年ベストセラーズの解剖
2. 上. シリーズ著作権と出版権その6
著作権の制限について(2) 谷井精
之助
2. 中. 春を謳歌する学習参考書 座談会・
福岡益雄、鳥居正博、白銀栄太郎
2. 下. これからの絵本 対談・武市八十
雄、安井淡
3. 上. 身近なシェイクスピア 鈴木幸夫
3. 中. 出版販売の足跡をさぐる - 『日本出
版販売史』をめぐる
3. 下. もっと気軽に辞書を - 新しい事典・
辞典・字典 石黒修
4. 上. 春 - 多彩な出版企画
4. 中. 明るいムードの雑誌界 ABC座談会
4. 下. 経営成功者の書いた本 - “理論経営
学”から“体験経営学”へ
5. 上. 人づくりと子どもの読書 座談会・
神山裕一、小峰広恵、沢井栄次郎、多
賀義勝
5. 中. 友情出版をとりまく挿話 - 『岩波文
庫をめぐる文豪秘話』より 書評委
員会A
5. 下. 図版・統計日本の出版 - 昭和38年の
書籍と雑誌
6. 上. 日本の出版社の実態 - 続・図版・統
計日本の出版
6. 中. ある蒐書家のものがたり - 市井に
生き本を集めて数十年 小笹正人
氏に聞く
6. 下. 上半期の出版界 - 明るく旺盛な出
版意欲

7. 上. 新潟地震と図書館・書店 - 現地にみ
るその被害状況
7. 中. 明日の図書館を担わん - 図書館短
大特別養成課程学生の生活と意見
安藤勝、山田高子、星野保、川島藤
子
7. 下. 子供の夢を育くむ - 小田原市立児
童文化館をみる
8. 上. 無償教科書とその採択問題 石黒
修
8. 中. 有害に押し切られた出版界
8. 下. 特集・オリンピックの本
9. 上. 秋の出版企画をさぐる
9. 中. 出版人海外へ行く アンケート
酒井正敏氏他16氏
9. 下. 海賊出版は義賊じゃない 相良広
明
10. 上. 無償教科書採択の結末 検定教科
書の外堀埋まる 石黒修
10. 中. 出版統計の国際的標準化 - ユネス
コの動きと日本の国内体制につい
て 田中梓
10. 下. 秋夜長出版界裏表話 ABCD座談会
11. 上. 史上初の個人事典の企画編集 - 『下
中彌三郎事典』の編集すすむ
11. 中. ここに取次がある
11. 下. 日本近代文学館文庫への期待 渋
川驍
12. 上. “のらくろ”と田河水泡 - かつての
ベストセラー作家を訪ねる 片寄
みつぐ
12. 中. こどもに贈りたい本 石黒修
12. 下. '64年出版・読書界10大ニュース

【1965(昭和40)年】

1. 上. こどもを中心の出版 相賀徹夫新春
清談
1. 中下. 蔵書家と図書館 - 両者を結びつけ
る妥当な筋道を 春山行夫

- 2.上. 本に関する10問10答
- 2.中. 著作家はみなエージェントを持つべきか? ポール・R・レイノルズ 宮田新八郎訳
- 2.下. 出版7つの大罪・その1 立読み、類似出版、返品、不良出版物
- 3.上. 出版7つの大罪・その2 万引、過当競争、割引販売
- 3.中. 春を飾る出版企画
- 3.下. 辞典は一冊持つだけでよいのではない 石黒修
- 4.上. 世界の出版
- 4.中. 一步退却・三步前進 - 神吉晴夫と光文社出版 松本昇
- 4.下. 家庭にほしい民話の本 儀府成一
- 5.上. 図版・統計日本の出版 昭和39年の書籍と雑誌
- 5.中. 国立国会図書館に望む・アンケート19氏
- 5.下. 検定教科書をこう考える - 乏しい世間認識と理解 石黒修
- 6.上. “黒人問題”を理解するために 関口功
- 6.中. 連載出版と景気(1) 鈴木敏夫
- 6.下. シリーズ著作権と出版権その7 著作権法改正審議と出版界 布川角左衛門、美作太郎、谷井精之助
- 7.上. “取次”その安定の好条件
- 7.中. 上半期の出版界 ABCD座談会
- 7.下. ある出版社の倒産・再建 そこにまつわる数々のエピソード
- 8.上. ベストセラー戦後20年
- 8.中. 終戦20年・出版界あの日あそこ “最低時代”の出版ブーム 鈴木敏夫
- 8.下. 戦後、満州関係の書籍解題
- 9.上. 専門誌不毛の労働運動 大宮新兵衛
- 9.中. 秋の出版企画を探る

- 9.下. 雑誌の中のラッキーな話題 小西博、八木林之助、田中実
- 10.上. 読書論3つの型 阿刀田高
- 10.中. “百科”爛漫の秋 - 売れて売れてこまる百科事典
- 10.下. ベストセラー雑感 書評委員会D
- 11.上. 本のある風景・ない風景
- 11.中. 風雪に耐えぬいた出版社の社史 - その意義と傾向・特色 出口一雄
- 11.下. 出版百年の歩みを語る NHK教育テレビ 産業百年史『出版』より 布川角左衛門、栗田確也、白井吉見、美作太郎、野間省一
- 12.上. 子どもに贈りたい本、その選び方 石黒修
- 12.中. 1965年出版界展望(書籍) 座談会・長岡光郎、栗原幸夫、安田金三郎
- 12.下. 1965年出版界展望(雑誌) 座談会・長岡光郎、栗原幸夫、安田金三郎

【1966(昭和41)年】

- 1.上. 書店と読者と文化と 松信泰輔氏新春清談
- 1.中下. 出版物と図書館・図書館と読書運動 多賀義勝、藤代清吉
- 2.上. 戦後最大の全集ブーム
- 2.中. 手塚治虫と鉄腕アトム 片寄みつぐ
- 2.下. 和英辞典を作る話 市川繁治郎
- 3.上. 日本一の歴史をもつ出版社、そのバック・ボーン 吉川弘文館吉川圭三氏に聞く 鈴木敏夫
- 3.中. 各社春の出版企画
- 3.下. 新しい辞典さまざま 石黒修
- 4.上. 世界の出版統計
- 4.中. 全連の旗をかかげて20年 - 適正利潤・定価販売・運賃撤廃の運動史
- 4.下. 縦組みか横組みか、その問題点 武

部良明

- 5.上. 図版・統計日本の出版 - 昭和40年の書籍・雑誌
- 5.中. シリーズ著作権と出版権その8 著作権法はどう改正されるか 谷井精之助
- 5.下. 児童文学全集の激突と収録作品
- 6.上. 『陸軍画報』結末の書 - 中山正男氏と『花をたむけてねんごろに』
- 6.中. 「アジア出版専門家会議」傍聴記
- 6.下. 上半期の出版記 - 全集ブームからアジア出版専門家会議まで ABCD座談会
- 7.上. 『天皇ヒロヒト』を読む 書評委員会B
- 7.中. “明治百年”繁盛記 勝田三蠻
- 7.下. 大いなる遺産・個人全集 - 静かなブームを呼ぶもの
- 8.上. 『出版ニュース』創刊700号記念座会(上) 戦後出版界の歩みとその将来 - 出版・取次・小売3首脳大いに語る 野間省一、池辺伝、大川義雄司会・椎橋博
- 8.中. 『出版ニュース』創刊700号記念座談会(下)
- 8.下. 西欧人の日本研究 - アーサー・ウェイリーとその先人たち 桑原信
- 9.上. 各社秋の出版企画
- 9.中. 出版界の過当なりべートに警告
- 9.下. 日本の文化財を語る - 小学館版『原色日本の美術』全20巻刊行によせて 座談会・河北倫明、太田博太郎、久野健、田中智彰
- 10.上. 出版マーケティング以前 木村亨
- 10.中. 明るいムードの雑誌界 座談会・浅井芳之、浅見敏雄、斎藤弘
- 10.下. 読書週間20年のあゆみ
- 11.上. 図書館と社会との結びつき 昭和41年度全国図書館大会より
- 11.中. シリーズ著作権と出版権その9

著作権法改正草案と出版界(上)
座談会・野間省一、布川角左衛門、鈴木敏夫

- 11.下. 著作権法改正草案と出版界(下)
- 12.上. 年末・年始の贈答品と本 石黒修
- 12.中. 1966年出版界展望 - 書籍 座談会・日高玉光、三浦兆志、宗武朝子、諸岡勝次
- 12.下. 1966年出版界展望 - 雑誌 座談会・日高玉光、三浦兆志、宗武朝子、諸岡勝次

【1967(昭和42)年】

- 1.上. 出版物と文化 河野義克、本多顕彰、串田孫一
- 1.中下. 詩集ブームを考える 北園克衛
- 2.上. 建国記念日と歴史書 村松正俊
- 2.中. PR誌ブームの新地図 池田喜作
- 2.下. R・エスカルピ著『出版革命』の投げた問題点 鈴木敏夫
- 3.上. 変貌する「社史」作りの現状 田中兄一
- 3.中. 各社春の出版企画
- 3.下. 新しい辞書のいろいろ 石黒修
- 4.上. 世界の出版
- 4.中. 出版広告の100年 堀尾直信
- 4.下. 続「明治百年」繁盛記 勝田三蠻
- 5.上. 図版・統計日本の出版 - 昭和41年の書籍と雑誌
- 5.中. 日本の出版社の実態
- 5.下. 機械化による図書館の未来像 桜井宣隆
- 6.上. 欧米日本学研究室めぐり 辻村敏樹
- 6.中. 百科戦国時代
- 6.下. 上半期の出版界 ABCD座談会
- 7.上. 図書館員の取次見学記
- 7.中. 出版・読書「頭の体操」
- 7.下. せいくらべ出版社ビル

- 8.上. 明るかったソビエト - 訪ソ出版視察団帰国報告より
- 8.中. あの日あの頃の出版界 - 終戦22年を迎えて
- 8.下. 日本のマンガはどこへ行く - マンガに関する12問12答 石子順造、草森紳一
- 9.上. 各社秋の出版企画
- 9.中. 新しい中国像理解のために 森川久次郎
- 9.下. 雑誌界は依然堅実なり 斎藤弘、田中貫三、山内幸司
- 10.上. 医学書の行き方・考え方 金原一郎
- 10.中. 読書週間の現状を語る 対談・松尾不似人、出口一雄
- 10.下. 潜在する仏教書ブームの動向 村岡空
- 11.上. 国際性を自覚すべき日本の出版物 - 第27回国際東洋学会会議図書館部会に出席して 小田泰正
- 11.中. 分析された小売書店の実態 - 『全国小売書店実態調査報告書』まとまる
- 11.下. 転機にきた日記出版
- 12.上. 良書よりも適書を 石黒修
- 12.中. 1967年出版販売界回顧 鼎談・杉原二郎、田辺雅司、中川路宏
- 12.下. 同上(続)

【1968(昭和43)年】

- 1.上. 若さで語る明日の出版界 座談会・磯目健一、工藤美夫、小林伸一、早川和一、米田卓史
- 1.中下. '67ベストセラーにみる日本の精神風景 後藤総一郎
- 2.上. 画像優位時代と活字の未来 - 映画「華氏451度」をみて 福島正実
- 2.中. 出版界とコンピューター - 「出版コンピューター研究会」の発足によせて 対談・松平直寿、田中実

- 2.下. 政府刊行物『解説週報』を追って
- 3.上. 各社春の出版企画
- 3.中. 新しい同人雑誌の方向 渡辺一衛
- 3.下. 使う人、使う目的にそった辞典を石黒修
- 4.上. 花ひろく創刊雑誌 座談会・田中貫三、三浦兆志、八木林之助
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 宗教書出版の意味はなにか 石川康明
- 5.上. 図版・統計日本の出版 - 昭和42年の書籍と雑誌
- 5.中. 出版物の輸出入と翻訳出版の現状
- 5.下. 青少年雑誌の進化と退化 佐藤忠男
- 6.上. 無告の民の記録 - 『日本庶民生活史料集成』によせて 谷川健一氏にきく
- 6.中. “河出事件”の教訓(上) 鈴木敏夫
- 6.下. 同上(下)
- 7.上. 上半期の出版界 ABCD座談会
- 7.中. 全学連の思想と行動 - 新刊6冊にみるその内と外 柴田道子
- 7.下. 言論・報道の自由の現状 - あるルポライターのメモから 松浦総三
- 8.上. 原爆関係文献案内 - 原爆文学史にそって 長岡弘芳
- 8.中. 出版界草創期の闘魂 - 『出版人の遺文』を読んで 美作太郎、先人への感謝をこめて 栗田確也氏にきく
- 8.下. 著作権ごぼれ話 谷井精之助
- 9.上. 各社秋の出版企画
- 9.中. 今日と明日の出版界 - 未来社・西谷社長にきく 対談・西谷能雄、樺橋博
- 9.下. チェコの出版の現状 栗栖継
- 10.上. 明治100年特集 その1 近代出版文化の集大成 『日本出版百年史年表』編集委員に聞く 座談会・布川角左衛門、弥吉光長、岡野他家夫、司

会・瀬沼茂樹

- 10. 中. 明治100年特集 その2 明治100年
を理解するための本 しまね・きよ
し
- 10. 下. 明治100年特集 その3 明治100年
読書論の系譜 稲村徹元、阿刀田高
- 11. 上. 『今週の日本』を読んで 鈴木均
- 11. 中. 中間小説の氾濫と変質 中田耕治
- 11. 下. 工学書出版の歩みの中で - 工学書
協会20年の足跡 座談会・須永文
夫、笠原洪平、額賀徳次
- 12. 上. 子どもに適書を 石黒修
- 12. 中. 1968年出版界回顧 - 書籍 座談会・
斎田久雄、日高玉光、三浦兆志、宗武
朝子
- 12. 下. 1968年出版界回顧 - 雑誌 座談会・
斎田久雄、日高玉光、三浦兆志、宗武
朝子

【1969(昭和44)年】

- 1. 上. 出版と読書の未来 中島健蔵、杉村
武、藤竹暁
- 1. 中下. 「出版学」の生成と展望 - 出版学会
の生誕に臨んで 美作太郎
- 2. 上. 歴史と文学の間 - 2月11日に関連し
て 池田諭
- 2. 中. 戦後学生活動家に読まれた本 - 行
動を決める精神的なものは何か
池田信一
- 2. 下. 最近よくマスコミにあらわれる言
葉 赤塚行雄
- 3. 上. 各社春の出版企画
- 3. 中. “著作権仲介業者”カーン氏の『パブ
リッシャーズ・ウィークリー』誌へ
の寄稿文について、不可思議かつ不
快とする、日本の一出版人の感想
鈴木敏夫
- 3. 下. 辞書の季節 - 新しい辞書を中心に
石黒修

- 4. 上. 発禁本 - 明治 城市郎
- 4. 中. 発禁本 - 大正・昭和 城市郎
- 4. 下. 世界の出版統計
- 5. 上. 図版・統計日本の出版 - 昭和43年の
書籍と雑誌
- 5. 中. 出版学の目ざすもの - 日本出版学
会の発足にあたって 座談会・布川
角左衛門、清水英夫、生田正輝
- 5. 下. 論壇・文壇への新しい指標 - オビニ
オン雑誌『諸君』、文芸総合誌『海』
『諸君』編集長田中健五氏、『海』編集
長近藤信行氏に聞く
- 6. 上. 幻想と怪奇の文学 - ブームの背景
をみつめて 尾崎秀樹
- 6. 中. 書評論 - 日本には書評家がい
ない
筑波常治
- 6. 下. 最近の出版広告 八巻俊雄
- 7. 上. ミニコミ論の中の“安保” 田村紀
雄
- 7. 中. 経験的・実践的沖縄関係文献案内
- 7. 下. 関西ジャーナリズム論 山本明
- 8. 上. 聞きがきの方法 - 新しい本づくり
江藤文夫
- 8. 中. アポロ月到着をめぐるジャーナリ
ズムの動き 荒正人
- 8. 下. 最近の個人全集 - 自分を大切に
した作家たち 松原新一
- 9. 上. 各社秋の出版企画
- 9. 中. 書評・鈴木均著『現代ジャーナリ
ズム論』 松浦総三、仲佐秀雄、神保誠
一郎
- 9. 下. アジア諸国の出版とその課題 - ア
ジア地域出版事情調査団の帰国に
あたって 座談会・清水英夫、佐々
木繁、金平聖之助、美作太郎
- 10. 上. 創刊20周年記念号 戦後ベストセ
ラー史 稲葉三千男、斎藤英夫
- 10. 中. アメリカのブッククラブ - ブック・
オブ・ザ・マンスクラブのリンチ氏
に聞く 石川弘義

10. 下. 旗幟を鮮明にする雑誌 - サブタイトルつき雑誌の分析 竹村健一
11. 上. 『朝日ジャーナル』小論 副田義也 吉田恭爾
11. 中. 大学出版の現状 - アカデミズムの再編の中で 編集部
11. 下. '69年こどもの本はこうなっていた 北川幸比古
12. 上. 文壇・論壇の接点は何か - 今年の文壇・論壇をふりかえって 座談会・秋山駿、松原新一、清水多吉、高瀬善夫
12. 中. 1969出版の座談的回顧(上) 植田康夫、河辺岸三、半田豊作、清田義昭
12. 下. 同上(下)

【1970(昭和45)年】

1. 上. 読者と書物のあいだ 外山滋比古
1. 中下. 映像は活字を再触発する 志賀信夫
2. 上. 創価学会・公明党の言論弾圧をめぐって 梅原正紀
2. 中. 抑圧された性からの解放 - ジュニア小説とハレンチ漫画 森秀人
2. 下. 新出版文化論 - 竹村的活字メディア理解 竹村健一
3. 上. 「正当」への希求 - 「戦後派文学復活への機運」 森川達也
3. 中. 出版ジャーナリズムにおけるメディア - 雑誌を中心として 川中康弘
3. 下. 世界の書評誌・紙 武田勝彦、三輪秀彦、古沢謙次、木村浩、千草堅、栗栖継
4. 上. 当世読者気質 紀田順一郎
4. 中. 女性週刊誌の論理と構造 茶本繁正
4. 下. 『体験的マスコミ批判』の読み方 新井直之

5. 上. 日本・世界の出版統計.
5. 中. 新著作権法の解説 - 出版界や読書人にどう影響する 鈴木敏夫
5. 下. マスプロ・マスセールの曲り角 - 光文社神吉社長退陣にあたって考える 座談会・青地晨、清水英夫、見田宗介
6. 上. 3冊の書評を中心とした「個人情報整理学」入門 小田島弘
6. 中. 復刻本の意義 - 名著復刻の現状について 木俣修
6. 下. 私のルポルタージュ論 立花隆
7. 上. 出版ジャーナリズムの特質 - 単行本の復権を 鈴木均
7. 中. 最近の高校生の読書傾向 池田信一
7. 下. さし絵論 - 官製・官許・民製・民生のイメージについて 石子順造
8. 上. 海外における日本文学の評価 武田勝彦
8. 中. 教科書出版 - その歴史と実態 久能昭
8. 下. ふえる戯曲の出版 - 対話の復活をめざして 尾崎宏次
9. 上. 出版広告考現学 川上宏
9. 中. 出版ば もうかる「企業か - 出版の原価計算
9. 下. SF小説の現状 - 国際シンポジウムと日本のSFについて 矢野徹
10. 上. 人生論の本 - 戦中派として思うこと 安田武
10. 中. 岩波新書論 - 愛読者としての苦言 荒正人
10. 下. 新聞社出版の現状と将来 - その特質を分析する 阿部満、亀谷悟郎
11. 上. 匿名座談会・外資と百科事典 - 外資の進出に日本の出版界はどう対処すべきか
11. 中. 創刊雑誌の動向 林伸郎
11. 下. 出版流通のしくみと問題点 片岡

正巳

- 12. 上. 座談会・アジアの出版と日本 咸性實、A・ラティブ・シャンスディン、シード・マムッド・シャー、司会清水英夫
- 12. 中. 論壇・文壇1年の回顧 渡辺一衛、森川達也
- 12. 下. '70年出版・読書界10大ニュース

【1971(昭和46)年】

- 1. 上. 私のつくりたい雑誌 松永伍一、吉行淳之介、いいだ・もも、戸川猪佐武
- 1. 中下. 出版界は生産過剰か? 鈴木敏夫
- 2. 上. 総合雑誌論 大熊信行
- 2. 中. ファッション化する出版 - 新・書評論 竹村健一
- 2. 下. マスコミと自立 - ジャーナリストの姿勢を問う!! 稲葉三千男
- 3. 上. 戦後ベストセラー考現学 武田勝彦
- 3. 中. 総合年鑑論 佃実夫
- 3. 下. 文庫本の現状 松浦総三
- 4. 上. 5年目を迎えた三不運動 - 「いつかきた道」を歩むのか 茶本繁正
- 4. 中. 庶民史料と新しい記録文学 杉浦明平
- 4. 下. 世界の出版統計
- 5. 上. 日本の出版統計と出版社
- 5. 中. 1930年代をめぐる 三宅正樹
- 5. 下. 女性雑誌論 鈴木健二
- 6. 上. 庶民の戦争記録 - 東京空襲を庶民の立場で記録する 松浦総三
- 6. 中. 経営者の多様化とその背景 大野力
- 6. 下. キッチン(俗悪物)論の所在 石子順造
- 7. 上. 上半期・出版界の動向 鈴木敏夫
- 7. 中. 週刊誌タイトル考 清水哲男
- 7. 下. 最近の詩・管見 鍵谷幸信

- 8. 上. 出版物でみる終戦 - 焦土時代とその周辺 福島鑄郎
- 8. 中. ある対話 - ユダヤ系藝術家たちをめぐる 江部礼
- 8. 下. さいきんの子どもの本の動き 2つの全集企画を中心に 横谷輝
- 9. 上. 出版広告論 川上宏
- 9. 中. フィーリング・ジャーナリズム - グラフィック革命 のもたらしたものの 岡田晋
- 9. 下. 出版社イメージ論 鈴木均
- 10. 上. 戦後沖縄の出版 新崎盛暉
- 10. 下. アメリカ雑誌界の展望 常盤新平
- 11. 上. 写真をめぐる2つの法律問題 - 情報化時代の権利侵害の一断面 清水英夫
- 11. 中. 出版文化は東京だけのものか - コミュニティ・パブリッシングへの試論 田村紀雄
- 11. 下. 叢書(選書)文化の到来 安本美典
- 12. 上. 装幀についての私の意見 栃折久美子
- 12. 中. 論壇・文壇この1年 しまね・きよし、和泉あき
- 12. 下. '71年出版・読書界10大ニュース

【1972(昭和47)年】

- 1. 上. 日本の出版界への発言 ロバート・エスカルビ教授に聞く
- 1. 中下. 美術全集氾濫の功罪 岡田隆彦
- 2. 上. 著者のコミュニケーション - 高野悦子と北山修のベストセラーにみる 森秀人
- 2. 中. ビデオカセットと出版 野崎茂
- 2. 下. 戦記ブームの背景 松浦総三
- 3. 上. 対談・出版倫理の問題 布川角左衛門、河原淳
- 3. 中. アジア地域共通読み物の現状 金平聖之助

- 3.下. 学参書の現状と今後の展望 阿部満
- 4.上. 横井さんの手記に望む...その体験が貴重なだけに... 安田武
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 現場から見た「言論の自由」- 西山記者逮捕問題と出版ジャーナリスト 茶本繁正
- 5.上. 日本の出版統計と出版社
- 5.中. ジョイント出版 - 現状と今後の問題 宮田昇
- 5.下. 戦後貸本「文化」の内部構造 梶井純
- 6.上. 雑誌の文章 樺島忠夫
- 6.中. 亡命出版とその現状 - チェコを遠く離れて 栗栖継
- 6.下. 小出版社の活動 - 「NRの会」と「ルート版の会」の販売戦略 片岡正巳
- 7.上. 繁栄するアメリカのブック・クラブ 常盤新平、わが国のブック・クラブシステム 谷井精之助
- 7.中. 教育の理論的遺産 - エミールからプロレタリア教育運動へ 五十嵐良雄
- 7.下. 戦後コミュニケーション理論の発展 佐藤智雄
- 8.上. 上半期の出版界 田村紀雄、小宮山量平
- 8.中. 宗教教団の出版 - 伝道とコマースリズムの内部構造 山折哲雄
- 8.下. 最近の子どもの本 - その現状と問題点 渋谷清視
- 9.上. 歴史と歴史小説 池田諭
- 9.中. 編集者の職能 - 現在の問題性と編集者論 黒田秀俊、金子勝昭
- 9.下. 現代マンガの面舵・取舵 - 不可解なエネルギーはどこからくるか おはら・かずひさ
- 10.上. 「商品としての本」文化としての本」 鈴木均

- 10.中. 図書館の役割 - 日本の現状に即した独自性を 外山滋比古
- 10.下. 古書目録を読んで - 本の世界のコミュニケーション 山口昌男
- 11.上. 地方文化をささえるもの - 地方史出版物を中心に 林英夫
- 11.中. 近・現代史資料復刻本の意味 - 学問的需要と出版社側の対応から 絲屋寿雄
- 11.下. 最近の写真集から - その現状と紹介 伊藤逸平
- 12.上. 総合雑誌の斜陽化をめぐって - OB記者の感傷 青地晨
- 12.中. 総合・文芸雑誌にみる1年 半沢弘、高橋英夫
- 12.下. '72年出版界・読書界10大ニュース

【1973(昭和48)年】

- 1.上. 本を揃える心理 - 情報過多の中で 藤竹暁
- 1.中下. 本を読むということ 和田勉
- 2.上. 出版と出版学 - 試行錯誤の研究の中で 清水英夫
- 2.中. 企画の競合 今と昔 - 徂徠・海舟合戦・レコード合戦・円本時代 鈴木敏夫
- 2.下. 経営書出版社の「変身」 大野力
- 3.上. 政党の出版活動 柳田邦夫
- 3.中. メディアの奪取は可能か - エンツェンスベルガーを囲むシンポジウムを聞いて 斎藤正治
- 3.下. 盛んな実用辞典の刊行 - 動く情報社会の手引として 片岡正巳
- 4.上. 新聞社系週刊誌論 - 『サンデー毎日』と『週刊朝日』の場合 松浦総三
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 児童出版の諸問題について 代田昇
- 5.上. 対談・中国の出版事情 下中邦彦

尾崎秀樹

- 5.中. 再論「出版と景気」- 戦前・戦後景気パターンの変化と出版 鈴木敏夫
- 5.下. 読書工学 - 活字の見やすさを中心にして 岡田明
- 6.上. 中間雑誌論 - あるいは倒立した構造を持つ雑誌への一視点 清水哲男
- 6.中. 日本放送出版協会 - 「NHK王国」のコロニー 青木貞伸
- 6.下. “国営出版社”大蔵省印刷局 - 国営ならではの出版を望む 橋本修一
- 7.上. 実用書の世界 - その作り方・読まれ方 井家上隆幸
- 7.中. “ビデオ出版”の可能性 野崎茂下
出版社イメージの分析 - 日本経済新聞社の調査から 林伸郎
- 8.上. 大阪の出版と出版社 - その諸特徴と可能性 田村紀雄
- 8.中. 外資系出版社の現状 - グロリア・インターナショナルとTBSブリタニカの場合 松浦総三
- 8.下. 対談・編集者論(上) 外山滋比古、鈴木均 同(下) 上.
- 9.上. 英米のペーパーバック出版 - わが国の文庫ブームに関連して 金平聖之助
- 9.中. 公文書の著作権問題 - 公開の原則を前提として考える 奥平康弘
- 9.下. 本 - その高定価時代 - 用紙の不足と暴騰がもたらすもの 茶本繁正
- 10.上. 地方出版社と出版物 編集部
- 10.中. 大型書店と読者 - 書物の洪水のなかで 山岡明
- 10.下. アンケート・文庫にしてほしい本
- 11.上. 出版広告私論 - 読者との出会いの契機として考える 祐乘坊宣明
- 11.中. 芸能週刊誌論 - お茶の間の微温性・保守性の論理 斎藤正治
- 11.下. 書評の方法と役割 - 文化の回路調

整として 武田勝彦

- 12.上. フォトジャーナリズム論 - いま報道写真になにが可能か 重森弘淹
- 12.中. 児童文学この1年 北川幸比古
- 12.下. '73年出版界・読書界10大ニュース

【1974(昭和49)年】

- 1.上. グーテンベルクと書物文化 - グーテンベルク博物館長・H・ブレッサー氏に聞く 庄司浅水
- 1.中下. 美しい書物 - 製本と装幀の相互関係について 栃折久美子
- 2.上. 刑法改正と出版界 清水英夫
- 2.中. 書物の原価と定価 - コストインフレと定価の値上がり 鈴木敏夫
- 2.下. オカルト・超能力の本 - たかまる非合理・神秘への関心 山下武
- 3.上. 書き手にとってメディアとは何か - 書き手とメディア状況の変質 鈴木均
- 3.中. 『エスクエイア』の40年 - 類似する雑誌の歴史と人間の一生 常盤新平
- 3.下. タイポグラフィの思想 - W・モリスの基準とレイアウトの質 小池光三
- 4.上. 世界の出版統計
- 4.中. 不況下のイギリス出版界 - 日本の出版界との類似 青木日出夫
- 4.下. 日本の出版統計と出版社
- 5.上. マイクロ出版の可能性 - “紙のいらぬ本”の時代は来るか 紀田順一郎
- 5.中. 大学生協書籍部 - 組合員数73万、年間売上げ90億の現状 橋本修一
- 5.下. 出版労働者と2つの事件 - フリーのジャーナリストの位置 茶本繁正
- 6.上. 古代史の文献案内 - 古代史ブーム

- の原因と展望 市村其三郎
- 6.中. ベストセラー呪術性 - 出版とは何かを考える 山本七平
- 6.下. 小出版社の意見 - いま感じること、言いたいこと 小田久郎、竹内達
- 7.上. 週刊誌の虚実 千田夏光
- 7.中. 古書価を支配するもの - 独占的流通機構の仕掛人 山下武
- 7.下. 著者・活字・読者 - 活字表現の構造 外山滋比古
- 8.上. 医学ガイド書の売られ方 - 健保組合への直接販売 橋本修一
- 8.中. 教科書論 - 教師、生徒、親の対立点を明確に 奥崎裕司
- 8.下. ノヴェライゼーション(小説化)の本 各務三郎
- 9.上. 出版界の現状と今後 - 2つの異常事態 鈴木敏夫
- 9.中. TV・FM 番組紹介誌 論 斎藤正治
- 9.下. 「投書欄」考 清水哲男
- 10.上. 編集後記論 山本明
- 10.中. 書物の整理学 - 保存と整理のテクニク 紀田順一郎
- 10.下. 長編を読む 内村剛介、武蔵野次郎
- 11.上. 意見広告と出版広告 - 少数意見を殺さぬために 清水英夫
- 11.中. 娯楽対象としての出版物 - 読書を知的消費と考える 田村紀雄
- 11.下. 専門出版社と図書館 - 自主性をもった連帯を望む 青木春雄
- 12.上. 日記について - 歴史・種類・効用 浅井康男
- 12.中. 1974年児童文学・児童図書 山中恒
- 12.下. '74年出版界・読書界10大ニュース

【1975(昭和50)年】

- 1.上. ある出版社の思い出 - 金尾種次郎と伊藤長蔵 寿岳文章
- 1.中下. 出版業と産業界 - 従属的体質の歴

- 史 山本武利
- 2.上. 返ってきた占領軍接収資料 - 極秘文書・図書の公開を望む 松浦総三
- 2.中. ルポルターージュ再考 - ルポ・ライターの自立を 猪野健治
- 2.下. スポーツ雑誌論 - 「みる」と「する」の分離を反映 清水哲男
- 3.上. 月販流通ルートへの期待 - 「ほるぶ」と中小出版社の提携 橋本修一
- 3.中. 出版メディアの特集 野崎茂
- 3.下. 若者の読み書き能力 - 「この頃の若者は日本語を知らん」 室謙二
- 4.上. 世界の出版統計
- 4.中. 匿名の倫理と署名の論理 - 無名性と有名性のあいだにあるもの 神田二郎
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. もうひとつの映画ジャーナル - チラシ、プログラムにみる調和の時代 高坂進
- 5.中. ジャーナリストとの連帯 池田信一
- 5.下. 放送局の出版 志賀信夫
- 6.上. 地方出版社論 - 新しい地方主義にない手に 津村喬
- 6.中. 現代書籍考 - 雑誌的書籍(ムック)化傾向について 谷沢永一
- 6.下. '75年上半年期の出版界 小林一博
- 7.上. 出版広告と広告 - 大手と中小の格差を反映 林伸郎
- 7.中. なぜ売れる? 児童図書 - 高度成長を続ける背景 橋本修一
- 7.下. 現代書店論 - 読者にどんなサービスができるのか 紀田順一郎
- 8.上. 図書目録再考 - その役割と今後の課題 山下武
- 8.中. 地方新聞社の出版活動 - 電通の調査から 田村紀雄
- 8.下. 民放局のPR誌 - 企業よりも番組のPRに熱意 志賀信夫

- 9.上. 神秘主義とは何か - その思想と系譜 荒俣宏
- 9.中. 公共図書館の現状と課題 - 住民の学習権を保障する役割 森崎震二
- 9.下. 今日の日「韓」関係をみるために - 読みぬくための視座 藤島宇内
- 10.上. 私的フリーランサー論 - “認知される世界”の住人たち 茶本繁正
- 10.中. 退廃こそ武器だ - 日本共産党パルノ批判の批判 鈴木均
- 10.下. 座談会・地方出版社の活動と意見 鈴木喜久一、蒲昌志、小野倉
- 11.上. 現代社会と読者の立場 - ボルノ規制問題を中心に 清水英夫
- 11.中. 精神病理に関する本 - 社会理論と精神理論の接点を求めて 片岡啓治
- 11.下. 不況下のなかでわが社は - 国文社の場合 田村雅之
- 12.上. 電波メディアと出版広告 - テレビを中心にして 川上宏
- 12.中. 書物に関する断章 - 本にとりつかれた男の話 勝見勝
- 12.下. '75年出版界・読書界10大ニュース

【1976(昭和51年)】

- 1.上中. 半読者論 - 編集機能を嗅ぎわける読者たち 外山滋比古
- 1.下. 書評特集・出版に関する本 岩崎勝海、庄司浅水、内村剛介
- 2.上. 海外からみた日本の出版界 - P・W誌の日本特集 林伸郎
- 2.中. アカデミズムと出版ジャーナリズム - 頭脳流出現象の底にあるもの 新堀通也
- 2.下. 『週刊新潮』論 - 独自の編集スタイルはどう作られるか 松浦総三
- 3.上. 復刻出版の現状 - 商売の論理と社会的役割と 橋本修一

- 3.中. 図書館運動を考える - 市民と図書館のあいだに 鈴木喜久一
- 3.下. マンガ文庫ラッシュの背景 - 問われる前近代的な出版モラル 梶井純
- 4.上. カタログ本の思想 - 道具はあくまでも道具 清水哲男
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 個人雑誌について - 編集の主体性を維持するために 佐藤忠男、田村紀雄
- 5.中. 放送に関する本 - 現状と問題点を知るために 青木貞伸
- 5.下. 『カストリ雑誌研究』遺文 山本明
- 6.上. 座談会・雑誌編集とは何か 川鍋孝文、北林仁、佐藤嘉尚、鈴木均
- 6.中. 現代読者考 - 擬似体験に居直る読書スタイル 紀田順一郎
- 6.下. 著作権に関する最近の出版物と判決 谷井精之助
- 7.上. 文庫ブームへの惑い - パッケージされた「知」について 藤竹暁
- 7.中. 女性雑誌におけるセックス記事 - 『微笑』と『婦人公論』を比較する 夏木陽子
- 7.下. 「こうせい」レギュラー筆者・雑談会 本が好きで好きで きく人・長谷川卓也
- 8.上. 私の投書考 - 異説・復讐するは我にあり 百瀬正昭
- 8.中. 売る自由と読む権利 - 模索舎、ウニタ書舗事件をめぐって 吉川勇一
- 8.下. 企業内ジャーナリストの立場 - 限りなく私であること 田原総一朗
- 9.上. 80日間世界1周 - ヨーロッパ書店印象記 清水英夫
- 9.中. 返還された発禁図書 - 生々しい天皇制検閲の実態 松浦総三

- 9.下. 視覚障害者の読書環境 - 出版関係者の望むこと 田中章治
- 10.上. 手作り本雑考 - 2冊のテキストブックの刊行に関連して 庄司浅水
- 10.中. 地方誌の総合と体系化の試み - 出版(制作)販売(頒布)の基本型を考える 小野倉
- 10.下. 私の読書法 - 実践的読み書きのしかた 平岡正朋
- 11.上. 明治の「百科全書」 - 横文字文化雑話 八木佐吉
- 11.中. 創刊30年『週刊アサヒ芸能』論 - “芸能”だよ、“ジャーナル”じゃないよ 岡本博
- 11.下. 連載『獵奇』刊行の思い出(1) 創刊に至るまで 12.下.(2)、『77.1.下.(3)』3.下.(4)4.下.(5)5.下.(終) 加藤幸雄
- 12.上. 書店からみた読者動向 - 多様化する読書人の選択 源内正
- 12.中. '76年ベストセラー解剖 津村喬
- 12.下. '76年出版界・読書界10大ニュース

【1977(昭和52)年】

- 1.上中. 編集者と執筆者 - アマチュアによる活性化を 佐藤忠男
- 1.下. もうひとつの四重半裁判 - 書店も処罰される“自由”社会 清水英夫
- 2.上. 蔵書の整理学 - 選び抜かれた蔵書をまもる方法 山下武
- 2.中. 『全国特殊コレクション要覧』を生かす心 芳賀登
- 2.下. 右翼に関する本 管孝行
- 3.上. 宮武外骨とパロディジャーナリズム 赤瀬川原平
- 3.中. 国連大学の出版活動 - 学術情報の新しいあり方 箕輪成男
- 3.下. 読書世論調査に望む - 過去30回の結果を検討して 林伸郎

- 4.上. 東村山市立図書館の出版活動 - 「思想の自由市場」のミニ・モデルをめぐって 鈴木喜久一
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 「ふだん記全国グループ」の本作り 橋本義夫
- 5.中. 文部省研究補助金出版の現状 - すぐれた学術図書を刊行するために 橋本修一
- 5.下. 転換期の図書館 - 『図書館白書』77年版を読んで 紀田順一郎
- 6.上. 転機をむかえた週刊誌 - 『週刊文春』に表徴されるその動向 片岡正巳
- 6.中. 健康関係書の読まれ方 - 現代人の健康願望にひそむもの 織田久
- 6.下. タウン誌はいま - 京阪神地域を中心に 田村紀雄
- 7.上. ニューファミリー誌の世代 - 生活と家庭と個人 荒瀬豊、竹下俊郎
- 7.中. 戦後マンガは毒を持っていたか - 批評視点の再検討を 片寄みつぐ
- 7.下. 奥付問題特集 本にとって奥付とは何か 外山滋比古
- 8.上. 黒子の「仁義」 - ゴースト・ライター 心得帖 竹中宥
- 8.中. 出版広告と「意見」広告 - 『21世紀の日本』の出版広告を中心に 西尾漢
- 8.下. '77年上半年期のアメリカ出版界 金平聖之助
- 9.上. 女性論の系譜 - 主婦論と解放論のあいだに 岡田秀子
- 9.中. マルチ・メディアによる増幅のメカニズム - メッセージのメディア間移動について 田村穰生
- 9.下. 変身する公共図書館 - 子ども文庫の母親たちと図書館づくり にしだ・ひろし
- 10.上. 少年・少女マンガ週刊誌の言葉 - 日

- 常談話語のあり方を反映する 樺島忠夫
10. 中. 座談会『日本書籍総目録』をめぐる 紀田順一郎、中平千三郎、山本忠節
10. 下. 雑誌『改造』の歴史 - 私のみた山本実彦 松浦総三.
11. 上. “流通の自由”の危機 - 書店への取締りに対する一考察 鈴木敏夫
11. 中. 岩波新書の40年 岩崎勝海
11. 下. 書店の質とは何か - 八重洲ブックセンターをめぐる 小林一博
12. 上. ベストセラーの力学 - 今年の動きをふりかえって 荒俣宏
12. 中. 座談会・回顧今年の出版界 小汀良久、栗田金治、玉井五一
12. 下. '77年出版界、読書界10大ニュース

【1978(昭和53年)】

1. 上中. 出版の「産業化」とは何か - ある編集者との対話 岸本重陳
1. 下. 印刷からみた出版 - 再編期に立つ印刷界からの発言 山本哲郎
2. 上. 『暮らしの手帖』と花森安治 天野祐吉、大野雅夫
2. 中. 物流からみた本 - 急がれる流通情報システムの整備 鈴木修二
2. 下. 『現代用語の基礎知識』の30年 - 長谷川国雄氏の発想と方法 松浦総三
3. 上. 古書の流通・新刊の流通 - 神田古書センター落成にちなんで 紀田順一郎
3. 中. 書き手からみた印刷・出版 - 下世話ジャーナリズム論 鈴木均
3. 下. ウニタ書舗の歩みと「読者」 - 店内は常に時代を反映してきた 遠藤忠夫
4. 上. 世界の出版統計
4. 中. 日本の出版統計
4. 下. 学生と読者の諸相 - 大学生協の調査結果から 高橋一雄
5. 上. 民衆史・民衆思想史の系譜 - 盛んな出版現象の底にあるもの 金原左門
5. 中. 3年目をむかえた地方・小出版流通センター 川上賢一、蒲昌志、松本三喜夫
5. 下. 性を考える文献 - 『愛のコリーダ』起訴記念出版の3冊を読んで 山下諭一
6. 上. 日本ジャーナリズム研究所の発足 - 在野精神を堅持して「独ジャ」から脱皮 長田衛
6. 中. カメラ雑誌の現在 - アマチュア読者とプロの間で 伊藤逸平
6. 下. 松浦総三の『原稿料の研究』 - 原稿のねだんはいかにして決まるか 松浦総三
7. 上. ライブラリアンの責務とは何か - 全国学校図書館協議会への消えない疑問 木島始
7. 中. マンガ市場の拡大と大量生産 - メーカーの戦略にのって「活況」だが 梶井純
7. 下. SFブームに切り込む2つの「出版社」 - バンダイ出版事業部とサンリオの場合 夏木陽子
8. 上. 原子力発電をどうとらえるか - テクノクラートの情報独占を打ち破るために 松岡信夫
8. 中. 自費出版の周辺 - 20年で4千点の経験から 小倉典春
8. 下. 下がってきた出版社のイメージ - 林伸郎
9. 上. 対談・鼎談・座談会 - 活字ジャーナリズムの伝えの方法 鈴木均
9. 中. 大型書店と読者 - 八重洲ブックセンターの開店で考えること 外山

滋比古

- 9. 下. 筑摩書房労組はこう考える 筑摩書房労働組合執行委員会
- 10. 上. 秋の出版企画から
- 10. 中. 好調なアメリカの雑誌界 - 急激な広告収入の増大に支えられて 金平聖之助
- 10. 下. 座談会・書店員からみた読者 - 相互コミュニケーションは成立しているか 川野辺明、斎藤進、四之宮好伸
- 11. 上. ヨーロッパの書籍業と再販制度 相良広明
- 11. 中. 図書館の充実と司書 - 司書職の専門性をめぐって 山家篤夫
- 11. 下. 活字と映像と - 対立から運動へ、そして「混血」へ 野崎茂
- 12. 上. 埋もれた記録の方へ - 民衆が「書く」ことの意味 鎌田忠良
- 12. 中. ベストセラーとサブカルチャー - '78年出版界、気になった本・話題 荒俣宏
- 12. 下. '78年出版界・読書界10大ニュース

【1979(昭和54)年】

- 1. 上中. 読書人の立場 - それは反時代的存在なのか... 谷沢永一
- 1. 下. 児童文化を考えるために - 国際児童年にあたって 上笠一郎
- 2. 上. おかしなおかしな猥褻ご法度 - 最近の出版界エピソードから 長谷川卓也
- 2. 中. テレビによる 書評 の可能性 - メディア特性を生かした表現の方法 志賀信夫
- 2. 下. 書き手からみた編集者と読者 - 商業的結びつきから人格の連帯へ 紀田順一郎
- 3. 上. 座談会・古書店を開業して 後藤憲

二、鶴本憲治、柴田勝紀

- 3. 中. 読者白書への提言と構想 - 何より大切な読者の意識と行動を知ること 外山滋比古
- 3. 下. 読者投稿特集・再販制問題、読者からの発言
- 4. 上. 世界の出版統計
- 4. 中. 日本の出版統計
- 4. 下. 新人 女流作家 と女の状況 - 女は中身を充填しつつある 駒尺喜美
- 5. 上. 再販制問題・読者への手紙 - 消費者運動 でなく 読者運動 を 小汀良久
- 5. 中. 書名のむこうに現代が見える - 「思想」や「状況」に代って「植草ふう」が主流に 川本三郎
- 5. 下. 日本出版学会の10年 - 出版学にいま問われていること 林伸郎
- 6. 上. アンソロジーの方法 - つくと読むを媒介する編む行為 中島誠
- 6. 中. 情報の情報 - 書誌 の氾濫 - 図書館を軸とした情報流通改革の提案 志保田務
- 6. 下. 「自作・自演・演出」方式の出版 - ライターとメディアは対等でない 丸山友岐子
- 7. 上. 書店と出版流通の自由 - 模索舎四畳半裁判の意味 竹内康二
- 7. 中. 新聞から得られる出版情報 書誌・出版情報研究会
- 7. 下. メディアとライターの「自立」と「自律」 - 丸山友岐子氏の文章にふれながら 谷口伸郎
- 8. 上. 匿名業者が匿名批評を挑発する - 狂犬生きよ、鑑札は死ね パロパロパンチ
- 8. 中. 文献でたどる怪奇と不思議の流れ 星野匡
- 8. 下. 印刷技術の革新と出版 - '80年代の印刷・出版文化を考える 山本治郎

- 9.上. メディアとしての書店の棚 - 棚は書店の「顔」である 紀田順一郎
- 9.中. ニューファミリー誌の「虚実」- 新女性誌創刊ブームをふりかえって 竹下俊郎
- 9.下. 中国出版界レポート - 「日本図書展覧会」開催を機に(続10.上.) 鈴木徹造
- 10.上. “復刻権”と復刻出版社 - 和解条項をめぐる意見 竹下史郎、船橋治、片岡英三、小関謙
- 10.中. 瞑想の世界への近寄り - その多様な関心 金岡秀友
- 10.下. 活性化する自主メディア - '80年代に向けての「横議横結」 津村喬
- 11.上. 読書はあくまで自己流に...読書週間に読書論を考える 斎藤夜居
- 11.中. 「愛のコリーダ」裁判の位相 - 斎藤正治
- 11.下. 「盗作」とは何かを考える - いまいげんじ著『山崎豊子の「盗用」事件』を読む 美作太郎
- 12.上. 市民・住民について図書館とは - 図書館人による著書にふれながら 鈴木喜久一
- 12.中. メディア間連動とベストセラー - メディアが活性化する条件とは何か 上滝徹也
- 12.下. '79年出版界・読書界10大ニュース

【1980(昭和55)年】

- 1.上.中. 対談・'80年代活字文化のゆくえ - 本の作り手、受け手はどう変化するか 清水哲男、川本三郎
- 1.下. アメリカの雑誌創刊動向 - 10年に1点の成功率 尾島恵子
- 2.上. “マスコミ学校”の現在 - 受け手から送り手への変容を志向する 猪野健治
- 2.中. 創立1年の出版社からの報告 - 個性的出版スタイルの確立をめざして 諏訪寿夫、山崎弘之、渡辺哲彦
- 2.下. 出版資料館への期待と現実 - 利用者・研究者の立場からの要望 山本武利
- 3.上. 岐路に立つ出版広告 - 小部数出版物にとつての媒体の選択 村崎彰彦
- 3.中. 翻訳権10年留保の問題 - 盛況な翻訳出版の背景を考える 宮田昇
- 3.下. ブックフェア「東北の本」を主催して 高橋彰一
- 4.上. 世界の出版統計
- 4.中. 情報公開制の理念と出版界 - 閉ざされた状況をとりはらう努力を 清水英夫
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 食の生活と文化を考える - 食の現代史を起点として 江原恵
- 5.中. 出版メディアの特性を考える - 出版の合理化は文化の間引きの合理化である 鈴木均
- 5.下. 現代活字空間考 - キャッチフレーズは読者を変えたか 田吹日出碩
- 6.上. 第1回日本出版学会賞 - 佳作に2点が受賞
- 6.中. 最近微似入本屋繁盛記 - アダルト・グラフィック業界うらおもて 長谷川卓也
- 6.下. ビデオディスクの本格市場化と出版 - 出版的発想のソフトは可能か 野崎茂
- 7.上. めくるめく創刊誌をめくってみる - 編集とデザインの傾向 河原淳
- 7.中. 座談会・神田村 = 専門取次店街を語る 鎌谷清、鈴木眞一、細野裕雄
- 7.下. 資料・日本図書コード問題
- 8.上. インタビュー・出版学への期待と学会の方向 - 日本出版学会新会長に

聞く 美作太郎

- 8.中. 著作権・出版権Q&A - 「著作・出版権相談室」の事例を中心に 野々村敬
- 8.下. アンケート・日本図書コード問題 各界の意見
- 9.上. いまなぜ江戸時代なのか - 近代を補完するものとして 諏訪春雄
- 9.中. 座談会・新再販制度で本はどうなる 相賀徹夫、関根登、能勢仁、紀田順一郎
- 9.下. 海外出版レポート・拡大版海外書評誌・紙の現状 青木日出夫、武富義夫、伊藤暢章、矢野浩三郎、石田三郎、大山茂
- 10.上. 「日本図書コード」導入の意味 - 注文情報処理システムの具体化へ 青木春雄
- 10.中. 手づくりの本と量産の本 - 栃折久美子製本工場の提起するもの 大森忠行
- 10.下. 大宅壮一の読み方 - 『大宅壮一全集』全30巻の刊行にふれて 松浦総三
- 11.上. 座談会・新再販制以後の動きと問題点 - 非再販本ルートを考える 遠藤忠夫、八木壮一、河相全次郎、外山滋比古
- 11.中. タウン誌にいま問われていること - 地域でのタコソバ的ゲリラ作戦を 田村紀雄
- 11.下. 国際書籍展ガイド - 規模は小さくても個性的フェアが成功している 出川沙美雄
- 12.上. アンケート出版界今年の収穫 - 印象に残る本、雑誌、企画、人
- 12.中. 座談会・雑誌で何をするのか - 雑誌と読者の回路 石垣雅設、深田卓、草野権和
- 12.下. '80年出版界・読書界10代ニュース

【1981(昭和56)年】

66 『出版ニュース』巻頭論文タイトル

- 1.上. 雑誌の時代は表現の時代 - 進行するコミュニケーション革命 加藤秀俊
- 1.下. 障害者教育を考えるために 津田道夫
- 2.上. 文化現象としてのビニール本 - 最高を極める技術は何故生まれたか 藤竹暁
- 2.中. 「稀書」解題 - 暗いオモチャの世界を覗く 荒俣宏
- 2.下. 東南アジアの出版開発 - 「離陸」へむけての困難な歩み 箕輪成男
- 3.上. 出版文化と輸出エージェントの誕生 - 東西文化の橋を築くために 栗田明子
- 3.中. 総合雑誌は再生しうるか - 世代によって異なる体験を軸に 松浦総三
- 3.下. 中国からの出版研修生に聞く - 日中出版交流の成果と課題 倪其恕、李桂蘭、段永萍
- 4.上. マス志向の三省堂新神田本店 - 神田書店街の地殻変動を背景に 紀田順一郎
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 『出版年鑑』'81年版ダイジェスト - 再販制をめぐる動きを中心に
- 5.中. 激動期にみる出版社の興亡 - 「良質な出版」をどう守るのか 小林一博
- 5.下. 第2回日本出版学会賞 山田昭廣、清水一嘉
- 6.上. 教科書を考えるための視点 - 「教科書法」にみる時代の変化 岡林吉夫
- 6.中. 九州出版人協会の設立 - 地方出版社の連帯をめざして 木村秀明、桑高英彦、伊藤松彦
- 6.下. ロボット化時代と出版 - ワードプロセッサでどう変わるか 山本治郎

- 7.上. 性文献の複製について - 無削除完全複製は可能か 長谷川卓也
- 7.中. アメリカン・ジャーナリズムの断面 - 小説より、ノンフィクションが読まれている 常盤新平
- 7.下. ヨーロッパの出版流通事情 - 揺らぐ正価本協定と単一価格制への移行と 金平聖之助
- 8.上. 今、沖縄を再認識するために - 沖縄歴史研究の近況について 高良倉吉
- 8.中. 敗戦直後は「雑誌の時代」だった - 劣悪な状況のもとで出された創刊誌群の意味 福島鏗郎
- 8.下. 今、マンガはどうなっているのか - “絵解き”の「劇画」は破産してしまった 梶井純
- 9.上. 座談会「神田村取引書店実態調査」を終えて - いまこそ見直される専門取次店の魅力 奥川礼三、神戸祐三、島森五郎、細野裕雄、吉見寿文
- 9.中. 現代蔵書考 - 精神の衣裳であり、心の肌着として 斎藤夜居
- 9.下. インタビュー「新再版制」1年で思うこと 橋口収 聞き手・編集部
- 10.上. 「自由民権100年」を考えるために - 今、起っている新しい「うねり」を探る 山泉進
- 10.中. 「写真の時代」の雑誌の中味 - 『FOCUS』の創刊に焦点をあわせて 中西昭雄
- 10.下. 出版情報とキャプテン・システム - 読者・書店・版元を結ぶもう1つの回路 田村紀雄
- 11.上. 女たちの「仕事」と記録 - 新しい理念をつくり出す足がかりに 香内信子
- 11.中. 書籍目録、類書リストの流行 - 混乱した世界に開いた小さな窓 紀田順一郎

- 11.下. 図書館運動と図書館の活用 - 住民の利用が司書を鍛える 森耕一
- 12.上. 特集・ソ連の図書流通事情 - 本が読者の手にわたるまで 石田三郎
- 12.中. 大衆の科学雑誌とは何か - 日本に科学ジャーナリズムはあるのか 里深文彦
- 12.下. '81年出版界・読書界10大ニュース

【1982 昭和57年】

- 1.上中. 対談「未知を」読む「ことの意味 - 今あえて「活字信仰」を語る 外山滋比古、和田勉
- 1.下. 高齢化社会について考える - “老いの問題から老人福祉まで 副田義也
- 2.上. 情報誌『ダカーポ』の手法 - カタログの時代からコラムの時代へ 松尾羊一
- 2.中. ベストセラー・症候群に冒されるアメリカ - 出版はショービジネスか 清水英夫
- 2.下. “全国ふるさとの本まつり”の意味
- 3.上. 「教科書問題」とは何か - 内容面、採択面からの統制化が進んでいる 永原慶二
- 3.中. いま、なぜ「冒険小説」か - 静かなブームの背景を考える 右京大介
- 3.下. ベストセラーは読者が作る - 時代と社会への「のぞき窓」として 井上宏
- 4.上. 出版に関する投書の分析 - 全国紙3誌、7年間の累計から 能勢仁
- 4.中. マスコミ、ジャーナリズムを知るためのアプローチ 新井直之
- 4.下. 世界の出版統計
- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中. 数字でみる出版界'81年
- 5.下. 外資系出版社最近の動向 - 多国籍

化戦略の転換とその背景 遠藤千秋

- 6.上. 出版学の命題は「出版とは何か」- 日本出版学会会長就任にあたって 清水英夫
- 6.中. 出版社の社史はどうあるべきか - 有斐閣、丸善、三省堂の社史を読んで 山本武利
- 6.下. 『ダカーポ』をどう作っているのか - 中・高年に支えられた点情報誌 甘糟章
- 7.上. 刑法175条の廃絶をめざして - 『愛のコーリダ』審判決の意味するもの 松田政男
- 7.中. 反核と反原発をむすぶもの - 平和利用と軍事利用は一体化している 西尾漢
- 7.下. いま、なぜ『編集長』なのか - 雑誌の時代を活性化する 仕掛人 たち 鈴木均
- 8.上. 進む江戸時代出版史の研究 - 基礎文献の整備と実証的研究の成果 今田洋三
- 8.中. パロパロパンチ10周年記念・消夏特集 ああ、『大誤読』? 作・構成 - パロパロパンチ
- 8.下. 書店のPR誌・紙と読者 - 仕事の中味を「外」に伝えているか 草薙聴志
- 9.上. 座談会・非再版本の流通ルートをめくって - 出版社の在庫本を再び店頭へ 中村義治、山崎誠、八木壮一
- 9.中. 不在の書物へ - 『日本学術資料総目録』の刊行にあたって 中野幹隆
- 9.下. 図書館事業基本法と市民の図書館 - リスケ(先送り)社会と図書館の戦略・戦術 鈴木喜久一
- 10.上. 複合専門書店への期待 - 東京堂書店新本店開店にあたって 紀田順一郎
- 10.中. 外務省の外交文書公開と占領史研

究 福島鏗郎

- 10.下. INSは出版をどう変えるか 田村紀雄
- 11.上. 「集団著作」- その明と暗 知的媒介としての編集・出版を考える 美作太郎
- 11.中. 拡大する「ロマンスもの」の市場 - 女性読者をとらえる秘密はどこに 夏木陽子
- 11.下. 中国連環画(劇画)に文革後の動きをみる 片寄みつぐ
- 12.上. 本の万引 その実態 - 日書連『万引問題実態調査報告書』から
- 12.中. 『平凡』創刊のころと岩堀喜之助 清水達夫
- 12.下. '82年出版界・読書界10大ニュース

【1983 昭和58 年】

- 1.上.中. 「本」で何を伝えるのか 石井慎二 島本修二、星山佳須也
- 1.下. 「世界コミュニケーション年」と出版 清水英夫
- 2.上. 「出版」からロマンは失われたか - 活字世界の活性化と復権を問いかける 山本武利
- 2.中. 出版プロデューサー論 - 著者と出版社を効果的に結びつける仕事 植田康夫
- 2.下. 大型活字本を考える - “読みやすさ”とは何なのか 外山滋比古
- 3.上. アメリカ雑誌企業の動き - 『雑誌年鑑'82年版』から 編・訳星川正秋
- 3.中. “『東京漂流』パスツアー 同乗記 - 書店イベントの新しい試み 羽永光利
- 3.下. いまが必要な広告表現の工夫 - 出版広告の「効率」を改めて問い直す 村崎和也
- 4.上. わいせつ裁判はこれでいいのか -

- 最高裁3判決とそのすれちがいの
論理 水島正朋
- 4.中. アメリカ出版界の危機 - ペーパー
バックの分極化とハードカバー出
版の沈滞 常盤新平
- 4.下. 世界の出版統計
- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中. 数字でみる出版界'82年
- 5.下. 第4回日本出版学会賞 長友千代
治、福島鏗郎
- 6.上. シンポジウム・今再び雑誌の時代 -
雑誌大好き人間の「私の作法」 清
水達夫、椎名誠、残間里江子、鈴木均
- 6.中. 書評特集・消費としての出版・志の
出版 林伸郎
- 6.下. 「学術雑誌システム」について考え
る - 大学図書館だけの問題ではな
い 河田いこひ
- 7.上. 連載・ある雑誌づくりの自分史 第
1回 二人で一人の物語 - 岩堀喜之
助と私 清水達夫
- 7.中. 出版契約のガイドライン - イギリ
ス出版協会の「実施要綱」について
美作太郎
- 7.下. 反核の高まりが生んだ原爆文学の
集成 - 『日本の原爆文学』全15巻の
刊行にあたって 長岡弘芳
- 8.上. 出会いの場としての出版広告 - 効
率のいい広告をめざして 村崎和
也
- 8.中. 特集・占領時代をどうとらえるか -
「東京裁判」から何を学ぶのか 住
谷雄幸
- 8.下. 著作権の集中処理に関する調査研
究協力者会議の中間まとめ - 複写
問題 文化庁
- 9.上. 総広告状況への視点 - 若者はなぜ
広告をめざすのか 鈴木均
- 9.中. 汎テレビ状況のなかの活字メディ
ア - 30年の流れと受け手の変化

- 松尾羊一
- 9.下. もうひとつの「欠陥翻訳」 - 索引は
なぜ削除されるのか 河野仁彦
- 10.上. 特集・小出版社はいま... 関田稔、
高須次郎、古川弘典
- 10.中. ウニタ書舗閉店から1年 - 近況報告
遠藤忠夫
- 10.下. 進展するアジアの出版交流 - ユネ
スコ・アジア文化センターの活動
浅野明美
- 11.上. 対談・酸性用紙問題への提言 - 実際
的立場からの研究を 栃折久美子、
金谷博雄
- 11.中. 座談会・古書蒐集「一書懸念」 - 一冊
の本を追い求めることへの情熱
紀田順一郎、中原英一、和田信裕、松
村要
- 11.下. 私のみた図書館7不思議 - 王様は
ハダカである 松村久
- 12.上. 性表現・性描写に関する調査報告か
ら
- 12.中. アンケート特集・なぜ雑誌を創刊す
るのか
- 12.下. '83年出版界・読書界10大ニュース

【1984(昭和59)年】

- 1.上.中. 体験の編集者論 - 編集者ほど素敵
な商売はない 清水達夫
- 1.下. ニューメディア時代と出版契約 -
書協の出版契約書ひな型改訂案に
ついて 谷井精之助
- 2.上. 復刻出版の「価値」について - 在野
研究者の立場から考える しまね・
きよし
- 2.中. 教育状況へのひとつの発言 - 手づ
くりのメディアのなかに突出した
教育認識である 五十嵐良雄
- 2.下. ミニコミ喫茶「アクセス」の7年 -
店自体がひとつのメディアだった

- 中村浩子
- 3.上. 座談会・専門書出版社は活性化するか - 浅田彰著『構造と力』の好売行現象の意味 富岡勝、藤原良雄、七字英輔
- 3.中. 翻訳出版権の輸出と国際交流 - 「日本著作権輸出センター」の発足にあたって 村山貞也
- 3.下. 図書類規制法案 'の企図するもの - “角を矯めて牛を殺す”規制立法 清水英夫
- 4.上. 『出版月評』『書物展望』の復刻に寄せて - 「書物誌」の栄光を再現する 稲村徹元
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 数字で見る出版界 '83
- 5.中. 第5回日本出版学会賞 香内三郎
- 5.下. シンポジウム・1984年言論・出版の自由 - 横浜事件、風流夢譚事件・・・そしていま 美作太郎、京谷秀夫、山本武利、清水英夫、宗武朝子
- 6.上. 著作権の集中的処理に関する調査協力者会議報告書(複写問題)の概要
- 6.中. 雑誌ジャーナリズムの現在 - ライフスタイルの時代は終わったのか 鈴木均
- 6.下. ニューメディア時代と専門図書館 - 創造的で有力な情報を必要な人に 末吉哲郎
- 7.上. 「取次」の変貌をどう見るのか - 3新刊にみる取次の実体と「あるべき論」について 荘司太郎
- 7.中. 「歴史まんが」で歴史は読めるか - 教師や親が進める学習まんがとは 梶井純
- 7.下. スポーツ雑誌のノウハウ - 『ナンバー』100号に寄せて 清水哲男
- 8.上. マスコミ研究とPR誌 - 研究スタイ

- ルも博士論文もそこから生れた 藤竹暁
- 8.中. 出版界の活性化と編集プロダクション - 「急成長」の背景にあるもの 小林一博
- 8.下. 特集・転換期をむかえた地方出版社 久本三多、蒲昌志、安倍甲
- 9.上. 民間刊行物情報センター構想の始動 - 多様な企業情報の新たな流通をめざして 山田奨
- 9.中. ワープロの普及が本作りを変える - 執筆・著者校正の過程で大きなメリットが 山本治郎
- 9.下. “犯罪報道の犯罪”を問う - ジャーナリストは“ペン”を持ったおまわりさん”なのか 浅野健一
- 10.上. 著作権と言論・出版の自由 - ニューメディア時代の到来と著作権の危機 美作太郎
- 10.中. ジャーナリズム研究の方法 - 「松浦総三の仕事」全3巻刊行にあたって 松浦総三
- 10.下. マスコミ倫理懇談会全国大会レポート - 性表現“ロス疑惑”報道を中心に白熱の論議が展開
- 11.上. 電電公社の出版事業参入 - 「バラエティ電話帳」続々刊行 田村紀雄
- 11.中. 出版社による読者開拓の一事例 - 好評だった送料サービス・着本後払い方式 近藤安太郎
- 11.下. 「一人おいて」の編集者たち - 『雑誌記者池島信平』を書き終えて 塩澤実信
- 12.上. インタビュー・これからどうなる非再販本流通 相賀徹夫
- 12.中. '84年ベストセラーにみるアメリカの出版界 金平聖之助
- 12.下. '84年出版界・読書界10大ニュース

【1985(昭和60)年】

- | | |
|---|--|
| <p>1. 上中. インタビュー・いま、宮武外骨をどうとらえるか - その全方位的面白さについて 赤瀬川原平</p> <p>1. 下. 広告の本が売れる時代 - 記号的分析から作り手が書いた本まで 大橋正房</p> <p>2. 上. ビジネス雑誌に何が欠けているのか - 胃にもたれるサクセスストーリー 佐高信</p> <p>2. 中. 新風俗営業法と表現の自由、娯楽の自由 水島正明</p> <p>2. 下. 「別冊宝島」の編集作法 - 「ムック」づくりの編集現場から 石井慎二</p> <p>3. 上. 戦後雑誌発掘の25年 - “出版物にみる戦後史展”を終えて 福島鏗郎</p> <p>3. 中. 吉本隆明の「現在」を読む - 「情況」「自立」から「無意識」「システム化」へ 遠丸立</p> <p>3. 下. 考古学と日本古代史 - 考古学ジャーナリズムの視座から 玉利勲</p> <p>4. 上. 地方出版社のDM販売戦略 - 「ゆっくり作って早く売る」直販方式の成功 松村久</p> <p>4. 中. 犯罪は時代を映す - 多様な犯罪関連書続出の背景を探る 鎌田忠良</p> <p>4. 下. 世界の出版統計</p> <p>5. 上中. 日本の出版統計</p> <p>5. 下. なぜ「仕事」が問われているのか - 『インタビュー「仕事」の世界』全16冊からみえてくるもの 内山節</p> <p>6. 上. 企業とPR誌がかかえる問題点 - 『IS』8年間の経験から 七字英輔</p> <p>6. 中. 対談・関西の出版状況を語る - 出版文化活性化のためのネットワークを 内山正之、川口正</p> <p>6. 下. 「大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録」をどう利用するか - 大宅の発想法の見事な投影 植田康夫</p> | <p>7. 上. ヒストリーズラン誕生の原点 - “リング無き10代”による雑誌の旅立ち 高野大、高野生</p> <p>7. 中. 教科書の愚かしさについて - 親・教師たちの過剰な期待のなかで 久田邦明</p> <p>7. 下. “図書館づくりは百年戦争”の視座 - 日野精神の継承発展を... 百瀬正昭</p> <p>8. 上. ブック・デザインの正統 - 原弘の仕事を中心に 岡田隆彦</p> <p>8. 中. 「戦後雑誌」を読む視座 - 総合雑誌から風俗雑誌まで 木本至</p> <p>8. 下. '84年出版物販売額の実態と分析 武埴修</p> <p>9. 上. '85年上半年の書評動向一定量分析の試み 『書評月報』編集部</p> <p>9. 中. インデックスジャーナリズム論 - 『MONTHLY INDEX』の創刊にあたって 鈴木均</p> <p>9. 下. 出版ジャーナリズムと戦後 - 3著にみるそれぞれの「戦後精神」 門奈直樹</p> <p>10. 上. 映画ジャーナリズムの転載をめぐって - 「映画史」へのこだわり、「映画の現在」へのかかわり 松田政男</p> <p>10. 中. 出版社は自己変革できるか - 創造体としての出版社 小宮山量平</p> <p>10. 下. 節度のない「報道」について - ジャーナリズムは人を裁けるか 小中陽太郎</p> <p>11. 上. 出版社の権利としての「版の権利」 - 統一した理解がいま求められている 豊田きいち</p> <p>11. 中. 言論弾圧下の出版ジャーナリズム - 美作太郎著『戦前戦中を歩む』を読む 田中伸尚</p> |
|---|--|

- 11. 下. 三つの「思想系」の新展開 - ニューアカデミズム以後の課題 清水多吉
- 12. 上. 視覚障害者の読書権と著作権問題 - シンポジウム「障害者の読書を考える」を終えて 市橋正晴
- 12. 中. 気楽に、しかも急速に輪をひろげよう - 「国家秘密法に反対する出版人の会」の発足 橋本進
- 12. 下. '95年出版界・読書界10大ニュース

【1986(昭和61)年】

- 1. 上中. ワイド特集・いま、読者をどうとらえるか 芝田正夫、元正章、武田守、相坂一
- 1. 下. 納本制度の歴史と現在 - 検閲・思想統制の手段から文化財の保護・蓄積へ 布川角左衛門
- 2. 上. 映像メディアとは何か - 誰のために、何を訴えようとするのか 新井直之
- 2. 中. 書き手の立場、編集者の立場 - フリーライターになって実践的に思うこと 江波戸哲夫
- 2. 下. 日本著作権輸出センターの新展開を期して - 4年間の活動をふりかえる 栗田明子
- 3. 上. 日本図書設計家協会の発足 - 本をデザインする職能人の集団 道吉剛
- 3. 中. 翻訳権をめぐるトラブルの諸問題 - 「10年留保」をどう理解すべきか 宮田昇
- 3. 下. ハイテク時代の出版メディア - 活字メディアから文字中心メディアへの転換 岩崎勝海
- 4. 上. ファミコンブームのなかのマイコン雑誌 - 実用をかねたホビー雑誌として定着 池田信一

- 4. 中. 「いじめ」としての教科書 - 「第1次家永教科書訴訟」控訴審判決に思う 上野清士
- 4. 下. 世界の出版統計
- 5. 上. 日本の出版統計
- 5. 中. “書評世界”のアナリシス - 書評は文化の水準を決定する 木村隆美
- 5. 下. 読書と書評についての私論 - 倉本四郎著『本の宇宙』に触発されて 井家上隆幸
- 6. 上. 第7回日本出版学会賞 山本武利
- 6. 中. 「本の探偵」から14の提案 - 寄せられた手紙の山を前にして 赤木かんな
- 6. 下. パロディ・謝罪広告・不敬罪 - モンタージュ写真裁判差し戻し判決にふれて 清水英夫
- 7. 上. 「データベース」はキーワードか - 新聞・出版界と電子図書館(EL) 平松齋
- 7. 中. 復古調「日本史」教科書の危険な「魅力」 上野清士
- 7. 下. '86年子どもの本世界大会の開催にあたって 青木久子
- 8. 上. 第52回国際図書館連盟(IFLA)東京大会の概要と課題 今まど子
- 8. 中. 「江戸」から現在の出版を照射する - 「新文庫世代」と「旧単行本世代」の間には 鈴木均
- 8. 下. 博物学的読書の方法 - 「読み歩き」のテクノロジー 荒俣宏
- 9. 上. 国立国会図書館の新展開 - 新館の完成で思うこと 高橋徳太郎
- 9. 中. '85年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 9. 下. 中国の出版研究の現状をたずねて - 北京・上海・常州、出版交流の旅から 清水英夫
- 10. 上. 著作権の集中的処理機構の概要 - 機構設立のための試案 日本書籍

- 出版協会、豊田きいち
- 10.中. 「出版教育」の可能性を探る - 「出版
学科」設立の条件と課題 箕輪成男
- 10.下. 冒険小説はカルチャーセンターな
のだ - 情報領域別おすすめ作品リ
スト 右京大介
- 11.上. 「テレマーケティング」は出版流
通を変える - アメリカでの試みは
日本で成功するか 田村紀雄
- 11.中. レディスコミックの「刺激」と「予定
調和」- 15誌の作品からの内容分析
秋本雅代、諸橋泰樹
- 11.下. いまなぜ横浜事件再審請求か？ -
「治安立法」の実態を白日のもとに
森川金寿
- 12.上. ニューメディア時代の「奥付」のあ
り方 - 書籍、出版者の意思表示とし
て 豊田きいち
- 12.中. 同上
- 12.下. '86年出版界・読書界10大ニュース

【1987(昭和62)年】

- 1.中下. 特集・ブックデザインの現在 松本
八郎、中西昭雄、金谷博雄
- 1.下. 出版流通の最適システムをめざし
て - FAX活用による流通改善への私
案 北川明
- 2.上. 人間の事業の一端としての出版 -
径書房、刊行100点の節目にあたっ
て 原田奈翁雄
- 2.中. 作者から読者へ 作家の出版 - 湖
(うみ)は深くなった 秦恒平
- 2.下. 現代冒険小説の定着と成熟 - 確立
した「作品・メディア・読者」のサイ
クル 右京大介
- 3.上. 「書評」のアルケオロジー - ポスト
モダン への文化批評として 矢代
梓
- 3.中. 出版物への売上税は「知識」への課

- 税だ - イギリスの付加価値税反対
運動から学ぶ 門奈直樹
- 3.下. コミュニケーション過程としての
出版 - 「出版教育についての覚書」
から 吉田公彦
- 4.上. 50年目に蘇った『稿本博文館五十年
史』 浅井康男
- 4.中. レトロ・シンドローム状態を解説す
る - テレビとベストセラーズにみ
る映像感覚 松尾羊一
- 4.下. 世界の出版統計
- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中. 広がる国家秘密法反対の活動 - 「出
版人の会」の1年半をふりかえる
橋本進
- 5.下. 雑誌は「時代」を語るか - 『戦誌で見
る戦後史』を読んで 清水哲男
- 6.上. 第8回日本出版学会賞 香内三郎
- 6.中. 新たな出版流通ネットワークの模
索 - 小部数出版物を確実に全国の
読者へ 五味正彦
- 6.下. 精密化、専門化するマンガ評論 - マ
ンガ世代による多様な「マンガ」観
片寄みつぐ
- 7.上. 「たけし事件」とジャーナリズム -
メディア全体が「毒」を捨てたの
か？ 田中伸尚
- 7.中. 女性雑誌の「痩せたい広告」の現在
- 瘦身・整形広告の内容と問題点
秋本雅代、諸橋泰樹
- 7.下. 60周年をむかえた岩波文庫 - 『岩波
文庫総目録』に見る老舗の出版ポリ
シー 山下武
- 8.上. 電話帳出版とテレマーケティング - アメリ
カでの多様な使われ方
田村紀雄
- 8.中. 『新聞資料原爆』を読む - 「原爆」を
軸として迎える戦後史 長岡弘芳
- 8.下. '86年出版物販売額の実態と分析
武埴修

- 9.上. 横浜事件再審請求その後 - 「細川記録」と「泊会議」追体験のこと 大川隆司 木村亨
- 9.中. 外国著作権保護に関する内外の最近の動向 - 『出版文化』'85年11月号から
- 9.下. 万国著作権条約(UCC)に加入する韓国 - 経済的・文化的負担をどう克服するか 韓勝憲
- 10.上. さよなら『平凡』『週刊平凡』 - フィナーレの幕を閉じて 清水達夫
- 10.中. 強まる言論・出版の自由への権力の介入 - 北方ジャーナル事件、たけし事件両判決が示すもの 中村泰次
- 10.下. 「本」との出会い、「人」との出会い - 「人縁」読書がやはり基本に 佐高信
- 11.上. 灰色文献探偵団の冒険 - 我らは埋蔵資料・文献を掘り起こす 山田奨
- 11.中. 「沖縄」をどう読むか - 沖縄の相対化を通しての日本の相対化を 上間常道
- 11.下. 苦悩する韓国のマス・メディア - 第3回国際出版学術発表会に出席して 清水英夫
- 12.上. 本の宅配システム「BOOKSあすよむ」の発足 - よりキメ細かに流通体系の確立を 大竹広明
- 12.中. ノンフィクションと「実名報道」 - 『逆転』プライバシー判決の持つ意味 浅野健一
- 12.下. '87年出版界・読書界10大ニュース

【1988(昭和63)年】

- 1.上.中. 特集・本のながれはどうかかわるか 武埴修、永守祐一、斎藤忠司
- 1.下. 新聞記事からみた「出版」 - 文学賞

への寛大すぎる報道姿勢を問う
和田悌二

- 2.上. 多様な本のながれを透視する - 『出版流通図鑑』の取材・執筆を終えて 村上信明
- 2.中. チラシ印刷でなぜ助罪なのか 丸山友岐子、小林一博
- 2.下. 円高状況下の著作権輸出 - “日本への窓”をどう開いていくか 栗田明子
- 3.上. 冒される取材・表現の自由 - 『連続家宅搜索事件』はなぜ起こったのか 田中伸尚
- 3.中. 原発は必要なか? - 出力調整実験反対運動の盛り上がりの中で 西尾漠
- 3.下. 出版の初心に立ちかえる - やむにやまれぬ気持からの「無印本」を読む 木村聖哉
- 4.上. 新しい「学」をめざす「寄せ場学会」 - 創立1周年をむかえての展望 池田浩一
- 4.中. 著作権トラブルの傾向 - 編集技術と著作権法について 豊田きいち
- 4.下. 世界の出版統計
- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中. 「生活」と向きあうシルバー誌 - 多様なニーズに作り手はどう応えるか 平松齋
- 5.下. 「ピンクチラシ判決」の背景を探る - 常に犯罪と隣合わせの印刷業者 阿部隅夫
- 6.上. 中間小説誌の再生は可能か - 「多様性とバランス」が活気をとりにどす 清原康正
- 6.中. グラフィックデザインの「戦争」と「平和」 - 「技術者集団」の国際性とは 中西昭雄
- 6.下. 歩みはじめた文芸書専門店 - 作家の問題提起を地域が受けとめて

林邦夫

- 7.上. 企業内「情報センター」の役割 - 迅速で良質な情報サービスシステムの構築 植村達男
- 7.中. 特集・雑誌ジャーナリズムの現在 PART1 岡留安則、篠田博之
- 7.下. 同上、PART2 深田卓、池田五法
- 8.上. 同上、PART3 我孫子誠人、丸山実
- 8.中. 同上、PART4 『アエラ』はいま試行錯誤中 富岡隆夫、新井直之
- 8.下. '87年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 9.上. 契約・料金関係に見る図書設計家の実態 古谷実
- 9.中. 電子出版と編集者 - 新しい「技術」をどういやすのか... 下村昭夫
- 9.下. 公開編集会議・会社 うちのブックレットは何故成功したか - 1冊1冊の全力投球が好結果を 石井慎二、金箱つね子、上田高史
- 10.上. 「出版農業説」から30年 - 農業も出版も、そして人も変わる 岩崎勝海
- 10.中. 「岩波新書」から学んだこと - 読書ノートを読み返して... 佐高信
- 10.下. 座談会・「地方出版」は様変わりしたか - 濃密な風土性、地域性を持った出版に活路 安倍甲、川上賢一、高橋彰一
- 11.上. 読書週間特集・「本」を贈る 清水達夫、柳ヶ瀬和江、石田恵子
- 11.中. 「時代」そのものだった『平凡パンチ』 - ベビーブーム世代に奉仕しつづけて 池田信一
- 11.下. 東京都東村山市の「図書館」のオープン 西村良隆
- 12.上. 「出版者の権利」に関する中間報告書の概要と解説 豊田きいち
- 12.中. 特集・「Xデー」状況を前にして 天野恵一、高橋武智
- 12.下. '88年出版界・読書界10大ニュース

【1989(平成1)年】

- 1.上下. 「出版学」の20年 回顧と展望 - 20周年をむかえた日本出版学会 清水英夫
- 1.下. 国際化する出版と「援助」の落差 - 日本への窓 は開かれつつあるのに... 栗田明子
- 2.上. 最近の文字組版と文字を考える - 読みやすさと美しさの追求を 横山和雄
- 2.中. 「団塊の世代」は新しい雑誌を待っている - 彼らはいま、読みたいのだ 松尾羊一
- 2.下. ポスト・モダン論の行方 - 「独仏論争」を反面教師として 清水多吉
- 3.上. 「ミズ・クレヨンハウス」オープンに向けて - 私が書いた、そして書き続けるであろう手紙について 落合恵子
- 3.中. 出版広告掲載拒否と天皇問題 - 緑風出版社対中日新聞社の訴訟をめぐる 林伸郎
- 3.下. 資料が語る480日間の「天皇報道」 - 『ドキュメント「昭和」の終わり、全報道記録』を読んで - 門奈直樹
- 4.上. 「消費税」対策に追われる出版界 - “確認事項”をまとめてみると...
- 4.中. 同上、続
- 4.下. 世界の出版統計
- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中下. 「風流夢譚」事件のころ - 批判的ジャーナリズムとは何かを考える 橋本進
- 6.上. 揺れ動く韓国の出版界 - 厳しくなった出版物への取締まり 館野哲
- 6.中. 「書評紙」の現在 - 書物批評とは何か 矢代梓

- 6.下. 大学生協書籍部から「出版者」へ - 消費税導入で考えたこと 西垣内義則
- 7.上. 広がる「日本出版文化博物館」構想 - 「出版の自由」のモニュメント 大橋祥宏
- 7.中. 国立国会図書館「乙部図書」は出版文化の貴重な宝庫である 山下武
- 7.下. 「専門図書館」はいま - 『白書・日本の専門図書館1989』から 編集部
- 8.上. 「ピンクチラシ裁判」のその後 - 第2ラウンド控訴審の開始を前に 丸山友岐子
- 8.中. 特集・消費税導入から4か月 神田肇、高橋昇
- 8.下. 訴求力のあった戦前の出版広告 - 『出版広告の歴史』の刊行にあたって 石川弘義、尾崎秀樹
- 9.上. 戦時下グラフ雑誌の復刻を読む - イメージの中の戦争 小野雄一
- 9.中. '89年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 9.下. 「読書社会」を目指して - 1990年国際識字年へのユネスコの目標 ニッサンカ・マトゥラペルマ
- 10.上. 資料・「消費税定価訴訟」裁判
- 10.中. アメリカ雑誌界の最新動向 - 好調な創刊女性誌と話題の「ニューマン」誌 金平聖之助
- 10.下. 「ピンクチラシ裁判」報告 - より深められた議論のために 遠藤直哉
- 11.上. 0120で本が買える - スタートする「良書の通信販売」0120BOOK 正木鞆彦
- 11.中. 世界的に見た日本古典籍の特徴 - 古文化財としての書物の価値について 反町茂雄
- 11.下. レポート・第4回国際出版フォーラムの成果 - 国際コミュニケーション時代の幕開き 箕輪成男

- 12.上. UCC加盟から2年の韓国出版界 - 著作権状況はどのように変化したか 韓勝憲
- 12.中. 印刷の昭和戦後史から - 「技術革新」は出版にどのように影響したか 横山和雄
- 12.下. '89年出版界・読書界10大ニュース

【1990(平成2)年】

- 1.上.中. 新春インタビュー・今こそ問う「出版とは何か」 - 出版界の自己革新は可能か 西谷能雄
- 1.下. 近代国家の解体に際会して - 『新日本文学』500号記念号刊行に思う 木村隆美
- 2.上. 出版をめぐる法の昭和史(戦前編) - 行政と司法のはさみうち状況の中で 清水英夫
- 2.中. 「病院図書館」はなぜ必要か - 本は病める心を慰め、時には癒す 菊池祐
- 2.下. 戦後教育の思想と「教える思想」 - 出口なおと岡田虎二郎をテコに根源から問い直す 武田秀夫
- 3.上. '90年代の書店論に向けて - 書店が直面している3つの危機について 湯浅俊彦
- 3.中. 天皇書籍広告拒否訴訟の1年 - 広告メディア側の恣意であってはならない 高須次郎
- 3.下. 私の女性誌作法 - 「差別化」のための戦略と戦術 黒崎勇
- 4.上. インタビュー・「閉店1周年の」ミズ・クレヨンハウス - 見えない読者にネットワークを拡げていきたい 落合恵子
- 4.中. 消費税導入1年の出版界 - “ボタンのかけ違い”が残したもの
- 4.下. 世界の出版統計

- 5.上. 日本の出版統計
- 5.中下. 「出版者の法的保護」の輪郭 - 著作
権審議会第8回小委員会報告案から
豊田きいち
- 6.上. 第11回日本出版学会賞 井上輝子
- 6.中. 孤立化する日本出版学 - 日本出版
学会会長に就任して 箕輪成男
- 6.下. 第2期『情況』創刊をめぐる - 「新
しい天使」によせる 清水多吉
- 7.上. 「自由化」の中のポーランド出版事
情 - 新しい600の書店と30の出版社
が誕生 カロル・シェヤレック
- 7.中. インタビュー・東販総研は何を目指
すのか - 未来予測と読者の動態分
析を 関根登
- 7.下. 「電子ブック」は「読書」を変えるか
- ハードとソフトが一斉に発売
宇喜多義敬
- 8.上. ヨーロッパ系出版社の日本市場へ
の進出 - 出版流通と再販制に問題
提起 神保誠
- 8.中. 中国の出版教育 訪中見聞 - 充実
する出版の専門人育成のための教
育制度 吉田公彦
- 8.下. マンガ批評の現在を考える - ポス
ト手塚治虫のマンガ論を中心に
梶井純
- 9.上. '89年出版物販売額の実態と分析
武埴修
- 9.中. ブック・フェアの現在 - “女と男の
エロティシズム”フェアを企画して
小山テル子
- 9.下. 日本の出版産業の特性 - 出版をめ
ぐる経済と文化の現況 岩崎勝海
- 10.上. 「病院図書館」世界 (IFLA)と日本 - 世
界の病院図書館調査プロジェクト
を引き受けて 菊池佑
- 10.中. 北京 - 本の探し歩き体験 中国の
出版流通はどうなっているのか
田村紀雄

- 10.下. 新たな出版史への展望 - 『講談社
の80年』の執筆を終えて 林邦夫
- 11.上. 特集「ピンクチラシ裁判 最終弁論
を終えて 丸山友岐子、清水英夫
- 11.中. チェコからの出版レポート・民主革
命による作家の「復権」 栗栖継
- 11.下. フランクフルトブックフェア「日本
年」行事 現場からのレポート 渡
邊和彦
- 12.上. 市場システムを導入し始めた中国
の出版 - 10年にわたる改革の成果、
「新販売体制」 張美芬
- 12.中. フランスの出版専門誌が見た日本
の出版界 - 『リーブル・エブド』の日
本特集記事から
- 12.下. '90年出版界・読書界10大ニュース

【199(平成3)年】

- 1.上中. 特集・図書設計家協会はいま... 代
田奨、加藤光太郎、古谷玄
- 1.下. 発足する「日本複写権センター」設
立の経緯と問題点 豊田きいち
- 2.上. 「ちびくろサンボ」の語源をめぐる
- 「仮説」と「断定」の間で考える
出倉純
- 2.中. コミック本規制の構造 - 東京都
データの使われ方 = 報道の陥穽
諸橋泰樹
- 2.下. 出版流通改善のための諸施策の現
状 - 「商流」物流」両面からのアプ
ローチ 客注システム研究会
- 3.上. 永山則夫と獄中読書 - 『永山則夫の
獄中読書日記』を手がかりに 鎌田
忠良
- 3.中. 情報産業と図書館の新たな存在基
盤をさぐる - 「電子ライブラリー・コ
ンソーシアム」の発足にあたって
山崎久道
- 3.下. 異業種の出版進出をめぐる - 「企

業出版』は既存出版社への挑戦か
塩澤実信

- 4.上. いま『自由時間』について語る - 時代の息づかいを感じられる雑誌に
甘糟章
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 日本の出版統計
- 5.上. 資料・著作者・出版者複写権集中処理センターの設立とその経緯 著
作者・出版者複写権集中処理センター
- 5.中下. インタビュー出版界の「虚弱体質」
を衝く - 消費税、再販制、出版VANなどをめぐって 神田肇
- 6.上. 女性に関する情報の整備が進んできた - 『女性情報年鑑』の発刊よせて 井上輝子
- 6.中. 5000号を迎えた『週刊東洋経済』 - 1世紀にわたって独自路線で読者の支持を獲得
- 6.下. 出版ジャーナリズムと私 - 故郷としての出版界 清水英夫
- 7.上. 座談会・『茂田井武画集1946~1948』の刊行に至るまで 片寄みつぐ
山口卓三、大村祐子
- 7.中. 『HaNaKo』誕生の楽屋ばなし - 大阪発人間情報誌が構想の原点 清水達夫
- 7.下. 新しい教科書検定をめぐって - 脱構築とネットワーキングのための試論 黒沢惟昭
- 8.上. ブックレビューって何やねん - 消化不良の消夏放談 長谷川卓也
- 8中. 進行する「編集・制作」のFA化とその問題点 - 出版・印刷産業の再編成の時代に 横山和雄
- 8.下. 資料・出版物再販制の「見直し」について - 『独占禁止法適用除外制度の見直し(各論)』から
- 9.上. 座談会・専門書出版マーケティング

への模索 - 『書籍出版のマーケティング』刊行の意義を考える 村崎和也、榎本敏彦、山下正

- 9.中. 資料・「有害コミック」問題
- 9.下. フランスのテレビ書評番組と出版界 - 番組司会者の回想録を読んで 渡邊和彦
- 10.上. '90年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 10.中. 天皇批判書広告掲載拒否訴訟のその後 - 東大新聞研助教授・浜田純一氏の「鑑定書」(全文)
- 10.下. 第6回『全国小売書店取引経営実態調査報告書』(日書連)から
- 11.上. 出版活動と「物語マーケティング」 - 広告を中心に 福田敏彦
- 11.中. 転機を迎えた韓国の出版界 - '91ソウル図書展報告を中心に 館野哲
- 11.下. 「有害」コミック規制を批判する - 大阪府青少年健全育成条例改定の動きを中心に 湯浅俊彦
- 12.上. 『少年ジャンプ』が「男の生き方総合誌」 - 子どもたちに「元気」を与えるメッセージを送り続けたい 後藤広喜
- 12.中. エコ ブームの中のブックカバー - ゼニ捨つるほどの本屋はありやみさき・たまゑ
- 12.下. '91年出版界・読書界10大ニュース

【1992(平成4)年】

- 1.上中. 著作権情報サービスがなぜ必要か - 活動をはじめた著作権の民間シンクタンク 宮田昇
- 1.下. 明らかにされた戦時下出版界の秘録 - 『証言・朝鮮人のみた戦前期出版界』刊行に寄せて 荘司太郎
- 2.上. 「報道のなかの女の人權」を考える - 差別と人權侵害に対するフェミ

- 二ズム理論の成果 中川隆介
- 2.中. 拡大する「有害」コミック規制の動き - 流通規制は言論統制そのものである 「有害」コミック問題を考える会
- 2.下. 日本複写権センターの概要と各国の複写複製機関の現況
- 3.上. 愛書家の時代 - 刊行を始めたピブリオフィル叢書について 持田鋼一郎
- 3.中. 資料・書店経営の現状 - 日書連『書店経営白書』から
- 3.下. 国際著作権条約への加盟を宣言した中国 - 翻訳出版と共同出版にどう影響するか 菅可風
- 4.上. 「有害」コミック規制問題への一視点 - 「異議申し立て」機関の設置を丸山友岐子
- 4.中. 世界の出版統計
- 4.下. 資料「消費税込価訴訟」判決(全文)(上)
- 5.上. 同上(下)
- 5.中下. 日本の出版統計
- 6.上. 「電子出版」を今どうとらえるか - “新しい出版”の進展とその問題点 下村昭夫
- 6.中. 『朝日ジャーナル』休刊に思うこと - 近代と現代の境目に生まれた雑誌メディアの消長 中島誠
- 6.下. 出版学の再構築をめざして - 問題指向型の「学」に求められるもの 箕輪成男
- 7.上. サービス産業としての編集プロダクション - 「よい本」を生み出すための条件とは? 坂崎靖司
- 7.中. 特集・再び「有害」コミック問題を考える コミック表現の自由を守るために 篠田博之
- 7.下. これからの書店を考える - 書店労働者交流会の記録から
- 8.上. メディア史研究の活性化をめざして 有山輝雄
- 8.中. 『アメリカ - 大百科』最新版の「日本」 - 外国人の眼からどう見えるのかのメルクマールとして 渡邊和彦
- 8.下. 鍵語(キーワード)読書術 - 「ことば」とシンクロする楽しみ 志野祥司
- 9.上. 『パンチ』151年目の終刊 - 「カートゥーン」(一枚絵時局諷刺漫画)文化の盛衰 - 清水勲
- 9.中. '91年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 9.下. 「異種交配」による雑誌づくり - 拡がる新しい雑誌への夢 清水達夫
- 10.上. マスコミ世界の拡大とPR誌 - 日本IBMのPR誌『無限大』の編集方法について 前野昭吉
- 10.中. 資料・生涯学習と出版産業 - 「産業構造審議会生涯学習振興部会中間報告書」から
- 10.下. 「禁書」の受難と復活 - カレル・チャペックの名著『マサリクとの対話』新版の刊行 栗栖継
- 11.上. 「日本の百冊翻訳の会」発足 - 企業も参加する文化の入超改善策 栗田明子
- 11.中. 新たな電子出版の可能性について - PICTO-ROM(ピクトロム)出版のメリットとは 林克彦
- 11.下. 開放政策が進む中国出版界 - 万国著作権条約、ベルヌ条約加盟後の現状 陳為江
- 12.上. パネルディスカッション・専門家集団としての編集プロダクション 竹下光彦、檜森雅美、山口雄二
- 12.中. 「マスコミ・出版教育」と「就職」 - 専攻する学生に道は開かれているか 諸橋泰樹

12. 下. '92年出版界・読書界10大ニュース

【1993 平成5 年】

1. 上中. 出版・編集の現場を離れても - マスコミ・ジャーナリズム研究誌を創刊するまで 岩崎勝海

1. 下. 個人誌『犯罪月報』創刊の経緯 - 新しい犯罪観を求める契機に 鎌田忠良

2. 上. 「本の年」を迎えた韓国出版界 - キャッチフレーズは「本を開いて、未来を開こう」 館野哲

2. 中. 障害者の読書環境と著作権 - 視覚障害者の情報アクセス権を改善する運動について 磯野正典

2. 下. 清水達夫の雑誌づくり - 生涯一編集者として 清水達夫

3. 上. パソコン通信による本と雑誌の情報交換の記録から - “書きこみ”の記録が本になった

3. 中. 公取委の「書籍及び雑誌の流通実態調査」の概要

3. 下. 極悪「出版法」生誕100年忌捻 取り締まられた探偵小説(上) 長谷川卓也

4. 上. 同上(下) 長谷川卓也

4. 中. 世界の出版統計

4. 下. パネルディスカッション・出版学構築のパラダイムを求めて(上) 箕輪成男、有山輝雄、吉田公彦、天野勝文、遠藤千舟、植田康夫

5. 上. 同上(下)

5. 中下. 日本の出版統計

6. 上. 出版業界人の健康と生活 - 『健康生活に関するアンケート調査』報告書から

6. 中. 海外の日本研究書出版事情 - 様変わりする「ブックス・オン・ジャパン」 渡邊和彦

6. 下. 日本出版学会シンポジウム・ペーパーレス出版の可能性 - 電子出版を中心として 合庭惇、林克彦、菊地実、岩崎勝海

7. 上. 同上(下)

7. 中. 再び『消費税』の足音が聞こえる - 消費税定価訴訟裁判の証人となって感じたこと 小川道明

7. 下. メディアと天皇制 - 『ドキュメント昭和天皇』(全8巻)を完結して 田中伸尚

8. 上. 日本出版学会シンポジウム・多国籍出版社からみた日本の出版(上) 深田良治、皆川純一郎、箕輪成男、中陣隆夫

8. 中. 同上(下)

8. 下. 各地に広がる「病院図書館」 - 「図書館サービス」を続ける病院が増えてきた 菊池佑

9. 上. 子どもの読書環境とSLBC(学校図書館ブッククラブ) 関根登

9. 中. EYEマーク・音声認識推進協議会その後の活動 - 「著作者」と「利用者」の架け橋に 磯野正典

9. 下. '92年出版物販売額の実態と分析 武埴修

10. 上. 「業界統一VAN」実現への展望 黒木重昭

10. 中. 社会主義市場経済下の中国出版学 - 第6回国際出版フォーラムを終えて 箕輪成男

10. 下. いま「印刷学」に求められるもの - 『全検証 ピンクチラシ裁判』刊行にあたって - 横山和雄

11. 上. 世界各国の読書習慣とその養成 - IPA国際読書セミナーの討議から 田島伸二

11. 中. 「ヘア」が食み出してきた - 最近の出版物における「ワーボル」と「ポルトガ」 - 長谷川卓也

- 11. 下. シンポジウム・あなたにとって書店とは何か 片岡隆、浜田裕彦、田中淳一郎、中村文孝、岡名輝夫、加賀美幹雄
- 12. 上. 「著作権審議会マルチメディア小委員会第1次報告書」から
- 12. 中. 韓国'93年「本の年」の成果と課題 館野哲
- 12. 下. '93年出版界・読書界10大ニュース

【1994(平成6年)】

- 1. 上中. 活字と電波のあいだ - 権力との緊張関係に見る相違 - 清水英夫
- 1. 下. 生涯一編集者の軌跡 - 清水達夫1周年に
- 2. 上. シンポジウム・「出版の一極集中」- '93年度日本出版学会秋期研究会 吉川登、今井悠紀、星文男、福嶋聡
- 2. 中. 「FAX調達便(仮称)の概要 - 新客注システム試案 客注システム研究会
- 2. 下. 海外へ向けてのボーダーレス出版の試み - 『英文日本大事典』と『ジャパニーズ・ブックニュース』を読む 渡邊和彦
- 3. 上. ドイツの書籍業学校と「本の学校」を訪問して 花井満
- 3. 中. 「近代日本メディア文化史」の構想 田村穰生
- 3. 下. 『日本語大博物館』を読む - 印刷関連技術者の努力の足跡をたどる 横山和雄
- 4. 上. 書籍広告と広告契約 - 天皇批判書籍広告掲載拒否訴訟高裁判決をめぐる 浜田純一
- 4. 中. 「定番のある書店」見学記 - 共感できるライフスタイルへの実験 構成・胡正則
- 4. 下. 差別的表現と出版の自由 - 「言葉狩

- り 論調を超えて 湯浅俊彦
- 5. 上. 世界の出版統計
- 5. 中下. 日本の出版統計
- 6. 上. 生涯一編集者物語 - 『二人で一人の物語』第2部 回想のマガジンハウス 清水達夫
- 6. 中. 占領軍検閲再考 - 民間検閲支隊(CCD)の同窓会に出席して 有山輝雄
- 6. 下. 出版業界VAN今後の課題 - 出版VAN連絡会の4年間の活動から 黒木重昭
- 7. 上. 出版マーケティング戦略への視点 - 『データが変える出版販売』の刊行にあたって 永井祥一
- 7. 中. マルチメディア時代と出版(上) - 日本出版学会春季研究発表会から 紀田順一郎
- 7. 下. マルチメディア時代と出版(下) 合庭惇
- 8. 上. 「ソウル図書展」出版文化情報団地 - 韓国出版レポート 館野哲
- 8. 中. 台湾の出版流通 - 台湾特別セミナーの講演から 曾繁潜
- 8. 下. 『ガロ』30周年のイロニカルな意味 梶井純
- 9. 上. 性表現問題から差別表現問題へマンガ家へのアンケート調査結果から 篠田博之
- 9. 中. '93年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 9. 下. いま、図書館に思うこと - 東村山市立図書館20周年にあたって 鈴木喜久一
- 10. 上. アイマーク音声訳推進運動の哲学 - 「活字障害者」からの提言 望月優
- 10. 中. 病院図書館全国実態調査を終えて 菊池佑
- 10. 下. 電子出版と納本制度 - 21世紀の「日本国の蔵書」を築くために

- 11上. ヨーロッパ各国の出版物再販制の
動向 伊藤暢章
- 11.中. 再販制は存続するか - 焦眉の消費
税問題と再販制を考える - 小川道
明
- 11.下. 「博文館日記」の100年 浅井康男
- 12.上. 大江健三郎ノーベル文学賞受賞の
反響 渡邊和彦
- 12.中. 日本著作権輸出センターの10年
栗田明子
- 12.下. '94年出版界・読書界10大ニュース

【1995〔平成7年〕】

- 1.上中. エディターシップの視座 外山滋
比古
- 1.下. 20周年を迎えた地方・小出版流通セ
ンター 川上賢一
- 2.上. アジアの出版と日本 - 21世紀に向
けて何が出来るか
- 2.中. 阪神大震災の中で考えたメディア
のこと 湯浅俊彦
- 2.下. 資料・「出版物再販制の意義」日本書
籍出版協会、日本雑誌協会
- 3.上. 資料・「再販制見直し 論議の中から
- 3.中. 資料・読者に貢献する再販制度 日
本出版取次協会
- 3.下. '95アジア・太平洋出版連合(APPA)
フォーラムに参加して 上野幹夫
- 4.上. マルチメディア時代の編集者 - 出
版物のデジタル化とデータの蓄積
がもたらすもの 鈴木健介
- 4.中. 対談・出版新時代のエディターシ
ップ 西村繁男、藤脇邦夫、植田康夫
- 4.下. 資料・「出版物再販制の意義」その2
日本書籍出版協会、日本雑誌協会
- 5.上. 世界の出版統計
- 5.中下. 日本の出版統計
- 6.上. 資料・再販問題検討小委員会2月23
日のヒアリングに関する補足 日

- 本出版取次協会
- 6.中. 「出版文化産業ビジョン21」概要版
出版文化産業振興財団
- 6.下. 『絞首台からのレポート』チェコ語
新版を読んで 栗栖継
- 7.上. 活字文化懇談会の再販制度への共
同見解 活字文化懇談会
- 7.中. 「国際子ども図書館」の設立をめざ
して 肥田美代子
- 7.下. 書店の「個性化」とは何か - 大型店
とチェーン店のはざまで考える
原田福夫
- 8.上. 「灰色文献」と阪神大震災 - 「灰色文
献探偵団」- 団員の近況報告 植村
達男
- 8.中. 再販適用除外が認められる著作物
の取扱いについて - 政府規制等と
競争政策に関する研究会再販問題
検討小委員会中間報告書 公正取
引委員会
- 8.下. 著作物の再販売価格維持制度の見
直し - 「規制緩和に関する論点公
開」から 行政改革委員会規制緩和
小委員会
- 9.上. 出版文化産業ビジョン21刊行記念
シンポジウム・パネルディスカッ
ション21世紀に向けて出版産業を
どう変えるか 井門照雄、植田康
夫、佐藤憲司、志村永一、下中弘、清
田義昭
- 9.中. アイマーク音声訳推進運動の再構
築 北川和彦
- 9.下. '94年出版物販売額の実態と分析
武埴修
- 10.上. 私の 大山緑陰シンポジウム “「本
の学校」の合宿」に参加して 黒木
重昭
- 10.中. 「規制緩和に関する論点公開」対
する意見 日本書籍出版協会、日本
雑誌協会

- 10. 下. 読者のための出版流通改善 日本書籍出版協会、日本雑誌協会
- 11. 上. 「再販適用除外が認められる著作物の取扱いについて(中間報告)を批判する 出版流通対策協議会
- 11. 中. 「規制緩和に関する論点公開」に対する意見メモ 日本新聞労働組合連合、日本出版労働組合連合会
- 11. 下. 全国図書館大会「病院図書館シンポジウム」 菊池佑
- 12. 上. 性資料最近冗報 - 『チャタレイ夫人の恋人』摘発45年にあたり 長谷川卓也
- 12. 中. 著作権制度から見た再販問題 赤尾光史
- 12. 下. '95年出版界・読書界10大ニュース

【1996 平成 8 年】

- 1. 上中. マルチメディア時代の読者と出版社 - 生活者の立場から電子出版を考える 正木鞆彦
- 1. 下. 特集・出版諸団体の「中間報告書」への反論
- 2. 上. 規制緩和に関する意見・要望の状況 公正取引委員会
- 2. 中. 韓国におけるTRIPS協定の施行と著作権法の改定 韓勝憲
- 2. 下. 国際ブックフェアと著作権の売買 粟田明子
- 3. 上. 追悼特集・布川角左衛門 吉田公彦、鈴木徹造、大久保久雄、荘司徳太郎
- 3. 中. 電子ネットワークの倫理ガイドライン 国分明男
- 3. 下. なぜ「自由価格本」を取扱うのか - 深夜叢書社の吉本隆明の著書が最初の試み 川上賢一
- 4. 上. 公開講演会 京の書肆・大阪の書肆 - '95年度日本出版学会 第2回定例研究会 川口正、小野高裕、青木育志
- 4. 中. 電子情報の納本制を考えるために 根本彰
- 4. 下. マルチメディアと灰色文献 - 第2回灰色文献会議に出席して 徳永礼
- 5. 上. 世界の出版統計
- 5. 中下. 日本の出版統計
- 6. 上. 韓国における出版の自由と統制 韓勝憲
- 6. 中. '96ソウル国際ブックフェアと韓国の出版界 館野哲
- 6. 下. 出版業界リストラ私論 藤脇邦夫
- 7. 上. インターネットの普及と出版流通 永井祥一
- 7. 中. 全人的医療サービスに必要な読書と文化 菊池佑
- 7. 下. 消費税率変更で価格表示をどうするのか 吉原秀夫
- 8. 上. '95年出版物販売額の実態と分析 武埴修
- 8. 中. スタートした本格的な大活字本の企画制作 - 弱視者・低視力者を対象に 市橋正晴
- 8. 下. マルチメディア時代に高まる著作権への関心 吉田大輔
- 9. 上. 著作物の再販売価格維持制度の見直し 行政改革委員会規制緩和 small 小委員会
- 9. 中. 出版業界VANの現在 黒木重昭
- 9. 下. 第6回北京ブックフェアと中国の出版界 林伸郎
- 10. 上. IFLA 国際図書館連盟 北京大会報告 河村宏
- 10. 中. 消費税問題 - 永遠に悩み続けるのか 野崎保志
- 10. 下. CD-ROM化された『マルクス=エンゲルス全集』 河上裕一
- 11. 上. 規制緩和 small 小委員会「論点公開」に対する意見 - 出版物再販制度の果た

す役割 日本書籍出版協会、日本雑誌協会

- 11. 中. 「規制緩和に関する論点公開」に対する意見書 日本出版労働組合連合会
- 11. 下. 世界規模の本の「立ち読み」の実現へ - インターネット - honya プロジェクトの概要について 古瀬幸広
- 12. 上. 「規制緩和意見」に反論する 出版流通対策協議会
- 12. 中. デジタルパブリッシングの発想とは何か - 日本デジタル平凡社設立の経緯 龍沢武
- 12. 下. '96年出版界・読書界10大ニュース

【1997 平成9年】

- 1. 上中. なぜ編集者は消えていくのか？ 鈴木均
- 1. 下. 闘い、そして逝った書店人の無念 - 柴田良平氏と小川道明氏の「遺書」 村上信明
- 2. 上. メディアとしての本屋 - 『本屋さんか』をパソコン通信、インターネットで復刻したい 帰山健一
- 2. 中. マルチメディア百科『エンカルタエンサイクロペディア』の船出 奥田敏夫
- 2. 下. 電子出版市場は自立できるか - CD-ROMかネットワーク出版か 合庭惇
- 3. 上. 電子商取引と出版界 - 電子公証システムの実証実験について 萩原篤久
- 3. 中. 「読書」と「癒し」 - 読書と治療が結びつくとき 菊池佑
- 3. 下. 双方向通信時代の著作物等の権利の見直し 吉田大輔
- 4. 上. 最終局面を迎えた再販問題 - 「政府規制等と競争政策に関する研究会」

の「論点の整理」にそって 菊池明郎

- 4. 中. 電子図書館に何を期待するか - パイロット電子図書館実証実験モニタの報告から 田屋裕之
- 4. 下. 多彩な展開を見せたパリ図書展「日本年」 - 第17回サロン・ド・パリ 渡邊和彦
- 5. 上. 世界の出版統計
- 5. 中下. 日本の出版統計
- 6. 上. 再販制の弾力的運用を提言する - 出版物とは何かの原点に立ちかえって 相賀徹夫
- 6. 中. 「ページネーション・マニュアル」の策定をめざして - 「日本語の文字と組版を考える会」の誕生とその活動 柴田忠男
- 6. 下. 私の紀田順一郎論 - 『紀田順一郎著作集』刊行にあたって 横田順弥
- 7. 上. 『季刊・本とコンピュータ』創刊 - 編集同人による新たな試みが実現！ 津野海太郎
- 7. 中. 再販制度を検討するための政府規制等と競争政策に関する研究会議事概要 - 書籍・雑誌の再販制度について・その4
- 7. 下. いま、再販問題で何をすべきか・「意見交換会」から - 再販問題を検討するための政府規制等と競争政策に関する研究会議事概要
- 8. 上. 『フォーカス』週刊新潮『販売中止の波紋と公的規制 湯浅俊彦
- 8. 中. FBF - 現在と将来の役割 - 出版文化国際交流会主催の講演から ベーター・ヴァイトハウト
- 8. 下. 著作物の再販売価格維持制度の見直し - 「規制緩和」に関する論点公開から 行政改革委員会規制緩和小委員会
- 9. 上. 書店は「コンビニ化」で再生する -

- 知的情報の発信機能を生かして
田辺聡
- 9.中. '96年出版物販売額の実態と分析
武埴修
- 9.下. ここまで来たアメリカの病院図書館 - 患者への医療情報提供の現場を見る 菊池佑
- 10.上. 出版物の再販制は必要か?? - 『書籍再販と流通寡占』を読んで 神田肇
- 10.中. 「NIPPON」の出版事情 - 日本の出版業界を海外にどう説明するのか 藤本信彦
- 10.下. 「青空文庫」- ある私設電子図書館の試み - インターネットと結びついた電子本の公開 富田倫生
- 11.上. 対談・雑誌の時限再販化の検討を - 現行再販制の弾力的運用をどうするか 松原治、相賀徹夫
- 11.中. 音楽用CD等の再販制度について - 再販問題を検討するための政府規制等と競争政策に関する研究会議事概要
- 11.下. 第8回国際出版研究フォーラムを終えて 吉田公彦
- 12.上. 特集・再販制論議への視座 大塚信一、木下修
- 12.中. 著作物再販制度について(報告書作成に向けた全般的検討)- 再販問題を検討するための政府規制等と競争政策に関する研究会議事概要
- 12.下. '97年出版界・読書界10大ニュース

【1998(平成10)年】

- 1.上.中. 日本の出版流通を検証する 永井祥一 私のジャーナリズム論 吉弘香苗 大型店出店の理由 岡充孝、行政改革小委員会最終報告書
- 1.下. 著作権の集中管理に関する新たな波 吉田大輔
- 2.上. 著作物再販適用除外制度の取扱いについて 公正取引委員会
- 2.中. 雑誌と掲載広告の構造 諸橋泰樹
- 2.下. 東京国際ブックフェア「フランス年」行事 渡邊和彦
- 3.上. 国内インターネット規制の動向 福富忠和
- 3.中. 公取委説明・再販問題をこう考える
- 3.下. 再販制の弾力的運用への試案 福島聡 独禁法上の著作物と著作権法の著作物についての私の私見 相賀徹夫
- 4.上. 第8回八バナ国際図書展レポート 中陣隆夫
- 4.中. 再販制度の弾力的運用と流通改善のために 再販実務検討委員会
- 4.下. 公取委の「著作物再販制度の取扱いについて」(全文)
- 5.上. 世界の出版統計 編集部
- 5.中下. 日本の出版統計 編集部
- 6.上. 店頭バーゲンセールの可能性 田中淳一郎
- 6.中. 日本出版学会30周年を前に 林伸郎
- 6.下. ブックセラピーのすすめ 菊池佑
- 7.上. 出版社からの再販制度の弾力的運用案 菊池明郎
- 7.中. 新・発想のテキストビューアー「T-Time」 萩野正昭
- 7.下. 行革推進本部と公取委の結論と再販制擁護のために 出版流通対策協議会
- 8.上. データベースの法的保護の在り方について 通産省産業政策局知的財産政策室
- 8.中. 弱視者、高齢者の文字環境の改善をめざして 市橋正光
- 8.下. 空から「電子書籍」が降ってくる 鈴木雄介
- 9.上. '97年出版物販売額の実態と分析

武埴修

- 9.中. 印刷物の未来 室謙二
- 9.下. 『日本の出版印刷労働運動』を読んで 岩崎勝海
- 10.上. 受刑者にも図書館サービスを 中根憲一
- 10.中. イギリスの病院患者図書館 菊池佑
- 10.下. 駅や路線の画期的基本データの刊行 長谷川卓也
- 11.上. 座談会・再販制度弾力運用について 相賀昌宏、下向馨、青木高次、樋口嘉重
- 11.中. リスクを負う時代の書店 梅原正
- 11.下. 「児童買春・児童ポルノ禁止法案」と出版の自由 湯浅俊彦
- 12.上. 「著作物再販制度の取扱いについて」に関する内閣総理大臣の答弁から
- 12.中. 類書解題「格闘技としての老人介護」をめぐる 松田政男
- 12.下. '98年出版界・読書界10大ニュース

【1999(平成11)年】

- 1.上中. 「出版ビジネス論」序説 藤脇邦夫、試論「有害図書」と出版倫理活動 橋本健午 著作物再販制度化における関係業界の流通・取引慣行改善等の取組状況等について 公正取引委員会
- 1.下. 100歳を迎えた著作権法 吉田大輔
- 2.上. 出版データのネットワーク上での提供実験について 田屋裕之
- 2.中. ネットワークでの電子図書館・電子出版の技術 川畑和夫
- 2.下. 世界のブッククラブの現状 栗田明子
- 3.上. 面白くて為になり感動させて得さ

せる 植田康夫

- 3.中. 答申・21世紀を展望した我が国の納本制度の在り方(要旨) 納本制度調査会
- 3.下. 再販制、規制緩和、弾力運用などについて出版流通対策協議会はこう考える 菊地泰博
- 4.上. 客注品流通実態調査報告書(抜粋) 東京都書店商業組合青年部
- 4.中. 電子書籍コンソーシアムとBOD総合実験の現在 小林龍生
- 4.下. 日韓出版交流の現状 亜州奈みづほ
- 5.上. 世界の出版統計 編集部
- 5.中下. 日本の出版統計 編集部
- 6.上. コンピュータ時代の「社史」づくり 村橋勝子
- 6.中. 「Books」の現状と将来 本間広政
- 6.下. 図書館法改正の問題点 西村一夫
- 7.上. 韓国の「有害図書」規制の現状 館野哲
- 7.中. 書店の景品類規制改正案 出版物小売業公正取引協議会
- 7.下. なぜ病院図書館なのか 菊池佑
- 8.上. 著作権審議会権利の集中管理小委員会専門部会中間まとめの概要 文化庁
- 8.中. 「ブックキング」・読者の「読みたい」に 応える ブックキング設立準備会
- 8.下. '98年出版物販売額の実態と分析
- 9.上. 活版工組合の100周年と2賞の受賞にあたって 横山和雄
- 9.中. 弱視者・高齢者向けの大活字出版の現状 市橋正光
- 9.下. スウェーデンの病院図書館の現状 菊池佑
- 10.上. デジタル出版の期待 箕輪成男 半世紀の蓄積から21世紀を展望する 紀田順一郎 出版ニュース社創立50周年にあたって・出版界50

年のあゆみ

- 10. 中. 読者を基点とした出版流通改善の
試み 小林正雄
- 10. 下. 座談会・流通改善&再販弾力運用を
考える 相賀昌宏、菊池明郎、阿部
信行、大野隆樹、柴崎繁、清田義昭、
樋口嘉重
- 11. 上. プリント・オン・デマンド(POD)事業
の概要 眞田毅
- 11. 中. 著作権審議会権利の集中管理専門
部会中間まとめに対する意見書
(社)日本書籍出版協会、(社)日本雑
誌協会、出版者著作 権協議会
- 11. 下. 出版社にとっての文字コード 小
林龍生
- 12. 上. 本が好き、本屋が好き、本屋の力
パーも好き 中西晴代
- 12. 中. 尾崎秀樹さんと大衆文学 清原康
正
- 12. 下. '99年出版会・読書界10大ニュース
編集部、'99年出版界回顧 編集部

出版ニューズ社刊行図書目録

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
1955(昭和31)年					
出版ニューズ社編	新刊四季報1955年	55.9	B6	314	250
出版ニューズ社編	新刊四季報1955年	55.11	B6	213	180
1956(昭和31)年					
出版ニューズ社編	新刊四季報1955年	56.2	B6	249	170
出版ニューズ社編	新刊四季報1956年	56.5	B6	170	130
出版ニューズ社編	新刊四季報1956年	56.8	B6	219	170
出版ニューズ社編	新刊四季報1956年	56.10	B6	211	170
出版ニューズ社編	現代の出版人五十人集	56.7	B5	51	300
出版ニューズ社編	日本の出版社1957版	56.10	B6	165	150
1957(昭和32)年					
出版ニューズ社編	新刊四季報1956年	57.2	B6	229	180
出版ニューズ社編	新刊四季報1957年	57.5	B6	170	150
出版ニューズ社編	新刊四季報1957年	57.7	B6	239	190
出版ニューズ社編	新刊四季報1957年	57.10	B6	210	210
1958(昭和33)年					
出版ニューズ社編	新刊四季報1957年	58.2	B6	312	240
出版ニューズ社編	新刊四季報1958年	58.5	B6	240	200
出版ニューズ社編	新刊四季報1958年	58.8	B6	364	270
出版ニューズ社編	日本の出版社1958年版	58.9	B6	259	250
出版ニューズ社編	新刊四季報1958年	58.11	B6	245	220
1959(昭和34)年					
出版ニューズ社編	日本の出版社1960年版	59.10	B6	318	250
1961(昭和36)年					
出版ニューズ社編	戦後・戦前・海外 辞典・事典総合目録	61.10	B6	246	330
出版ニューズ社編	日本の出版社1962年版	61.12	B6	350	380
1962(昭和37)年					
出版ニューズ社編	全集総合目録1963年版 - 戦後の継続出版物	62.11	B6	157	370

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
藤井誠治郎遺稿回顧 五十年刊行会編	回顧五十年 藤井誠治郎遺稿	62.11	A5	272	非売
1963(昭和38)年					
出版ニュース社編	日本の雑誌総覧1963年版	63.11	A5	391	800
出版ニュース社編	日本の出版社1964年版	63.12	B6	290	450
1964(昭和39)年					
山崎安雄	岩波文庫をめぐる文豪秘話 - 漱石・鴎外・茂吉・露伴・真彦 -	64.4	B40	318	340
植原路郎	実用本の辞典	64.4	B6	354	600
岩猿敏生・岡本正 ・林泉之介編	日本文庫めぐり - 蔵所の命運 -	64.9	B40	254	380
出版年鑑編集部編	新書・全書総合目録	64.11	B6	451	450
1965(昭和40)年					
布川角左衛門・美作太郎共著	著作権・出版権問答	65.3	B6	362	800
瀬沼茂樹	本の百年史 - ベストセラ - の今昔	65.9	B6	358	680
出版ニュース社編	日本の出版社1966年版	65.11	B6	311	600
出版年鑑編集部	辞典・事典総合目録付 付 便覧・要覧・ハンドブック ・ポケットブック	65.12	B6	451	450
1967(昭和42)年					
出版ニュース社編	日本雑誌総覧1967年版	67.1	A5	485	1500
出版ニュース社編	全集総合目録1967年版	67.5	B6	379	1000
杉村武	近大日本大出版事業史	66.11	A5	408	1600
1968(昭和43)年					
出版ニュース社編	日本の出版社1968年版	68.1	B6	338	800
出版ニュース社編	辞典・事典総合目録69	68.11	B6	270	800
1969(昭和44)年					
出版ニュース社編	日本雑誌総覧1970年版	70.3	A5	522	2200
鈴木敏夫	出版 - 好不況下 興亡の一世紀	70.7	A5	726	3500
子ども本の研究会編	どの本よもうかな？ 子どもの本を選ぶ資料1970年版	70.8	A5	96	1500

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
1971(昭和46)年					
矢作勝美	伝記と自伝の方法	71.9	B6	280	1200
出版ニュ - ス社編	日本の出版社1972年版	71.9	B6	414	1500
布川角左衛門他編	出版事典	71.12	A5	660	6500
1972(昭和47)年					
出版ニュ - ス社編	日本雑誌総覧1972年版	72.3	A5	516	2600
出版ニュ - ス社編	全集総合目録1973年版	72.10	B6	334	1500
紀田順一郎	書物・情報・読書・知識整理と活用の技術	72.11	B6	264	980
1973(昭和48)年					
寿岳文章	書物の世界	73.8	B6	301	1300
恩地孝四郎	本の美術	73.8	B5135解説24		3500
出版ニュ - ス社編	日本の出版社1974年版	73.10	B6	424	1800
1974(昭和49)年					
出版ニュ - ス社編	辞典・事典総合目録 74	74.1	B6	268	1800
出版ニュ - ス社編	全集総合目録1975年版	74.11	B6	303	1900
1975(昭和50)年					
出版ニュ - ス社編	日本雑誌総覧1975年版	75.3	A5	632	4200
出版ニュ - ス社編	日本の出版社1976年版	75.10	B6	468	2200
1976(昭和51)年					
出版ニュ - ス社編	本の問答333選 - 付録・出版界を築いた人々	76.1	B6	394	1100
出版ニュ - ス社編	辞典・事典総合目録77	76.12	B6	254	2000
1977(昭和52)年					
国立国会図書館参考書誌部編	全国特殊コレクション要覧 - 改訂版	77.1	A5	263	1500
東村山市立図書館誌	地方出版物目録1977年版	77.8	B5	261	2800
出版ニュース社編	日本の出版社1978年版	77.10	B6	522	2500
出版ニュース社編	全集総合目録1978年版	77.12	B6	320	2500
1978(昭和53)年					
鈴木均	出版の現場学 - 発想と方法	78.12	B6	232	1300
著作権資料協会編	著作権事典	78.12	B6	546	4800
1979(昭和54)年					

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
出版ニュース社編	日本の雑誌総覧1979年版	79.2	A5	739	4800
朝日新聞学芸部編	ふみくら - 日本の文庫案内	79.6	小B6	290	800
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編1. - 世界の古本屋	79.9	小B6	410	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編2. - 書物と読書	79.11	B6	386	2500 限定版17000
出版ニュース社編	日本の出版社1980年版	79.11	B6	485	2800
出版ニュース社編	辞典・事典総合目録'80	79.12	B6	302	2500
1980(昭和55)年					
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編3. - 書物の敵	80.2	B6	300	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編12. - 本の四千年史	80.5	B6	377	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編6. - ある書物の自叙伝	80.9	B6	376	2500 限定版17000
荘司徳太郎・清水文吉共著	日配時代史 - 現代出版流通の原点	80.10	B5	264	4200
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編5. - 印刷文化史	80.11	B6	374	2500 限定版17000
出版ニュース社編	全集総合目録1981年版	80.12	B6	489	3000
1981(昭和56)年					
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編4. - 美しい書物	81.4	B6	386	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編8. - 書物雑記	81.7	B6	358	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編13. - 紙魚妄言	81.10	B6	390	2500 限定版17000
出版ニュース社編	日本の出版社1982年版	81.11	B6	519	3300
出版ニュース社編	辞典・事典総合目録82	81.11	B6	386	3000
1982(昭和57)年					
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編7. - 装丁の歴史	82.2	B6	346	2500 限定版17000

編・著者名	書名	発行年月日	判型	ページ数	定価(円)
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編9. - 世界印刷文化史年表	82.6	B6	334	2500 限定版17000
斎藤夜居	愛書家の散歩	82.11	A5	402	2500 限定版18000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編10. - 日本の書物	82.12	B6	342	2500 限定版17000
出版年鑑編集部	全集総合目録1983年版	82.12	B6	574	3300
1983(昭和58)年					
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編14. - 菟書よもやま話	83.1.31	B6	330	2500 限定版17000
庄司浅水	庄司浅水著作集書誌編11. - 愛書六十五年	83.4.30	B6	450	2500 限定版17000
出版ニュース社編	日本の出版社1984年版	83.11.25	B6	568	3500
1984(昭和59)年					
庄司浅水・吉村善太郎共著	目で見る本の歴史	84.1	B5	542	8800 限定25部25万円限定版28000
出版ニュース社編	日本雑誌総覧1984年版	84.3	A5	790	5800
彌吉光長	辞典活用ハンドブック	84.6	B6	275	1500
美作太郎	著作権(出版の現場から)	84.10	B6	305	1800
尾崎一雄他著	思い出の本	84.10	B6	273	1800
斎藤夜居	続愛書家の散歩	84.11	A5	372	3000 限定版18000
出版ニュース社編	辞典・事典総合目録85	84.11	B6	490	3500
1985(昭和60)年					
清水達夫	二人で一人の物語 - マガジンハウスの雑誌づくり	85.1	B6	384	1300
著作権資料協会編	著作権事典改訂版	85.1	B6	390	5700
山田朝一	荷風書誌	85.11	B5	542	9500 限定版32000
出版ニュース社編	出版データブック(45~84)	85.12	B5	137	1400
出版ニュース社編	日本の出版社1986年版	85.12	B6	583	3500
出版ニュース社編	全集総合目録1986年版	85.12	B6	559	3500

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
1986(昭和61)年					
庄司浅水	書物よもやま話	86.7	B6	372	2400 特装本25000
矢作勝美	活字 表現・記録・伝達する	86.12	B6	303	2000
紀田順一郎監修	本の情報事典	86.12	B6	346	1600
1987(昭和62)年					
朝倉治彦	書庫縦横	87.3	B6	398	3800
能勢仁	新書店発想法	87.11	B6	225	1300
出版ニュース社編	日本の出版社1988年版	87.11	B6	642	3500
佐高信	佐高信の日々に読書あり	87.12	B6	331	1600
1988(昭和63)年					
清水凡亭	絵のある俳句作品集	88.2	B5	2000	
上笙一郎	児童文化書々遊々	88.7	B6	360	3300 限定版15万円
国立国会図書館 百科編集委員会編	国立国会図書館百科	88.12	B6	414	2200 1000
1989(平成元)年					
出版年鑑編集部編	辞典・事典総合目録'89	89.1	B6	507	3811
石川弘義・尾崎秀樹	出版広告の歴史 一八九五～一九四一	89.2	B5	566	13000
出版年鑑編集部編	日本の出版社1990年版	89.12	B6	700	3600
日本著作権協議会編	判例でわかる著作権 最新版	89.12	A5	550	3000
1990(平成2)年					
出版年鑑編集部編	全集総合目録1990年版	90.1	B6	433	3800
1991(平成3)年					
紀田順一郎監修	新版 本の情報事典	91.1	B6	350	1800
日本著作権協議会編	判例でわかる著作権 昭和63年・平成元年版	91.4	A5	579	3500
出版マーケティング研究会編	書籍出版のマーケティング - いかにか本を売るか	91.6	B5	288	3000
清水凡亭	新版絵のある俳句作品集	91.9	B5	137	3000
尾崎秀樹	書物の運命 - 近代図書文化の変遷	91.10	四六	2913	3000

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
出版年鑑編集部編	日本の出版社1992年版	91.12	B6	3800	3000
1992(平成4)年					
出版年鑑編集部編	辞典・事典総合目録92	92.1	B6	554	3900
金亨燦	証言・朝鮮人の見た戦前期出版界 ー編集者の回想	92.1	B6	470	3000
田村紀雄	日本のリトルマガジン - 小雑誌の戦後思想史	92.3	A5	540	3800
渡辺勝二郎	紙の博物誌	92.12	四六	326	2500
出版ニュース社編	新版出版データブック1945～1995	92.12	B5	161	3000
1993(平成5)年					
出版年鑑編集部編	日本の出版社1994年版	93.8	B6	726	3900
1994(平成6)年					
国立国会図書館編	稀本あれこれ	94.5	B6	550	3600
1995(平成7)年					
出版年鑑編集部編	辞典・事典総合目録'96	95.10	B6	750	4500
横山和雄	編集出版用語誤用集	95.10	B6	233	1553
荘司徳太郎	私家版・日記史	95.11	A4	447	10000
出版年鑑編集部	日本の出版社1996年版	95.12	B6	736	4500
1996(平成8)年					
鈴木徹造	出版人物事典・明治・平成 物故出版人	96.1	B6	365	2884
1997(平成9)年					
武埴修	流通データでみる出版界1974～1995	97.3	B5	292	4429
出版ニュース社編	出版データブック1945～1996	97.9	B5	185	2400
出版年鑑編集部	日本の出版社1998年版	97.10	B6	736	4500
1998(平成10)年					
浜崎 廣	雑誌の死に方	98.3	四六	290	2200
横山和雄 著	日本の出版印刷労働運動 戦前・戦中篇 上・下	98.6	A5	1079	9500
1999(平成11)年					
吉田大輔	著作権が明解になる10章	99.1	四六	332	2200
前川恒雄	前川恒雄著作集 第1巻 図書館について	99.2	四六	219	2500

編・著者名	書名	発行 年月日	判型	ページ数	定価 (円)
前川恒雄	前川恒雄著作集 第2巻 図書館の世界	99.3	四六	212	2500
文化庁内著作権法令研究会 監 修 社団法人著作権情報センター編	新版著作権事典	99.3	A5	616	12000
前川恒雄	前川恒雄著作集 第3巻 図書館の変革	99.4	四六	230	2500
前川恒雄	前川恒雄著作集 第4巻 人間の図書館へ	99.5	四六	242	2500
出版年鑑編集部	日本の出版社2000年版	99.11	B6	736	4500

『出版年鑑』刊行図書目録

発行年月日	判型	ページ数	定価 (円)	発行年月日	判型	ページ数	定価 (円)		
1951(昭和26)年版	53.4.20	B6	1312	950	1982(昭和57)年版	82.4.20	B6	2023	9500
1952(昭和27)年版	52.6.10	B6	1290	1200	1983(昭和58)年版	83.4.25	B6	2049	9700
1953(昭和28)年版	53.5.25	B6	1478	1400	1984(昭和59)年版	84.4.25	B6	2098	9800
1954(昭和29)年版	54.6.5	B6	1656	1500	1985(昭和60)年版	85.4.25	B6	2144	9800
1955(昭和30)年版	55.4.30	B6	1750	1500	1986(昭和61)年版	86.4.25	B6	2121	9800
1956(昭和31)年版	56.4.20	B6	1900	1600	1987(昭和62)年版	87.4.25	B6	2331	9900
1957(昭和32)年版	57.4.22	B6	2038	1700	1988(昭和63)年版	88.4.25	B6	2330	9900
1958(昭和33)年版	58.4.25	B6	2104	1800	1989(平成1)年版	89.4.25	B6	2381	11000
1959(昭和34)年版	59.5.8	B6	2102	1900	1990(平成2)年版	90.5.25	B6	1034	13000
1960(昭和35)年版	60.5.30	B6	2260	1900				1800	
1961(昭和36)年版	61.5.30	B6	2208	2400	1991(平成3)年版	91.5.25	B6	1119	13000
1962(昭和37)年版	62.5.30	B6	2138	2600				1802	
1963(昭和38)年版	63.5.30	B6	2174	2800	1992(平成4)年版	92.5.14	B6	1135	13000
1964(昭和39)年版	64.5.25	B6	2248	3000				1868	
1965(昭和40)年版	65.5.10	B6	2170	3300	1993(平成5)年版	93.5.15	B6	613	13000
1966(昭和41)年版	66.5.10	B6	2322	3600				1991	
1967(昭和42)年版	67.5.10	B6	2372	3800	1994(平成6)年版	94.5.20	B6	621	14000
1968(昭和43)年版	68.5.15	B6	2330	3900				2099	
1969(昭和44)年版	69.5.20	B6	2330	4100	1995(平成7)年版	95.5.30	B6	625	15000
1970(昭和45)年版	70.5.20	B6	2398	4300				2538	
1971(昭和46)年版	71.5.20	B6	2424	4500	1996(平成8)年版	96.6.7	B6	640	15000
1972(昭和47)年版	72.5.20	B6	2213	4800				2713	
1973(昭和48)年版	73.5.10	B6	2316	5300	1997(平成9)年版	97.5.23	B6	625	18000
1974(昭和49)年版	74.5.10	B6	1960	6300				2260	
1975(昭和50)年版	75.5.10	B6	1984	7000				629	
1976(昭和51)年版	76.5.10	B6	2014	7600	1998(平成10)年版	98.5.22	B6	685	18000
1977(昭和52)年版	77.5.10	B6	1932	8000				2338	
1978(昭和53)年版	78.4.20	B6	2022	8400				651	
1979(昭和54)年版	79.4.20	B6	2014	8600	1999(平成11)年版	99.5.24	B6	697	18000
1980(昭和55)年版	80.4.20	B6	2058	8900				2352	
1981(昭和56)年版	81.4.20	B6	2001	9200				658	